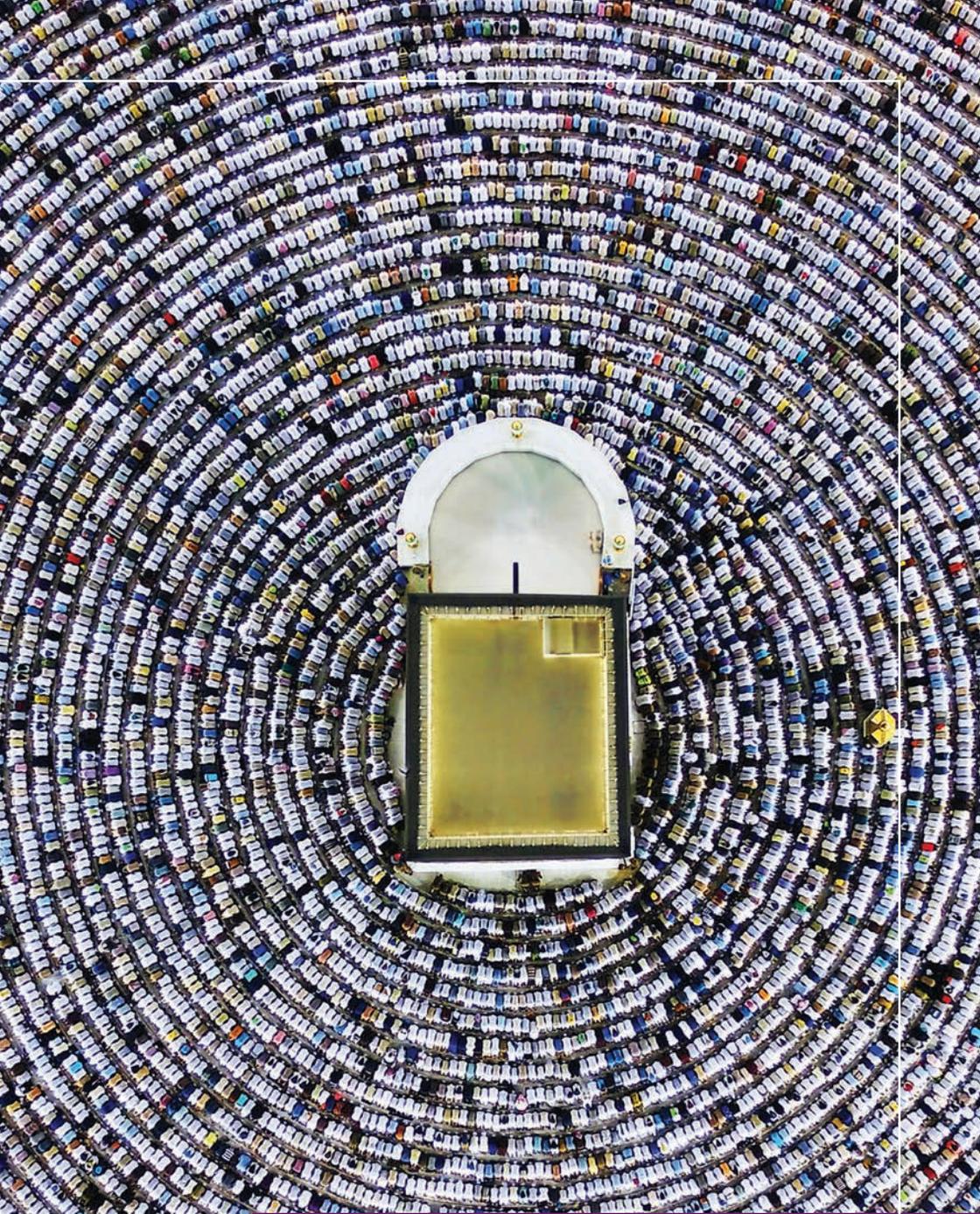


イスラームを 知ろう





カアバ殿に向かって礼拝するムスリムたち。カアバ殿は預言者イブラーヒーム（アブラハム）（彼の上に平安あれ）が神の命により建築し、ムスリムたちは世界中のどこからでも、この方向に向かって礼拝を行うように命じられています。

THIS IS
ISLAM

دار الدليل المعاصر للنشر والتوزيع، ١٤٤٣هـ (ح)

فهرسة مكتبة الملك فهد الوطنية أثناء النشر

باهمام ، فهد بن سالم

هذا هو الإسلام باللغة اليابانية. / فهد بن سالم باهمام - ط١ - الرياض، ١٤٤٣هـ

١٥٦ ص، ٢٢ X ١٥ سم

ردمك: ٩٧٨-٦٠٣-٩١٧٠١-٧-٤

١- الإسلام - مبادئ عامة أ.العنوان

١٤٤٣/١٦٣١

ديوي ٢١١

رقم الإيداع : ١٤٤٣/١٦٣١

ردمك: ٩٧٨-٦٠٣-٩١٧٠١-٧-٤



イスラームを 知ろう

ファハド・サーリム・バーハムマーム



- メディアを賑わす宗教について、本当のところを少し知りたい。
- 今、世界で最も勢いがあるといわれる宗教について、ちょっと考えてみたい。
- 隣人の文化や死生観・宗教を知るのは、ワクワクする。
- 信頼できる情報を得て、自分の頭でイスラームについて判断するのもいいかも。

ひとつでも当てはまるものがあつたなら、
この冊子はあなたのために書かれています。

クルアーンはどこからきたのでしょうか。

84

この問いは、ムスリムにとっての聖典であるクルアーンと預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）について語る時、すぐに頭に浮かぶものです。この問いを尋ねる資格は私たちにはないのでしょうか？ムスリムの出す答えを受け入れないといけないのでしょうか？



目次



思考を刺激する質問 _____ 12

- イスラームという宗教 ● イスラームという言葉の意味
- イスラームはすべての神の使徒の教え



イスラームの普遍性 _____ 16

- 環境保護は信仰の一部
- イスラームは学びと科学を奨励しています
- イスラームは人間のすべてを包括しています
- イスラームには現世と来世があります
- イスラームは他者との交流を推奨します



崇拝される神、創造主はただ御一人 _____ 32

- 宇宙の理とイスラーム法の調和
- イスラームには聖職者がいません
- 入信するために特別な儀式は必要ですか？



神の使徒の真実 _____ 40

- 彼らは人間です ● 彼らの地位は誇張されるべきではありません
- イスラームにおける預言者たちと使徒たち



イスラームからみたイーサー _____ 44



イスラームの使徒とは誰か? _____ 50

- イスラームの使徒の名前
- 彼はすべての人のための使徒
- クルアーンは彼に啓示された
- 彼は最後の預言者であり使徒
- イスラームの使徒、ムハンマド(彼の上に平安あれ)の生涯



公平な人々から見た預言者 _____ 56
ムハンマド



預言者ムハンマドの生活と _____ 62
高い道德の逸話

- 謙虚さ ● 慈悲と思いやり ● 公正さ ● 博愛と気前のよさ
- 忍耐と寛容 ● 現世への禁欲 ● 不変の忠義



預言者ムハンマドの言葉 _____ 72



クルアーン～永遠の奇跡 _____ 78

- クルアーンを暗記することの比類なさ
- 驚くべき語り掛け



クルアーンはどこから来たのでしょうか? _____ 84

- 繰り返される非難 ● 天才の閃きと考えないのはどうしてでしょう
- ムハンマド(彼の上に平安あれ)が聖書を書き換えただけでは?
- 重要な歴史的事実 ● フェーティハ章(開端章) ● 誰もが自分の結論をもっています



イスラームにおける崇拝行為の真実 _____ 94

- イスラームの柱 ● 道義的責任と苦痛はなぜあるのでしょうか?
- 礼拝 ● 定められた喜捨(ザカート) ● 断食
- 巡礼(ハッジ)



イスラームにおける家族 _____ 110

- 家族を形成するには結婚することが原則です
- 男女に関係なく、誰であれ家族の一員には敬意が払われます
- 両親を敬い、敬意と感謝を示し、彼らの面倒を見て、最後まで従順であるよう勧められています
- 両親に子供の権利を守り、どのような状況にあっても同等に正しく扱うように命じています
- 肉親の絆を保つことが義務づけられています



イスラームにおける家族

110

現代では絆が失われたことで、家族はただ、複数が一つの家の鍵を持つ個人の集合体となり果てています。



宗教と理性の対立

136

一部の人々は宗教は理性と科学に対立する、と誤って信じているようです。彼らによれば宗教は幻想、神話、迷信の源であり、一方で科学と哲学は科学的実験と手法を経て体系だった知識に至る道です。しかし、熟慮してみれば、これが全くの間違いであることは明白です。



イスラームにおける女性 _____ 116

- 女性を尊重する規定の例
- 女性はより大事にされなければならない、とイスラームは強調しています
- イスラームには両性の間に争いはありません
- 男性と女性の関係
- イスラームにおける男性と女性の関係
- マハラムではない男性の前で女性はなぜヒジャーブを着用するように命じられているのでしょうか？



イスラームにおける食事の規制 _____ 126

- 豚 ● 酔わせるもの
- イスラームにおけるアルコール飲料の取り扱いはどうなっているのでしょうか？



罪と悔悟 _____ 132



宗教と理性の対立 _____ 136

- クルアーンが言及する、明確な思考を妨げるもの



イスラームは平和の宗教 _____ 142

- イスラームは現代において最も急速に拡大している宗教です
- イスラームを受け入れるのに強制はあったのでしょうか？



イスラームは一部のムスリムによる悪行に対峙します _____ 148

- 新しい視点



思考を刺激する質問



誰

誰でも一度は考えることでしょう。「自分とは？どこからきてどこへいくのか？死んだらどうなる？存在の意味とは？全てが死という無に帰するなら、この束の間の生とは一体？」

ムスリムや信仰を持つ人々にとって、公正な創造主と死後の世界を信じない人生というものは意味がなく、まったくの不条理そのものです。善行が報われると信じないのであれば、人生は償われない苦痛を伴う無意味で無駄なものです。



公正で賢明な創造主の存在を抜きに、人生の矛盾、善悪、そして苦しみや試練の真の目的を理解することは不可能です。

信仰を持つ人々は、公正で賢明な創造主の存在を抜きに、人生の矛盾、不正そして苦しみを理解することは不可能だと信じています。創造主は全てを管理され、人の生死を司り、一人一人の行いに応じた報奨を授けます。

こうして、正義、愛情、思いやり、誠実さ、忍耐そして慈悲といった価値観や概念への深い信頼が、個人の性質と一致するという事実になります。そして、試練には真の目的と意味が、達成には味わいが、そして忍耐には甘美さが与えられるのです。

アラビア語の「イスラーム」はいくつかの意味、服従、従順、誠実、献身、平和、安寧などを含みます。

イスラームの聖典クルアーンにおいて、このことは明確に示されています。「天と地の創造について考える者は言う。「主よ、あなたは徒(いたづら)に、これを御創りになったのではないのです。あなたの栄光を讃えます。」(イムラーン家章：191)

イスラームという宗教

世界の宗教の大半は、特定の人物

やその宗教が生まれた共同体や国家にちなんで名づけられています。キリスト教はイエス(イエス)、ユダヤ教はユダヤ民族、仏教はその創始者ブッダ、そしてヒンドゥー教はインドから、といった調子です。

しかしながら、イスラームは特定の人物、家系、あるいは民族や国家にちなんで名づけられていません。イスラームはある特定の共同体のために存在するのでも、創始者の名にちなんで誰かによって始められたものでもありません。単にイスラームと呼ばれ、その意味は神の意志への完全なる服従です。

イスラームという言葉の意味

アラビア語の「イスラーム」の語源を探ると、そこにはいくつかの意味が見いだされます。それは、服従、従順、誠実、献身、平和、安寧などです。

イスラームは創造主である神への完全なる服従を意味し、同時に、それ以外のすべての従属からの解放です。

クルアーンのいくつかの節において、これらの意味を見出すことができます。

クルアーンには、このように書かれています。「誰でも善行に励み、真心を尽くしてアッラーに傾倒する者は、堅固な取っ手を確(しっかり)握った者である。凡ての事の終末は

アッラーに(帰着するので)ある。」
(ルクマーン章：22)

つまり、イスラームとは神への完全なる服従であり、それ以外のすべての従属からの解放です。同様に、イスラームに従う人々、つまりムスリムとは神に完全に従い、誠実に神を崇拜し、自身の内を平和で満たし、それを周囲に広めます。

では、これは全ての使徒が伝えたメッセージでしょうか？

イスラームはすべての神の使徒の教え

クルアーンでは、神が過去、様々な時代のすべての民族に、神への信仰を伝えるための使徒を遣わしてきたことが強調されています。そして預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)にメッセージが伝えられました。「本当にわれは、吉報の伝達者として、また警告者として、真理を持たせてあなたを遣わした。(またこれまでも)どの民にもかれらの間に、一人の警告者が行かなかったものはない。」(創造者章：24)したがって、すべての使徒は真実の教えをもたらし、その信仰と道徳の基本に違いはありませんでした。

イスラームの教えは、最後の使徒である預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)によって1400年前にもたらされました。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)のメッセージは、過去すべての使徒たちに与えら

れたものと本質的に同じです。つまり、他の使徒たちがもたらした教えの延長なのです。だからこそムスリムは、それまでの使徒たち、イブラーヒーム、イスマーイール(イシュマエル)、イスハーク(イサク)、ヤアコブ(ヤコブ)、ムーサー(モーゼ)、イーサーなどへの啓示を信じるようにクルアーンにおいて求められているのです。(雌牛章：136)

クルアーンに次のように書かれているのは必見に値します。死に際しイブラーヒームが息子たちに、そしてヤアコブが息子たちに伝えた言葉です。“神は真の教えを選ばれたので、ムスリムが意味する神への完全なる服従として死ななければならぬ。”(雌牛章：132)

イスラームはすべての神の使徒の教えの延長です。教義は一つであり、本質に変わりはありません。違いはただ、時代や場所、その他状況に応じて変化した法による定めです。最後の預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は、すべての人のために最後の法とともに送られました。

こうして、クルアーンでは教えは一つであり、それはイスラームであることが明確にされています。そして、啓示宗教にみられる違いは、使徒たちがもたらしたものから遠ざける改竄(かいざん)に過ぎません。

イスラームは特定の人物、家系、あるいは民族や国家にちなんで名づけられてはいません。イスラームはある特定の共同体のために存在するのでも、創始者の名にちなんで誰かによって始められたものでもありません。単にイスラームと呼ばれ、その意味は神の意志への完全なる服従です。



イスラームの普遍性



ア

アラブ人の預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)に、アラビア語で啓示されたにもかかわらず、クルアーンの中に“アラブ”という言葉が出てこないのは驚きです。今日、アラブ人は全ムスリムの中で20%にも満たない少数派で、最もムスリムが多いのは東南アジアのインドネシアです。インドでは少数派のムスリムですら、アラブ最大の人口を抱える国の倍はいるのです。

これは、イスラームが国籍、人種、性別、文化に関わらず、すべての人への慈悲と導きとしてもたらされたからです。クルアーンには次のように書かれています。「われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。」(預言者章：107)

実際、イスラームは比類のない人類の多様性の視点を示しています。この多様性は、世界にまだ知られていないのです。

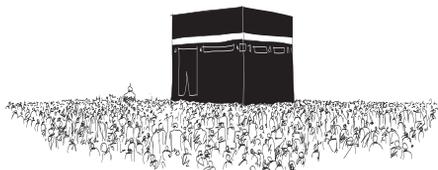
人種や信条に関係なく、例外抜きにすべての人へ神が語りかけた次の言葉を読み込んでみましょう。クルアーンには次のように書かれています。「人々よ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなた方の中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通曉なされる。」(部屋章：13)

ここで示されるのは、肌の色や人種に関わらず、すべての人はアダム(アダム)とハワワ(イブ)の子孫であるということです。そして、人々間の違いというのは優劣を競

うものではなく、互いを知り協力しあうためにあります。さらに、神に従い敬虔な生活を送る者にこそ、寵愛と栄誉が与えられるのです。

クルアーンではまた、言語、肌の色、文化の多様性は神の恩寵であり、天地創造の偉大さに比肩(ひけん)する、この宇宙における神の創造の御徴(みしるし)として述べられています。そして、知恵ある思慮深い者だけが、これらの御徴に気づく、とされています。(ビザンチン章：22)

1948年に採択された世界人権宣言(UDHR)の第一条“すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。”は、ほぼ間違いなく最も重要な条文であり、その実施が図られました。一方、預言者ムハンマドが同じ内容を宣言し、人類の歴史に新たな時代をもたらしたのは1400年前のことです。彼は説教の中で次のように述べました。「人々よ、あなたがたの主は一つではないのか。あなたがたの祖先は一つではないのか。アラブ人は非アラブ人に対する優越はなく、またその逆もない。肌の白さは黒さへの優越ではなく、またその逆もない。違いはただ、その敬虔さだけである。」(アハマド：23489)



預言者ムハンマド

“人々よ、あなたがたの主は一つではないのか。あなたがたの祖先は一つではないのか。アラブ人は非アラブ人に対する優越はなく、またその逆もない。肌の白さは黒さへの優越ではなく、またその逆もない。違いはただ、その敬虔さだけである。”



世界人権宣言(UDHR)

“すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。”

環境保護は信仰の一部

一部の哲学者は人間を世界の所有者とみなし、その利益と欲望のためにすべてを消費できると考えています。それが他の存在や生命にいかなる破壊をもたらすとも、所有者には何も制限は課されないといえます。また一方で、人間には地球に存在する他の多くの生命に対し優越性はなく、なんら変わりがない、とする考え方もあります。では、イスラームは人間と他の存在との関係について、どのように教えているのでしょうか。

イスラームにおける人間と他の存在との関係は、信仰と知性に基づいています。そのため、他者、動物、天然資源、そして地球との関係を規定する詳細な決まりがあります。

始めに注意を引くのは、クルアーンが人間と万物の間のバランスを取り決めていることです。神は人間を他の被造物(生命)よりも高く置かれました。(夜の旅章：70)そして、天地と被造物を人間に益があるようにされ、人間がその面倒を見るようにされました。(イブラーヒーム章：32-33)したがって、人間は数百万の他の被造物の中の一つではありません。むしろ、人間は榮譽と尊厳のある被造物であり、自身のために自然から益をえることができます。

(雌牛章：29)

同時に、クルアーンは人間がすべてを好き勝手にできる所有者ではない、と強調しています。人間が置かれている地位は、人間に地球や天然資源を破壊する権利を与えるものではありません。主権は創造主たる神にあり、人間の役割はその代理人であることです。つまり、神は人間を管理者に任命し、資源を活用して、地球を管理する役割を与えたということです。神はまた、他者や他の被造物に害を与えることなく、人類の幸福のために開発と成長に励むことを人間に命じられました。

(雌牛章：30、フード章：61)

イスラーム法、あるいはシャリーアでは、人間と万物の関係を規定する詳細な決まりが定められています。その事例を見てみましょう。

1. 動物愛護

ムハンマド(彼の上に平安あれ)による、多くの動物愛護に関する発言が残されています。動物の権利を啓発し、動物へのやさしさを示した者に来世における大きな報奨を約束しました。預言者(彼の上に平安あれ)は動物虐待に対して警告し、その加害者には厳しい懲罰が待っていると戒めています。

動物の諸権利を守る初めての組織、王立動物権利協会が設立されたのは1824年のイギリスです。また、最初の動物愛護法が制定されたのは、1949年のイギリスでした。動物を守る法律というのは、現代における発展です。これに対し、イスラームは1400年以上前に動物に対する虐待行為と残虐な取り扱いを犯罪と決めました。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)には動物虐待を戒める多くの言行録があります。動物を飢えさせること、虐待すること、

過度な負荷をかけること、痛めつけること、そして面白がって顔を叩くこと、これらは全てイスラームで禁じられています。このような言行録は広く知られており、また、イスラーム法で明確に犯罪とされています。

ムハンマドの言行録を読むことで、いかにイスラームが動物愛護を定めているか知ることができるでしょう。ある時、娼婦は一匹の犬が渴きで喘いでいるのを見て、同情を禁じえず、彼女の靴を近くの井戸の水で満たし、この犬に与えました。この犬へのやさしさで、神はイスラームにおいて最も禁じられている売春行為を行う彼女を赦されました。(アル・ブハーリー：3280)

2. 植物保全

イスラームは信者たちに植物と農作物を世話するように求めています。これは自己の利益のため、あるいは人類と他の生き物のためです。



預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は私たちに伝えています。“もし、人が種を植え、その植物が鳥、他者、動物の助けとなり、彼らがそこから糧を得るならば、種を植えたことは喜捨となり、その人は報奨を得るだろう。”

(アル・ブハーリー：2320)

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はムスリムに対し、最も困難であった試練の時期においても、彼らに環境保全と土地の開拓を呼びかけています。たとえそのことが、彼らに利益をもたらさないと確信していたとしても、です。また、ある言行録によれば、誰かがヤシの苗を植えようと手にしている時に最後の審判の日が訪れたとしても、この人物はできるだけその苗を植え続けるべきであると伝えられています。この行為が慈善行為として記録されると預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は述べています。

(アフマド：12981)

伝統によれば、最も困難な試練の時期において、開拓はイスラームの目標の一つであり、崇拝行為です。それどころか、たとえ大きな混乱と難しい環境にあっても、この崇高な行為に携わることをなにもも妨げるべきではない、と強調しています。

3. 天然資源管理

- イスラームはまた、環境への配慮の重要性を強調しています。資源を浪費し、汚染し、あるいは腐敗させることがないよう、イスラームの教えでは強調されています。これは「治療の前の予防」を原則とした方策を示しています。そのためには、個々人の行動の重要性、天然資源の保全とこれを酷使することの犯罪化です。

- イスラームは天然資源、特に水資源の浪費を禁じています。礼拝前に定められている水を使うお清めもまた、例外ではありません。
- 権力者による天然資源の独占もまた、他者を害するという理由で禁じられています。この独占とは、水(天然資源)、火(エネルギー)、牧草(食)が挙げられます。

(アブー・ダーウード：3477)

イスラームの使徒が表明したように、環境を守ることは信仰の一部です。

- イスラームはまた、環境破壊につながるものを禁じています。例えば、滞水に排尿することです。これは水質汚染につながります。さらに、歩いたり休息をとる木陰など、人が集まる場所や道において用を足すことも禁じられるようになりました。

これらは数ある事例のほんの一部にしすぎません。使徒は環境保護に気を配り、そのための小さな実践にも積極的でした。それは例えば、道から小石を取り除く行為であり、これは正しい行いであるだけでなく、正しい信仰の一部であるのです。

(ムスリム：35)

イスラームは学びと科学を奨励しています

最初に預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)に対して下された言葉が「読め」であったのは、偶然ではありません。クルアーンや預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の多くの言葉は、人類に役立つあらゆる分野の知識を学ぶことの重要性を示しています。ムスリムが知識を求めて進む道は、最後には樂園への道につながるとみなされています。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃっています。「神は知識を求める道を進む者の樂園への道を容易にされる。」

(ムスリム：2699)

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はまた実例を通して、敬虔な信者に対する学びを求める人の優越性は、最も高潔なムスリムとされる自身の優越性に似ていることを示しました。

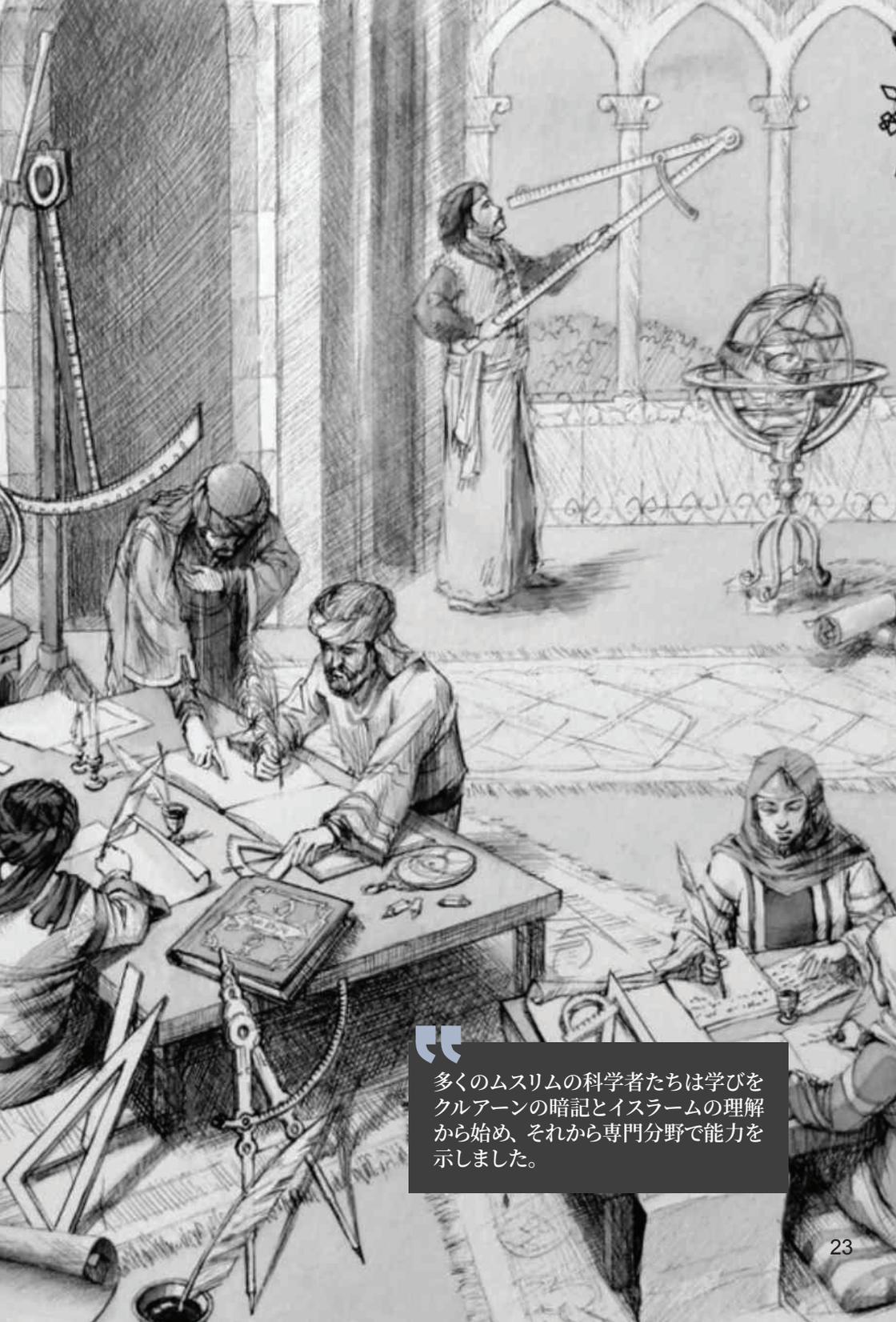
(アッティルミズィー：2685)

このため、他の宗教にみられるような教義と科学の対立は見られません。科学的探究が抑圧されたことはなく、科学者はその意見や見解のために迫害されたこともありませんでした。暗黒時代として知られ、学問が停滞し経済が退行した中世のヨーロッパにおいて、科学者たちはその知的好奇心のために迫害され、投獄され、また、命を落としました。それに比べ、イスラームは常に科学と学問を奨励し、人々の役に立つ限り、信者たちに学び教えることを勧めました。

当時、大半のムスリムの科学者が学びをクルアーンの暗記とイスラームの理解から始めたことは、驚くことではありません。宗教に通暁したのち、彼らはそれぞれの専門分野で能力を示しました。

イスラームは他者を啓発し知識を分け与える人々を称賛します。他者を啓発し教える者は、荣誉あるものとして最高の称賛を受け、それは預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)が「すべての被造物は人々を教導く者のために祈る。」と述べたほどです。

(アッティルミズィー：2685)



多くのムスリムの科学者たちは学びをクルアーンの暗記とイスラームの理解から始め、それから専門分野で能力を示しました。

ムスリム学者列伝

1. アル=フワーリズミー (790-850、バグダッド)

数学、工学、天文学の分野で活躍。代数学の創始者。彼の著作を通して、アラビア語のアルジェブラ(代数学)やゼロなどがヨーロッパ諸語に取り入れられた。



2. イブン・アル=ハイサム (965-1040、カイロ)

西洋ではアルハーゼンの名で知られる。物理学、工学の分野で活躍。光学、天文学、数学の分野で大きな貢献を残す。なかでも、カメラの発明は彼に帰する。事実、物理学・数学・天文学の分野の多くの研究者が、カメラという言葉はアラビア語のクムラ(暗室)からきていることを証言する。また、このクムラは彼の発明である。彼はカメラオブスキュラ(暗箱)を考案した。これは凸レンズ付きの暗箱にある小さな穴を通して物体が上下逆さまに投影されるという、カメラの原型となったもの。



3. ビールーニー (973-1048、ホラズム)

西洋ではアルベロニウス、あるいは英語でアルビルニの名で知られる。中世イスラーム時代の最も偉大な学者の一人。物理学、数学、天文学、自然科学の分野で活躍。地球の重力について説明し、地動説を唱えた最初の科学者。



4. アッ=ザフラウィー (936-1013、アンダルシア)

西洋ではアブルカシスの名で知られる。近代外科医術の父とされる外科医。多くの言語に訳された彼の著作は、数世紀の長きに渡り医術の教科書として読まれてきた。実際、外科手術の分野における彼の先駆的な貢献は、彼の利用した手術用具も含め、多くの本に記載されている。彼の著作は東西を問わず多大な影響を与え、今でも現代医学に彼の発見が生かされている。



5. イブン・スィーナー (980-1037、ブハラ)

西洋ではアヴィセンナの名で知られる。著名な医者であり、哲学者。彼の業績は、時代をはるか先取りするものであった。未知であった多くの症状とその治療法を明らかにし、医学を科学的に研究し、多くの今日まで有効な結果を発見した。このことは、7世紀に亘って医学の基準テキストであり続けた、彼の有名な著作である「医学典範」から明らかである。本書はヨーロッパにおいて17世紀半ばまで、医学の教科書であった。

医薬の大家ではあったが、彼は患者を無料で治療した。これは人道的行為でありまた、自身に知恵を授けてくれた神への感謝を示す行為でもあった。



6. イブン・アルナフィース (1213-1288、ダマスカス)

著名なイスラーム法学者であり、同時に医師で生理学者。肺循環を発見し説明した、最初の人として有名である。また、今日でも有効な多くの医学理論も提唱した。



イスラームは人間のすべてを包括しています

多くの人が驚くのは、イスラームが他の似通った宗教のように、儀礼のやり方や一般的な道徳を説くだけではない点です。

イスラームはマスジドでの礼拝や祈願でもってムスリムたちの精神を満たすという、単純なものではありません。

もちろん、信者にとって単なる信念でも、経済体制でも、環境システムでも、社会を構築する規則でも、道徳やマナーでもありません。

イスラームは包括的な生き方なのです。人生のあらゆる面をカバーし、またそれにとどまりません。にもかかわらず、イスラームは人々の自由を制限するものではなく、それどころか、生活を楽にするものです。そして人の努力は創造性と文明の構築に振り分けられます。実際、クルアーンで強調されているように、これは神から人類への偉大なる恩寵です。

(食卓章：3)

ある時、ムスリムではない男が預言者の仲間(教友)であるサルマーン・アルファーリスィーに、嫌味な口調で言いました。「お前の預言者は何でも、それこそ尿や便の作法も教えてくれるんだろ？」サルマーンはこれに答えて言いました。「はい、その通りですよ。」そして彼は男にその作法を実際に示しました。

(ムスリム：262)

イスラームには現世と来世があります

古代エジプト人は死者をミイラ化し、すべての財産とともに埋葬していました。これらが来世で必要になると信じていたためです。

チベットの仏教徒は天葬を行い、遺体を分断して山のハゲワシに処理を任せます。ヒンドゥー教徒は遺体を火葬します。焼くことで魂が解放されると信じているからです。

これは様々な信仰において、その信者が行っている死



イスラームは包括的な生き方で、人生のあらゆる面を例外なくカバーします。



者と別れを告げる葬儀のほんの一例にすぎません。このような実践は時代によって変化し、また、死後の世界に対する教義によっても変化してきました。そして、これは説得力ある回答を求める多くの疑問を引き起こします：死後の世界はあるのか？もしあるのなら、それはどのようなもので、私たちはそこで何を必要とするのか？

答えは本当に重要です。なぜなら、死後の世界を信じようが信じまいが、知覚できる物質世界だけを信じようが、死の瞬間に備えようが、あるいはそのことを娯楽などで忘れたように過ごそうが、死は否定しようのない真実であり、誰も避けることのできないものであるからです。

この否定しようのない真実を忘れようとするあらゆる試みにもかかわらず、この問いは絶えず、ふとした瞬間に立ち上がってきます：死が終着点であるならば、その後にはなにもないのか？私たちの存在は無駄なのだろうか？

この、私たちがよく思い浮かべる問いは、クルアーンにも異なる形で繰り返されています。そして同時に、多くの人がこの問いに向き合わず、また、この世を去る準備をしてこなかったことを最後の審判の日に後悔するだろう、と述べられています。彼らは後悔して言うのです。「ああ、わたしの(将来の)生命のために、(善行を)貯えていたならば。」(暁章：24)「ああ、情けない、わたしが塵であったならば。」(消息章：40)

啓示の教えの信者たちが死後の世界を信じているのは、よく知られています。彼らはまた、そこでの報奨と懲罰を信じており、これは全ての使徒が伝えたことでもあります。さらに、行為に対する報いが来世に存在しないのであれば、人生も宗教も道徳も無意味で無駄なものとなる、と理性が告げてきます。

死後の世界を信じようが信じまいが、知覚できる物質世界だけを信じようが、死は否定しようのない真実であり、誰も避けることのできないものである。

しかしながら、多くの人が宗教や信仰は富や娯楽、発展と相いれないと誤解しています。これは、生きることが現世のためもしくは来世のための二者択一だと考えているからです。あたかも昼と夜がともに訪れないように、現世と来世は同時に成立しないと思っていますのです。

啓示の教えの信者たちが死後の世界と、そこでの報奨と懲罰を信じています。

このような人々には驚きであり、また、信じるのが難しいでしょうけれども、イスラームには信仰と娯楽、あるいは富との間に境界がありません。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は伝えています。人の正しい行いはどのようなことであれ、善行を意図して行ったのであれば報われます。それがいかに小さな行為、例えば道から棘を取り除く、配偶者の口に少しの食べ物差し入れる、といったことでもです。

(アル・ブハーリー：56)

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)が善行の種類は無限にある、と述べた時、それを聞いた教友たちは大変驚きました。預言者が彼らにその例を示したところ、さらに驚きが広がりました。「夫婦による男女の営みも慈善になります。」教友たちは「自身の性欲を満たすことが報奨につながるのですか？」と尋ねました。預言者は応じて「性欲を許されない方法で満たしたら、あなたは罪人ですか？」と聞きました。教友たちは「はい、それは罪人です。」と答えました。「つまり、許された方法(正しい相手と)で満たしたのであれば、その正しい道を選んだことに対して報奨があるのです。」

(ムスリム：1006)

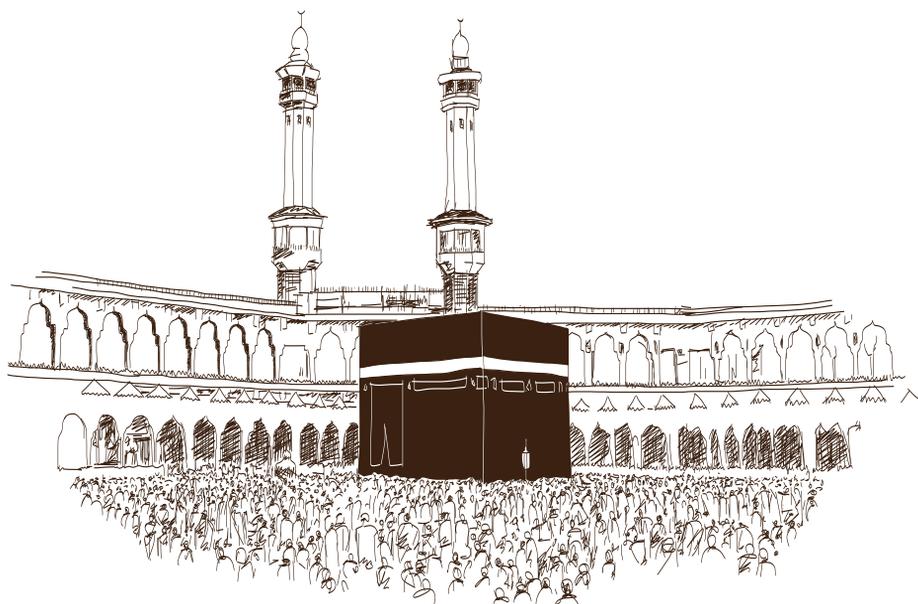
こうしてイスラームを学ぶ誰もが、この信仰に触れたその最初の瞬間から、イスラームが現世と来世の均衡を取り決めていることに気づかされます。これは、クルアーンにも明らかにされています。クルアーンでは人々に来世の報奨のため信仰に励むよう促す一方、現世において神の報奨を求めて努力するように述べられています。(合同礼拝章：9-10)したがって、そのように望む限り、報奨を得る価値があり、そのために神のご満悦を求めることとなります。イスラームは人生のあらゆる点を網羅しているため、信仰につなげる意識で行うことで、すべての行動が崇拜行為となります。ムスリムは生活の糧を得るために働くこと、子供を育てること、健康と環境を守り社会を発展させることが神への信仰となります。また同時に、礼拝、断食、喜捨を行うことで、神に仕えるのです。

イスラームは調和のとれた人生を送ることを重要視しています。来世での報奨のために信仰に励むことを勧めると同時に、現世で神のご満悦を求めて糧を得ることを促しています。

これは、イスラームの調和を理解しているムスリムが得ている、精神の安寧と内なる平和の秘訣の一つです。現世と来世は調和しています。そして、娯楽と信仰は対立するどころか、互いに補っているのです。

イスラームはムスリムの信条、その教えを明らかにします。：礼拝と儀礼だけではなく、わたしの人生すべてが神への信仰であり、これがアッラーによって清算される。彼ただ御一人がわたしの行為を判定し、死後に報奨を下さる。だからこそ、神の命令とその教えであるイスラームに従うのである。

(家畜章：162)



イスラームは他者との交流を推奨します

ムスリムの大旅行家であるアフマド・イブン・フアドラーンによる見聞録は、当時のロシアとバイキングの生活や社会を記録した最初の記述とされています。見聞録のなかで、これらの社会での出来事を鮮やかに記録しています。

アフマド・イブン・フアドラーンは西暦921年に、この驚くべき旅に出発しました。中世において最も重要な文化交流の旅といえるでしょう。当時、科学と文化の中心地であったバグダッドを発ち、多くの国を訪れ、沢山のひとと出会いました。彼の見聞録は、のちにロシアで発見され、1923年に初めて書籍として出版されました。

アメリカの作家マイケル・クライトンは、彼の作品「北人伝説(原題: Eaters of the Dead)」の中で、アフマド・イブン・フアドラーンの見聞録の重要性について、次のように記しています。バグダッドのアラブ人というものは「ムスリムであり、熱心に信仰に取り組んでいた。しかし、彼らはまた外見や行動、信条の異なる人々と接していた。アラブ人は実際、その当時の世界において中心から離れた田舎の人々であった。だからこそ、異文化の優れた観察者になったのだ。」(ハーパーコリンズ出版、1976年、10ページ)



イスラームはその信者たちに他者と手を取り合い、社会の構築と変革に積極的に携わること、そして、文化や思想信条の違いにこだわらず、良い態度で交流することを求めています。さらに、孤独と社会的孤立は正しいイスラームではない、と強調しています。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は、他者と忍耐をもって交わる者は、他者を避けて遠ざかる者より優れている、と述べています。(イブン・マージャ: 4032)





崇拝される神、
創造主はただ御一人



イスラームは理論だけでは、真の信仰ではないと説きます。神は創造主ただ御一人と信じるならば、崇拝される神もまた御一人です。

アラビア語の“アッラー”は神の固有の名であり、次に示す3つの意味が組み込まれています。

- 崇拜されるもの。人々の礼拝と断食が心から捧げられるもの。すべての人の心が向かい、崇拜行為を向けられるもの。
- 人間のもつ限られた精神では全てを理解できない、栄光あふれる偉大なもの。
- 心奪われ渴望されるもの。それを思い、近づき崇拜することで心躍り安寧をえるもの。

クルアーンは神の概念を正す重要性と、神の偉大さと栄光を侮辱するすべての歪曲や不完全といった改竄を取り除くことを強調しています。

神とは、クルアーンにあるように、創造主であり、この宇宙と全存在の創始者です。そこには綿密なまでの複雑さと神が定めた法とが存在しています。神は唯一の創造主であり、すべてはその意思と叡智(えいち)から実現します。この意思と叡智なくして、女性が妊娠・出産することはありません。雨は降らず、昼夜は変わりません。知覚できようができませんが、この広大な宇宙のすべ

ての事柄は、神の御力、叡智、慈悲に覆われているのです。(フッスィラ章：47、家畜章：59)

神には最善で、最高で、最も美しい多くの属性があります。最も力強く、誰にも打ち負かされることはありません。最も慈悲深く、すべてにそれが注がれます。最も偉大で、いかなる欠陥也没有ありません。

神は天地を6日で創造し7日目に休まれた、との主張に対し、クルアーンはこれを誤りだと証明しています。「われは天と地、またその間にある凡てのものを6日の間に創造した。しかしわれは少しの疲れも感じることはなかった。」(カーフ章：38)このような誤った主張は、人間が自分たちの理解できる存在に神を見立てているためです。しかしながら、これは真実からほど遠く、神は創造主であり、神以外のすべては被造物なのです。創造主が被造物になぞらえられるとは、一体どういうことでしょうか。クルアーンには次のように述べられています。「かれに比べられるものはなにもない。かれは全聴にして凡てを見透かされる方である。」(相談章：11)



イスラームは調和のとれた人生を送ることを重要視しています。来世での報奨のために信仰に励むことを勧めると同時に、現世で神のご満悦を求めて糧を得ることを促しています。

他のなにものをも並べることなく、唯一、神のみを真摯に崇拜することは、イスラームが最も強調し明確にしていることです。これは、すべての使徒たちが伝えてきたことでもあります。

イスラームにおいて全能なる神は、原子の重さほどの小さな間違いも犯すことのない、公正な裁定者です。私たちが見聞きするすべては、神の叡智と尽きることのない慈悲を裏付けています。思考能力の違いによって幼子が親の行動を理解できないように、人は神の創造と意志に基づき、その叡智と目的をすべて理解することはできません。

イスラームは理論だけでは、真の信仰ではないと説きます。神は創造主ただ御一人と信じるならば、崇拜される神もまた御一人です。いかなる崇拜行為もどのような請願も、創造主たる神以外に向けられてはなりません。それどころか、代理人や仲介者を介さずに直接、神を信仰しなければなりません。創造主たる神は、そのようなものを超越しているのです。

王や大統領といった権力者たちは、貧困者や困窮者の要求に気づくことも、自分を補佐する存在抜きにその要求に応えることもできません。しかし、全能なる神は目に見えるものも、そうでないものもすべてご存じです。神は最も強く、真に大権をもつ御方です。すべての存在は神の手の内にあり、何事かを定める時、ただ「あれ」というだけで、それは完成します。どうして、このような存在以外に目を向ける必要があるのでしょ

う。クルアーンには明確に述べられています。神に対して求めるのでなければ、ムスリムは満足感と幸福感を

自覚することはできません。神は全てのことを支配しており、最も偉大で栄光あふれる方です。そして、被造物に彼らが思いもしないかたちで、計り知れない愛を示されます。また、被造物が神に向かって示した謙虚さに応じて、報奨を与えます。(雌牛章：28、蟻章：62-63)

イスラームが強調し明確にしているのは、全ての使徒たちが伝えてきたことです。それは、真摯に神を崇拜し、神になにものをも並べない、ということです。(蜜蜂章：36)使徒、天使、聖人は、彼らがどんなに敬虔であったとしても、仲介者として神と僕(しもべ)たる人との間に入ってはなりません。なぜなら、彼らもまた神の被造物であり、僕であるからです。神とその僕の間には仲介者は存在しません。僕が心から神だけを崇拜している限り、神はその声を聞き、それに応え、その近くにおられるのです。

真摯に神に心を向ける人は必ず、甘美な幸福と内なる安寧を味わいます。創造主は唯一なる神であり、神こそすべての所有者であると知るからこそ、迷いや不安から解き放たれます。そして、神に心を向け、そこに保護を求めるのです。

このことはクルアーンで最も知られ、かつ重要な章、「純正章」に示されています。

アル・イフラス-純正章

この章で、神は預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)に次のことを、あたかも彼が「神とは誰か」という問いに答えるかのように示しました。

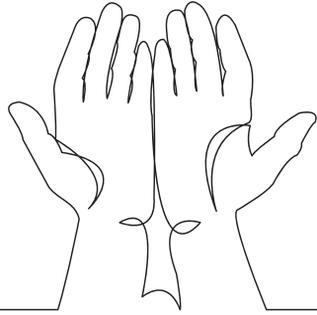
- 神は唯一であり、なにものも並べられることはない。
- すべての被造物は例外なく神を頼りとし、求めるものが与え叶えられることを神に願う。
- 栄光は神であり、産むのでも生まれたのでもなく、すべての始めから存在し、常に在る。
- 神に同等のものはない、その存在と属性に比べられるものはない。なぜなら、神は創造主であり、それ以外は被造物であるからだ。



宇宙の理とイスラーム法の調和

神は私たちが生きる世界を創造されました。人体を構成する一番小さな細胞から、遠くの銀河までのすべてをです。すべては最高の精度と驚異的な秩序をもって創られており、これを抜きに生命は存在しえないのです。博物学者たちが認めるように、どんなに些細な不均衡や秩序の欠如も、この世界の完全なる破壊と荒廃につながります。

ムスリムは、世界に見出せる精密さと秩序から、世界の創造主は人類にとって最適な法や規定、生活様式を熟知していると信じています。神が定めた教えはただ一つであり、人類に最適なものです。これこそが、人生のあらゆる点をつなげ、調和に導きます。宇宙の創造主である全能の神は被造物にとって何が最適なのかを知っている、とクルアーンの中で説かれています。：かれが創造されたものを、知らないであろうか。かれは深奥を理解し通曉なされる。(大権章：14)



イスラームには聖職者がいません

多くの宗教では、ある特定の人々に他にはない特権を与えています。信者の信仰と崇拝行為は、特権をもつ人々の諒解(りょうかい)や承認が条件となります。これらの宗教では、この特権者たちは神と信者との間にいる、仲介者なのです。仲介者である彼らが赦しを与え、彼らだけが見えないものを知覚していると主張し、彼らの敵対者には損失と不幸が待ち受けているとされました。

翻ってイスラームには、このような特権階級は存在しません。なぜなら、イスラームでは人間を称えて高い地位を与え、神との間のいかなる権威からも解き放ちました。これは人の幸福や悔悟、崇拝行為が特定の人々の意志に左右されるという考えを完全に否定します。この特定の人々がいかに敬虔で高潔であろうとも、他者の幸福を左右することはありません。

さらに、宗教的知識は特権階級のものであるという考えからも、イスラームは無縁です。クルアーンの宗教的知識のみならず、その理解は万人の権利です。さらに言えば、義務ですらあります。ムスリムはクルアーンを読み、理解し、その意味を考え、実践することが例外なく求められています。

(サード章：29)

信仰と崇拝行為は信者と主(神)の間だけのものです。誰もその間に仲裁者として入る権利を持ちません。実際、全能の神はその僕の最も近くにおられます。神は僕の祈りを聞き、答えられます。崇拝行為と祈りを目撃し、報奨を与えられます。いかなる人間も、赦しを求め、悔悟を受け入れる特権を持ちません。しかし、人が真摯に神に立ち返ったとき、神はすぐに許され、その悔悟を受け入れます。クルアーンには次のように述べられています。

「われのしもべたちが、われに就いてあなたに問うとき、(言え)われは本当に(しもべたちの)近くにいる。かれがわれに祈る時はその嘆願の祈りに答える。それでわれ(の呼びかけ)に答えさせ、われを信仰させなさい、恐らくかれらは正しく導かれるであろう。」

(雌牛章：186)

イスラームでは人を称え高い地位を与え、神との間にいかなる権威からも解き放ちました。これは人の幸福や悔悟、崇拝行為が特定の人々の意志に左右されるという考えを完全に否定します。この特定の人々がいかに敬虔で高潔であろうとも、他者の幸福を左右することはありません。



神は人が真摯に神へ立ち返り祈り求める限りその人の最も近くにおられる、とクルアーンに明らかにされています。

入信するために特別な儀式は必要ですか？

確信をもってイスラームに入信あるいは改宗しようとする人に、どんな特別な儀式も必要ではありません。特別な場所で行うことや、特定の人の参加も必要ではないのです。必要なのはただ、信仰に関する2つの文言を公言し、その意味を十分に認識し、またそれを信じ、さらにそれを実践する準備ができていることです。2つの文言とは次のものになります。

アッラー以外に神はないことを私は証言する。

信仰に値するのはアッラー以外にいないことを信じ、ただアッラーのみを崇拜し、なにものをも並べることはしません。

ムハンマドはアッラーの使徒であることを私は証言する。

預言者ムハンマドはすべての人に対してアッラーが遣わされた使徒だと信じます。その命令に従い、禁じられたことには近づかず、また、彼がされたようにアッラーを崇拜します。

A photograph of a glowing street lamp mounted on a stone wall at night. The lamp is a classic, ornate design with a warm, yellowish glow. The wall is made of large, rectangular stone blocks. The background is dark, suggesting a night scene. The overall mood is serene and atmospheric.

神の使徒の真実



神

神は、神を崇拝する存在として人間を創造されました。そして、神の法を説き、その教えを思い起こさせるために使徒たちを遣わしました。使徒たちは範を示すことで、人々の信仰と現世の行為を正しくし、誤った行動から人々を正しい道に呼び戻し、信仰から離れさせないようにします。それでは、使徒たちとはいったいどのような人たちだったのでしょうか？

彼

彼らは人間です

クルアーンで繰り返し述べられているのは、使徒たちは全員、神から啓示と教えを託された普通の人間であったということです。一般の人と違い、使徒たちはその純粋さと篤実さにおいて特筆すべき性質を備えていました。そして、そのために神から人類へ神の教えを伝える任を授かったのです。クルアーンには次のように述べられています。「わたしはあなたがたと同じ、只の人間に過ぎない。あなたがたの神は、唯一の神（アッラー）であることが、わたしに啓示されたのである。」（洞窟章：110）

使徒たちは全員、普通の人間でした。つまり、生まれ、死に、病にかかります。彼らの身体づくりも、必要とするものも、私たちと同じです。

使徒たちに神性はありません。それは唯一、神のみがもちえます。彼らはそれぞれに天使などを通じて、神から啓示を受け取りました。

人々は彼らの中の一人に神が啓示を下したことに、大変驚きました。神は人々が驚いたことを否定され、その驚きは不当なものだとされました。なぜなら、啓示を下すことが唯一、神の導きと教えを人々に届ける方法だからです。（ユースス章：2）

彼らの地位は誇張されるべきではありません

神はその教えを伝えるために、人々の中から最上の者を選びました。彼らは最高の公正さと誠実さを備えていました。クルアーンでは彼らについて次のように述べています。「正しく導かれ」「高潔で」「公正な」人であり、「万人の中から好まれ」て神に選ばれました。（家畜章：84-87）

使徒が過ちを犯せば、神はそれをそのままにはされませんでした。使徒に過ちを指摘し、それを放棄し神に立ち返るようにされました。使徒の過ちは個人的な理由によるもので、意図的に犯したものではありませんでした。

クルアーンでは、預言者と使徒たちは全員、神から啓示と教えを託された普通の人間であったと強調されています。

クルアーンには、使徒に関する正確で誇張のない描写があります。彼らは大罪を犯さず、神の教えや彼らに明らかにされたことを伝えるにあたって、過ちを犯しません。しかしその一方で、彼らは全員、人間でした。神でも、神の子でも、神性を持つものでもないのです。

クルアーンには最後の審判の日に交わされる会話が示されています。これは、預言者イーサー（彼の上に平安あれ）が彼を神に並びたてて崇拜するようにと言った、とされることに関する会話です。「アッラーが言われる。“マルヤム（マリヤ）の子、イーサーよ、あなたは‘アッラーの外に、わたしとわたしの母とを2柱の神とせよ。’と人びとに告げたか。”彼は申し上げた。“あなたに讃えあれ。もしわたしがそれを言ったならば、必ずあなたは知っておられます。あなたは、わたしの心の中を知っておられます。だがわたしはあなたの御心の中は知りません。わたしはあなたに命じられたこと以外は、決してかれらに告げません。あなたがわたしを御呼びになった後は、あなたが彼らの監視者であり、またあなたは、凡てのこの立証者であられます。”」（食卓章：116-117）



クルアーンにはイーサー（彼の上に平安あれ）に関する記述が25回、ムーサーが136回ある一方、ムハンマド（彼の上に平安あれ）の名前は5回しか出てきません。

イスラームにおける預言者たちと使徒たち

クルアーンには神の預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）に関する記述しかない、と一部の人は誤って認識しています。ところが、クルアーンにはイーサー（彼の上に平安あれ）に関する記述が25回、ムーサーが136回あり、これを知ると、彼らは

大変驚きます。一方で、ムハンマド（彼の上に平安あれ）の名前は5回しか出てこないのです。

他の宗教のほとんどの信者たちは、自分たちの預言者のみを認めています。それどころか、一部は他の預言者を敵視すらするのです。しかし、クルアーンを読めば誰でも、そこに神の使徒全員を信じない限りムスリムではない、と繰り返し述べられていることに気づきます。使徒たちの一人でも認めなかったり、疑ったり、批判したりするならば、それはもうイスラームから外れているのです。ムハンマド（彼の上に平安あれ）と信者たちは、神、天使、啓示された書（啓典）と使徒たちを信じ、使徒たちの間に差異はない、とクルアーンで明確に述べられています。

クルアーンを読む人は誰でも、多くの章（スーラと呼ばれる）がイブラーヒームやユースフ（ヨセフ）といった預言者の名前を冠していることを知っています。イーサーの母マルヤムの名前を冠する章すらあるのです。

（雌牛章：285）



イスラームからみた
イーサー



イ
イスラームにおいてイーサー（彼の上に平安あれ）は歴史上もっとも重要な人物の一人です。また、人々に最良のものをもたらした偉大な人物の一人でもあります。しかし、ある人々は彼を神であると言い、また別の人々は彼を神の子であると主張します。さらに、彼を激しく非難する人々もいれば、誤った批判ばかりする人々もいます。イスラームにおいてイーサー（彼の上に平安あれ）は、どのように見られているのでしょうか。



1 イーサーは偉大な使徒の一人である

クルアーンは繰り返し、イーサー(彼の上に平安あれ)が偉大な使徒の一人であり、高く評価されていると述べています。また、彼の母マルヤムは慎みある信心深い正直な純潔の乙女であり、神への信仰にすべてを捧げました。そして、アダムが両親もなく神の御力によって生まれたように、人の配偶者なく神の御力によってイーサーを身籠り出産しました。クルアーンには次のように述べられています。「イーサーはアッラーの御許では、丁度アダムと同じである。かれが泥でかれ(アダム)を創られ、それに“有れ”と仰せになるとかれは(人間として)存在した。(イムラーン家章：59)

2 ムスリムは彼の奇跡を信じなければならない

ムスリムはイーサー(彼の上に平安あれ)が神の許しをえて実行した奇跡を信じます。重い皮膚病の患者や盲人を癒し、死者を蘇らせ、人が食べたものや蓄えているものを知らせたことなどをです。すべて神の御赦しに基づいています。彼が啓示を携えた真の預言者であることを証明するために、このような奇跡を起こす力を、神はお与えになりました。

3 福音書という聖典が彼に啓示された

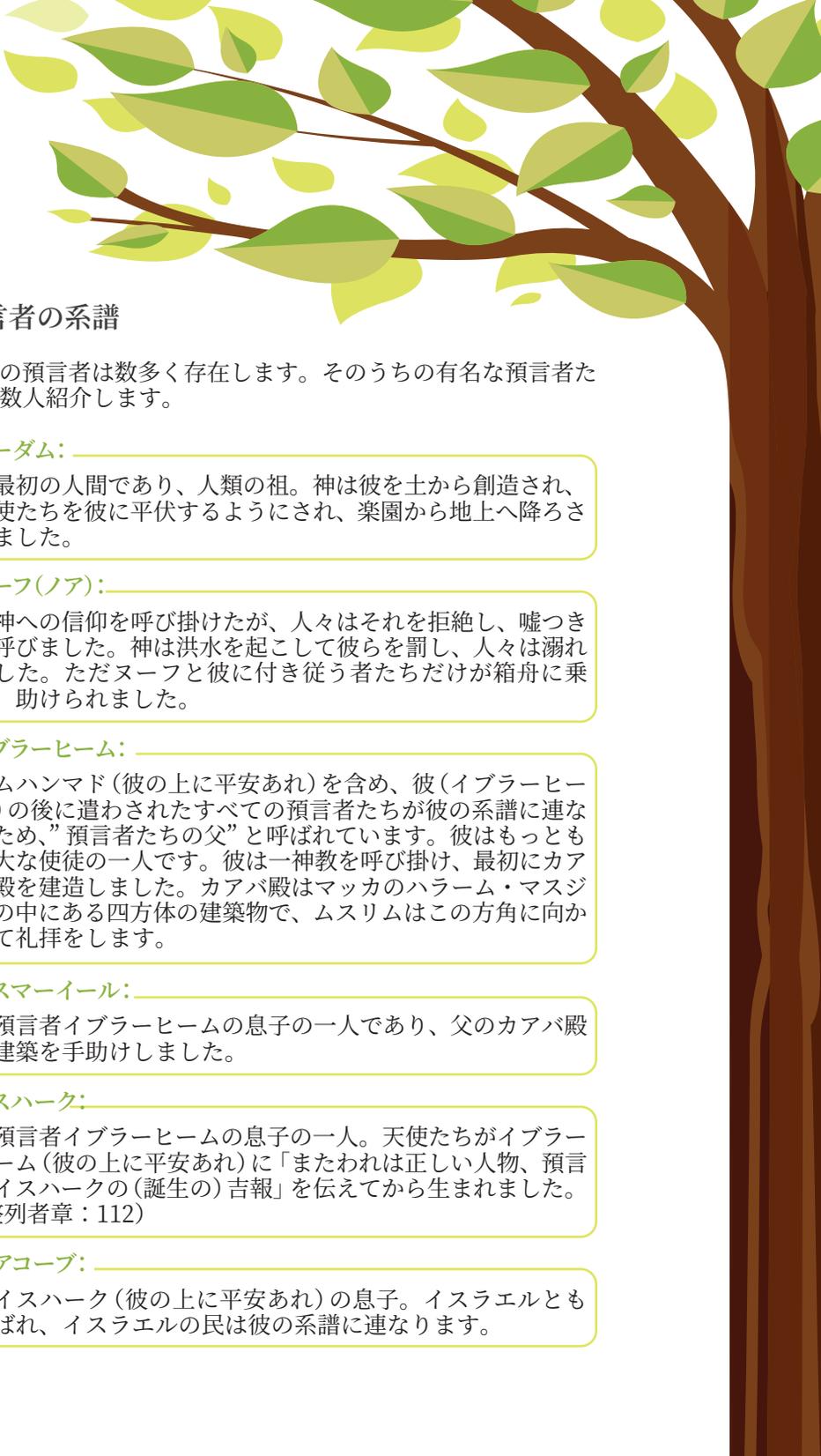
全能の神はイーサー(彼の上に平安あれ)に偉大なる神の聖典の一つ福音書を授けた、とクルアーンに述べられています。福音書は人々への光、慈悲、そして導きです。しかしながら、この書は原典からの大きな改竄を被っています。

4 彼は人間であり神性はない

イスラームにおいて、イーサー(彼の上に平安あれ)はイスラエルの民を導くために神が好んで遣わされた人間であり、また、神による多くの奇跡という助力をえた人物です。しかし、彼に神性はなく、信仰の対象とされるべきではないとも強調されています。クルアーンは次のように述べています。「かれ(イーサー)は、われが恩恵を施したしもべに過ぎない。そしてかれを、イスラエルの子孫に対する手本とした。」(金の装飾章：59)

5 彼は磔刑ではなく天上に昇った

イスラームによれば、イーサーは殺害されたのでも、磔刑に処されたのでもありません。神は彼を天上に上らせ、彼の敵が彼を殺そうとしたとき、神が身代わりを立てたとされています。そのため、人々はイーサーが磔刑に処されたと信じたのです。このことはクルアーンに明確に書かれています。(婦人章：157-158)



預言者の系譜

神の預言者は数多く存在します。そのうちの有名な預言者たちを数人紹介します。

アーダム:

最初の人間であり、人類の祖。神は彼を土から創造され、天使たちを彼に平伏するようにされ、楽園から地上へ降ろされました。

ヌーフ(ノア):

神への信仰を呼び掛けたが、人々はそれを拒絶し、嘘つきと呼びました。神は洪水を起こして彼らを罰し、人々は溺れました。ただヌーフと彼に付き従う者たちだけが箱舟に乗り、助けられました。

イブラーヒーム:

ムハンマド(彼の上に平安あれ)を含め、彼(イブラーヒーム)の後に遣わされたすべての預言者たちが彼の系譜に連なるため、「預言者たちの父」と呼ばれています。彼はもっとも偉大な使徒の一人です。彼は一神教を呼び掛け、最初にカアバ殿を建造しました。カアバ殿はマッカのハラーム・マスジドの中にある四方体の建築物で、ムスリムはこの方角に向かって礼拝をします。

イスマーイール:

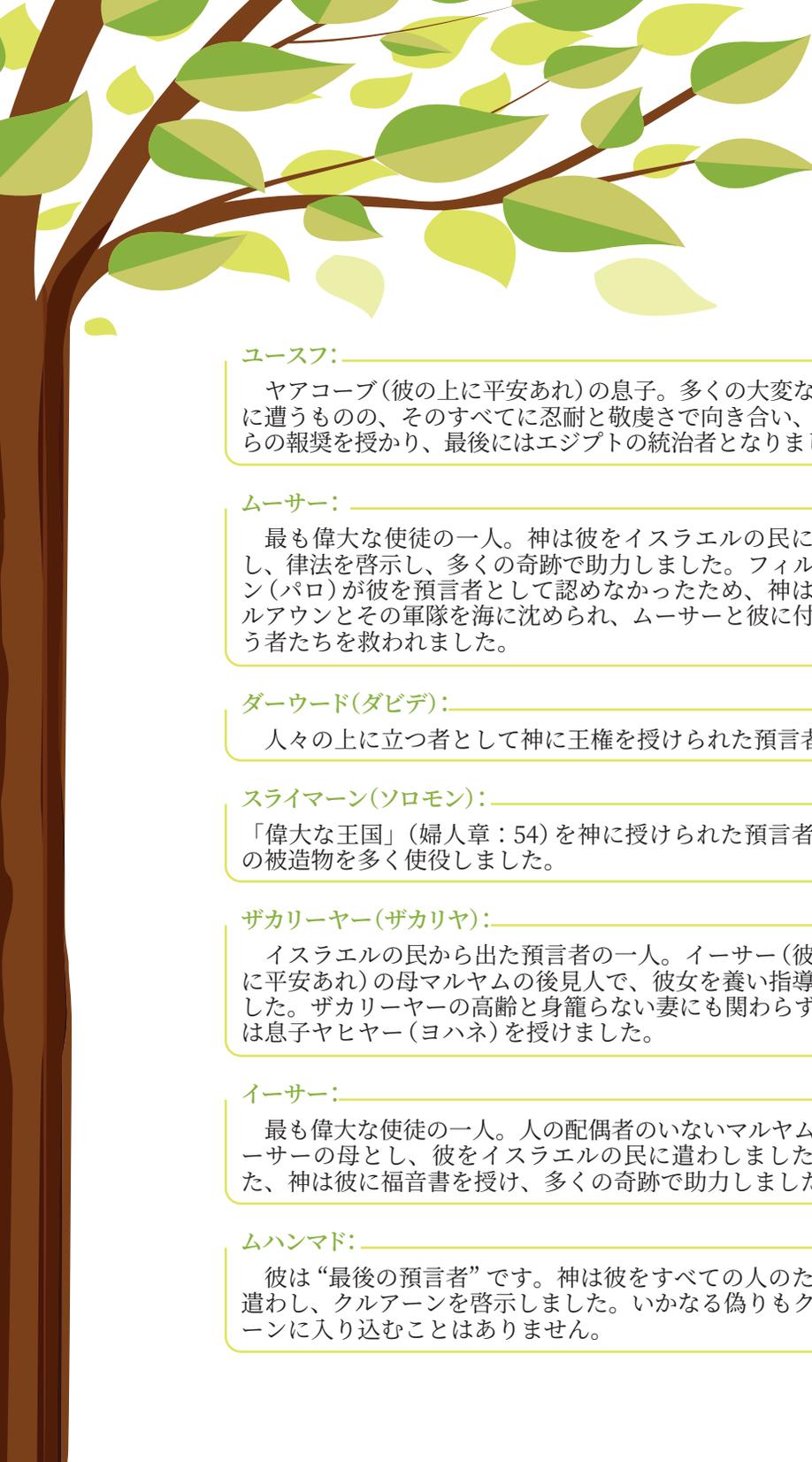
預言者イブラーヒームの息子の一人であり、父のカアバ殿の建築を手助けしました。

イスハーク:

預言者イブラーヒームの息子の一人。天使たちがイブラーヒーム(彼の上に平安あれ)に「またわれは正しい人物、預言者イスハークの(誕生の)吉報」を伝えてから生まれました。(整列者章:112)

ヤアコーブ:

イスハーク(彼の上に平安あれ)の息子。イスラエルとも呼ばれ、イスラエルの民は彼の系譜に連なります。



ユースフ:

ヤアコーブ(彼の上に平安あれ)の息子。多くの大変な試練に遭うものの、そのすべてに忍耐と敬虔さで向き合い、神からの報奨を授かり、最後にはエジプトの統治者となりました。

ムーサー:

最も偉大な使徒の一人。神は彼をイスラエルの民に遣わし、律法を啓示し、多くの奇跡で助力しました。フィルアウン(パロ)が彼を預言者として認めなかったため、神はフィルアウンとその軍隊を海に沈められ、ムーサーと彼に付き従う者たちを救われました。

ダーウード(ダビデ):

人々の上に立つ者として神に王権を授けられた預言者。

スライマーン(ソロモン):

「偉大な王国」(婦人章:54)を神に授けられた預言者。神の被造物を多く使役しました。

ザカリーヤ(ザカリヤ):

イスラエルの民から出た預言者の一人。イーサー(彼の上に平安あれ)の母マルヤムの後見人で、彼女を養い指導しました。ザカリーヤの高齢と身籠らない妻にも関わらず、神は息子ヤヒヤ(ヨハネ)を授けました。

イーサー:

最も偉大な使徒の一人。人の配偶者のいないマルヤムをイーサーの母とし、彼をイスラエルの民に遣わしました。また、神は彼に福音書を授け、多くの奇跡で助力しました。

ムハンマド:

彼は“最後の預言者”です。神は彼をすべての人のために遣わし、クルアーンを啓示しました。いかなる偽りもクルアーンに入り込むことはありません。



イスラームの
使徒とは誰か？



ムハンマドはイスラームの預言者の名前です。この名前は現在、世界で最も広まっている名前です。意味は、“彼の道徳と善行のために、人々が称賛し称える人”。では、ムハンマドはどういった人物でしょうか？

イスラームの使徒の名前

ムハンマド(彼の上に平安あれ)(570-632)はクライシュ族のハーシム家、アブドゥル・ムッタリブの息子であるアブドゥッラーの息子です。

・ムスリムは彼について、次の事を信じています。

彼はすべての人のための使徒

神はムハンマド(彼の上に平安あれ)をすべての人に遣わされました。民族、社会的地位、肌の色に関わらず、すべての人に神への服従を求めました。「言ってやるがいい。“人びとよ、わたしはアッラーの使徒として、あなたがた凡てに遣わされた者である。”

(高壁章：158)

クルアーンは彼に啓示された

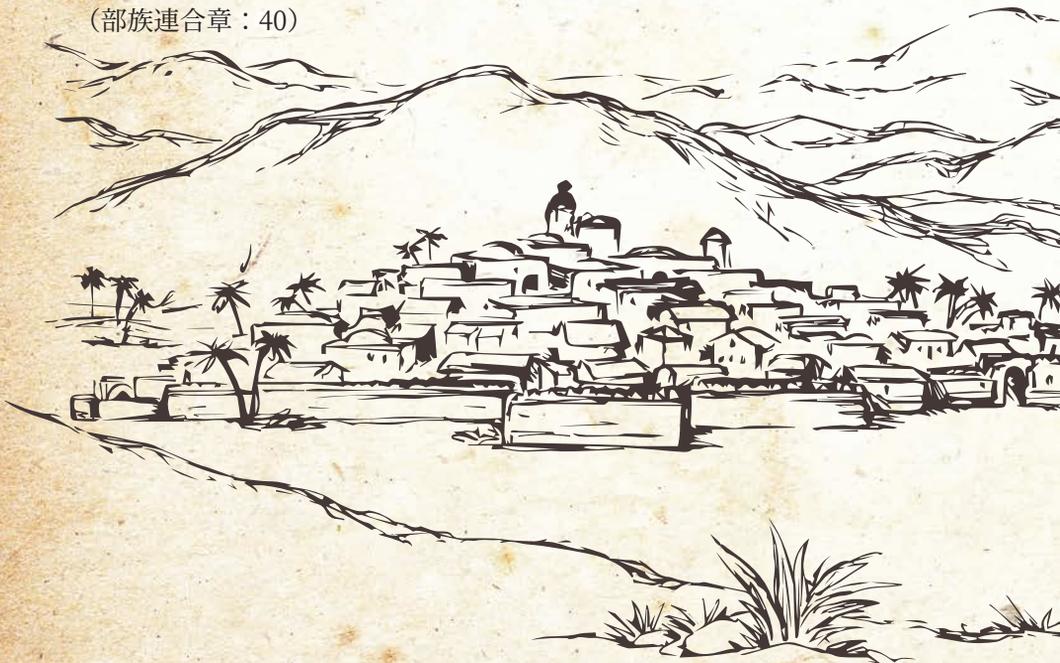
神は最後にして最も偉大な啓典、クルアーンを彼に啓示しました。クルアーンに「虚偽は、前からも後ろからも近づくことはできない。」

(フスィラ章：42)

彼は最後の預言者であり使徒

ムハンマド(彼の上に平安あれ)は神が遣わされた最後の預言者です。彼の後には預言者はいません。このことはクルアーンに証言されています。「ムハンマドは、あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし、アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘(ふうかん)である。」

(部族連合章：40)



イスラームの使徒、ムハンマド(彼の上に平安あれ)の生涯

1. 誕生

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は570年、アラビア半島西部のマッカでクライシュ族に生まれました。父は生まれる前に亡くなり、母も彼が幼少の頃に亡くなりました。彼は父方の祖父アブドゥル・ムッタリブに育てられました。祖父亡き後は、父方の叔父、アブー・ターリブの元で育ちました。

2. 成長と生涯

啓示を受ける前、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はマッカのクライシュ族で40年間生活しました。この間(570-609)、彼は正直さと礼節のために、誠実で信頼できる人物としてよく知られていました。彼は羊飼いと、のちには商人として働きました。

イスラーム以前のムハンマド(彼の上に平安あれ)は、預言者イブラーヒーム(彼の上に平安あれ)の信仰である一神教を保っていました。なにものをも神に並べたてず、偶像崇拝や多神教の実践を拒み、ただアッラーのみを崇拝していました。また、彼は文字の読み書きができませんでした。

3. 使命

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は40歳になると、現在のサウジアラビアにあるマッカ郊外のヌール山のヒラー洞窟で多くの時を過ごすようになりました。ここで彼は瞑想し、神を崇めていました。そのような日々のある時、神の啓示を受けたのです。啓示は明確でした。あなたを創った神の助けをもって読め。最初に下されたのは「読め、“創造なされる御方、あなたの主の御名において”(凝結章：1)でした。これは新たな知識、読み書き、光、そして導きの幕開けになりました。クルアーンの啓示は彼の死去まで、その後23年に亘り続きました。





4. 伝道

秘密裡にイスラームを伝えた最初の3年ののち、次の10年間を預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は公然と教えを説きました。彼に付き従った人々の大半は社会的弱者や貧者でしたが、これは他の預言者たちの時と同じことでした。この時期、彼と信仰ある人々は、ムハンマド自身が属するクライシュ族によって最悪の不正と迫害を受けていました。それでも心折れることなく、預言者は巡礼の時期にマッカにやってきた他部族に新たな信仰を説きました。そして、マディーナからの一団がそれを受け入れたため、ムスリムたちは次々とマディーナに移り住み始めました。

5. 遷移(ヒジュラ)

神の預言者(彼の上に平安あれ)は53歳であった622年に、当時ヤスリブと呼ばれていたマディーナに移住しました。これは彼に敵対するクライシュ族が、彼の殺害計画を立てたからでした。マディーナで預言者は10年を過ごし、そこで人々をイスラームに誘い、同胞と礼拝し、喜捨を行い、道徳を説き、イスラームの儀礼を実践しました。



6. 布教

マディーナに居住した時期(622-632)に、ムハンマド(彼の上に平安あれ)はイスラーム文明の基礎を築き、ムスリム社会を確立させました。部族主義を克服し、知識を広め、正義、公正、人間関係、組織の在り方の原則を定着させました。いくつかの部族はイスラームを根絶させようと争いを仕掛けてきました。しかし、神は預言者を支援し、イスラームに勝利をもたらしました。そして、マッカの人々とアラビア半島の町々や諸部族は、心からこの真実の宗教に入信したのです。

7. 逝去

イスラーム暦11年サファル月(西暦632年6月)、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)がイスラームを広め、神の恩寵を人々に届ける任務を完遂しました。彼は突然の熱病に罹り、イスラーム暦11年ラビーウ・アルアウワル月11日の月曜日(西暦632年6月8日)に63歳で逝去しました。彼は妻アーイシャの部屋で死を迎え、そこに埋葬されました。現在はマディーナの預言者マスジドに隣接しています。



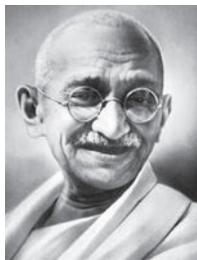


公平な人々から見た
預言者ムハンマド



預

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)を知った公正な人物は誰でも、その文化に関係なく、彼の生涯に魅了され感銘を受けます。東西の科学者、哲学者、作家が著作の中で、それを記しています。そのいくつかを紹介しましょう。



マハトマ・ガンディー

“私は何百万人の心を間違いなくとらえている、この人物の人生を知りたかった。そして、イスラームが今日の地位を得たのは剣によるのではない、ということを確認した。それはわかりやすさ、預言者の謙虚さ、誓約への実直さ、友や信者への献身、大胆さ、勇敢さ、そして自身の使命と神への絶対的な信頼によるのだ。剣ではなくこれらが、あらゆる障害を乗り越えさせた。預言者の生涯を読み終え、この偉大なる人生の続編がないことがひどく残念だ。”

出典：週刊紙「ヤング・インディア (Young India)」
1924年9月11日



私は何百万人の心を間違いなくとらえている、この人物の人生を知りたかった。そして、イスラームが今日の地位を得たのは剣によるのではない、ということを確認した。



マイケルH. ハート

著書「史上最も影響を与えた100人」で、なぜ預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)を一番に選んだかを次のように書いています。“ムハンマドを世界で最も影響を与えた人物に選んだことは、読者を驚かせ、また疑問を投げかけられるかもしれない。しかし、彼は史上唯一、宗教と世俗の両方で最高の成功を収めた人物なのだ。”

マイケルH. ハート 出典：「100：史上最も影響を与えた人物ランキング」初版3ページ



アルフォンス・ド・ラマルティエヌ
(フランスの作家、詩人、政治家)

“目的の大きさ、手段の弱さ、成果の無限さの3つで人の才能を測るのであれば、近代の偉人の誰が、ムハンマドと比べられるだろうか。”

出典：「トルコの歴史」第1巻111ページ



コネル・ラマクリシュナ・ラオ(インドの哲学者、心理学者、教育家、教師)

“状況が変わっても、神の預言者は変わらない。勝利か敗北か、権力があるかないか、富があるか貧しいか、彼は常に同じであり、なにも変わらなかった。神の法が不変であるように、預言者もまた変化しないのだ。”

出典：「ムハンマド、イスラームの預言者」初版24ページ



ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
(ドイツの詩人、劇作家、作家、政治家)

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)を讃える詩「マホメットの歌」を詠んでいます。また、イスラームを賞賛し次のように書き残しました。“77歳になった今でも、イスラームに対する感嘆が消えない。それどころか、ますます思いは大きく強くなっている。”

出典：カテリーナ・モムゼン著「ゲーテとアラブ世界」177ページ

J.W.H ストバート

“彼のような権威と偉大さを兼ね備えた人物はいない。自由になる資力の小ささ、成果の広がりとその永続性から判断すれば、メッカの預言者以上に人類史上に輝く人物はいない。”

出典：「イスラームとその創始者」227-228ページ、1878年出版



エドワード・ギボン

著書「ローマ帝国衰亡史」に次のように書いています。

“我々の興味を掻き立てるのは、彼の宗教の広がりではなく永続性だ。彼がメッカとメディーナに刻んだ純粋で完璧な影響は、インド、アフリカ、トルコによる12世紀に亘った改革を経てもなお、同じであり続けている。”

出典：「ローマ帝国衰亡史」第3巻406ページ、1837年出版

“彼がメッカとメディーナに刻んだ純粋で完璧な影響は、インド、アフリカ、トルコによる12世紀に亘った改革を経てもなお、同じであり続けている。”（エドワード・ギボン）



ウィリアム・ダラント(アメリカの作家、歴史家、哲学者)

西洋の歴史を記した、妻のアリエル・ダラントとの共著「文明の話」(全11巻)で次のように書いています。

“その影響力で偉大さを評価するならば、彼(ムハンマド)は歴史の偉人の一人である。彼は熱波と食糧不足に苦しむ人々の、精神と道徳を向上させることに取り組んだ。そして、他のいかなる革命家よりも完全なる成功を収めたのだ。これほど完全な目標達成を果たした人も珍しい。彼は彼自身が宗教的であっただけでなく、当時のアラブを変える唯一の手段であった宗教を通じて、目標を達成した。彼はアラブの人々の想像力、恐怖、希望に訴えかけ、彼らが理解できるように話しかけた。彼が伝道を始めた時、アラビア半島は偶像崇拜の部族に満ちた砂漠だったが、彼が亡くなった時、そこには一つの国家があった。彼は狂信と迷信を排した。ユダヤ教、キリスト教、そして土着の信仰を前提に、彼は簡素で明確な、強靱な宗教を作り上げた。同時に断固とした勇気とアラブの誇りが、何世代にも渡って何百もの勝利をもたらした。この勝利は数百年のうちに帝国となり、今日まで世界の半分を支配している。”

出典：「文明の話：信仰の時代」第4巻初版174ページ

“その影響力で偉大さを評価するならば、彼(ムハンマド)は歴史の偉人の一人である。”（ウィリアム・ダラント）

かつて預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の強大な敵対者であったアブー・スフヤーンは、イスラームに改宗した後に、預言者について次のような驚くべき話をしました。“628年に東ローマ帝国皇帝ヘラクレイオスの元へ、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)が送ったイスラームに誘う書簡が届いた時のことです。皇帝はその書簡に大変驚きました。そして、この差出人を知るために、ムハンマドについて知っているアラブ人を呼び立てました。これに、クライシュ族の有力者でありムハンマド(彼の上に平安あれ)の敵対者であり、大シリア(現在のシリア、パレスチナ、レバノン、ヨルダンを指す)での交易に従事していたアブー・スフヤーンが応じました。彼とその同僚たちは宮殿に招かれました。ヘラクレイオスは預言者(彼の上に平安あれ)が誠実な人物かどうかを判断するため、通訳を介して知性あふれる質問を彼らに投げかけました。アブー・スフヤーンがその質問に答えたのを聞いて、皇帝は言いました。

「私は彼の家系について尋ねたが、あなたの返事は、彼の家系は高貴だという。すべての使徒たちは、彼が遣わされた同族の高貴な家系から出た。私は彼の主張は他の誰かがしたことがあるか、と尋ねたが、あなたの返事は否であった。もし過去に誰かが主張した内容であれば、私は彼の主張は昔の誰かの真似である、と言ったであろう。

さらに私は尋ねた。彼が嘘をついたことがあるか、と。あなたの返事は否であった。嘘をついたことがない人物が、どうすれば神について嘘をつけるのか疑問だ。

次に彼に従う者たちは富者か貧者か尋ねた。あなたの返事は、貧者が従っているという。すべての使徒たちには、そういった人々が従った。さらにその数は増えているか減っているか尋ねた。あなたの返事は、増えているという。これは真の教えが辿る道筋だ。

また、その教えに賛同した後に嫌気が差して棄教した者がいるかどうかを尋ねた。あなたの返事は否であった。これは真の教えの印であり、一度人の心に入ったならば堅固に根付く。

彼が誰かを裏切ったことがあるかとも尋ねた。あなたの返事は否であった。神の使徒たちは誰をも裏切ったことがない。

そして、彼があなたになにを命じたのか尋ねた。彼は神のみを信仰し、神になにものをも並べず、偶像崇拜を止め、礼拝し、正直で慎み深くあれ、と命じたとあなたは答えた。

あなたの言葉が真実ならば、近い将来彼はこの地を支配することであろう。私は彼の存在を聖書で知ってはいたが、あなたの一族から出るとは知らなかった。知っていたならば、なにをもってしても彼に会いに行っただろう。」(アル・ブハーリー：7)



預言者ムハンマドの生活
と高い道德の逸話



預

預言者(彼の上に平安あれ)は良き性質と完全な品位の象徴です。このことは、彼に敵対した者も含めて、洋の東西を問わず証言されています。彼の特性はクルアーンにも描写されています。

妻

妻のアーイシャ(彼女の上に神の嘉しあれ)が預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の性格について問われた時、こう答えました。「彼の性格はクルアーンそのものです。」(ムスリム：746)つまり、彼はクルアーンの教えを日々体現していたということです。

彼の人生と道徳をいくつか紹介しましょう。

謙虚さ

- 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は大変謙虚な方で、彼が到着すると人々が立ち上がるのを喜ばれず、そのことを禁じられました。教友たちに彼は最も愛されていましたが、彼らは彼が近づくのを見ても立ち上がりませんでした。なぜなら、彼がそれを厭うことを知っていたからです。

(アハマド：12345)

- 教友たちと共にいるとき、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の所作は素朴で謙虚なものであったため、知らない人は誰がムハンマドか区別をつけられませんでした。ある男性は近づいて尋ねました。「あなた方のうち誰がムハンマドですか？」(アル・ブハーリー：63)
- 教友たちが言うには、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はどんなに忙しくても、人々の求めに応じて出かけることを止めませんでした。その求めがどんなに些細なことでも、です。彼は大変に謙虚で、マディーナのある女奴隷が彼の手を

取って行く先に、ただついて行きました。(アル・ブハーリー：5274)

- 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は私物を修繕し、家事を妻たちと手分けし、家の周囲で彼女たちを助けました。彼の妻アーイシャ(彼女の上に神の嘉しあれ)によれば、「彼は家族を助けるので忙しかったのです。」(アル・ブハーリー：644)また、別の機会に彼女が言うには、「彼はあなたがたが彼の家でしたようにしていました。彼は自分のサンダルを直し、服を繕いました。」(アフマド：24749)
- 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。「原子の重さほどでも自惚れが心にある者は、天国に入れないだろう。」(ムスリム：91)。

イスラームの使徒は私物を修繕し、家事を妻たちと手分けし、家の周囲で彼女たちを助けました。





慈悲と思いやり

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。「最も慈悲深い方(神)は慈悲深い人に慈悲を垂れる。地上で慈悲を示しなさい、そうすれば天の御方はあなたに慈悲を示されるだろう。」(アブー・ダーウード：4941)

彼の慈悲と思いやりは、様々な場面で見られました。

子供への思いやり

・ 礼拝はイスラームにおいて柱であり、その間は話してはならず、動き回ってもいけません。しかし、ある時、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は孫娘のウマーマ(娘ザイナブの子)を抱いて礼拝を行いました。この時、平伏する動作では彼女を下に置き、立ち上がる際には再び抱き上げました。(アル・ブハーリー：494)

・ 礼拝中に後ろで母に抱かれた子供が泣いているのを聞けば、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は礼拝を手早くすませました。こうして母が子供の世話ができるようにしたのです。彼はおっしゃっています。「礼拝するときは、じっくりと行いたい。しかし、子供の泣き声が聞こえれば、短くする。長い礼拝で母親を悩ませたくはない。」(アル・ブハーリー：675)。

女性への思いやり

- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は教友たちに、女兒の面倒を見、思いやりを示すように呼びかけました。「女兒を養育し正しく遇するものは、そのことが彼を地獄の炎から守るだろう。」(アル・ブハーリー：5649)
- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の最後の説教の中で、女性は権利を与えられ、大事にされるべきであると強調しました。そしてこのことはムスリムたちの関心事とし、他者にもそうするように助言しなさい、と命じられました。「女性を大事にしなさい。」(アル・ブハーリー：4890)
- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は家族への思いやりの輝ける模範です。彼はラクダの隣に座り膝をつき、妻のサフィーヤ(彼女の上にアッラーの嘉しあれ)が彼を踏み台としてラクダに乗れるようにされました。(アル・ブハーリー：2120)
- ・ 娘のファーティマ(彼女の上にアッラーの嘉しあれ)が預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)を訪ねるといつでも、彼は立ち上がって彼女を迎え、手を取って接吻し、自分の席



に座らせました。(スナン・アブー・ダーウード：5217)

弱者への慈悲

- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は人々に、孤児を後見し面倒をみるように命じられました。彼は、「孤児の面倒を見る者と私とは、楽園でこうなる。」と自身の人差し指と中指をくっつけて見せました。

(アル・ブハーリー：4998)

- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は未亡人や困窮者の面倒を見る者は、神の道に奮闘する者、一晚中任意の礼拝に立つ者、常に断食している者と同等である、とおっしゃいました。

(アル・ブハーリー：5661)

- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は、弱者に思いやりを示し彼らに権利を認めることは、生き残り敵に勝利するのと同様であるとされました。「私のために弱者を探し出さない。彼らによってこそ、あなたがたに蓄えと神の助けが与えられる。」

(アブー・ダーウード：2594)



預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は、弱者に思いやりを示し彼らに権利を認めることは、生き残り敵に勝利するのと同様であるとされました。

公正さ

- 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は、どのような状況でも公正でした。自分の家族であっても、神の法によって裁いたのです。「あなたがた信仰する者よ、証言にあたってアッラーのため公正を堅持しなさい。仮令あなたがた自身のため、または両親や近親のため(に不利な場合)でも・・・」

(婦人章：135)

- いかなる形の利息(リバー)も禁じると預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)が宣言した時、彼が最初に言明したのは、自身の父方の叔父アッバース・イブン・アブドゥルムッタリブの利息の撤廃でした。「私が無効とする最初の利息は我々の利息、アッバース・イブン・アブドゥルムッタリブのものだ。それはすべて、無効にされる。」

(ムスリム：1218)

- 洗練された文明社会とは、弱者が不安や躊躇なく権利を主張できる社会です。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。「弱者が問題なく権利を手にすることができない共同体にはいけない。」

(イブン・マージャ：2426)。

善行と気前のよさ

- ある時、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の元を男が訪れ、お金を要求しました。預言者は彼に「今は全く手元にないが、私の名前でも何でも買うといい。その代金は私が後ですべて支払うから。」と答えました。教友のウマル(彼の上にアッラーの嘉しあれ)が言いました。「神はあなたの手を負えない事柄までは、あなたに課せられていない。」しかし、預言者はそれを退け、そして男は言いました。「至高の玉座におられる御方は、失うことを恐れずに費やす者の富を減らすことはされません。」これを聞いた預言者は微笑み、喜びにあふれた顔をされました。

(伝承選択集：88)

- ある時、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は8万ディルハムを受け取られ、それをゴザの上に置き、分け与えました。全てがゴザの上からなくなるまで、彼は誰の問いかけにも応じられませんでした。

(アル・ハーキム：5423)。



忍耐と寛容

- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はイスラームを伝えるために訪れたターイフの町(マッカから90キロ離れた山間の町)から戻られました。この道中、彼はターイフで遭遇した酷い扱いにひどく気落ちしていました。そこへ神は天使を遣わし、ターイフの人々を破滅させたいか尋ねました。彼はこう答えました。「いいえ。それよりも神が彼らの中から神のみを崇拜し、なにものをも同列にしない人々を選び出されることを望みます。」

(アル・ブハーリー：3059)

- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)と付き従う者たちは、マッカの人々による強烈な迫害を受け、生まれ故郷であるその地を追われました。しかし、預言者が示された最上の忍耐と寛容は彼らに対してでした。神が彼に勝利を与えマッカへの帰還を果たした時、長年、ムスリムに対する残虐行為を行ったクライシュ族に彼は言いました。「クライシュ族よ、あなたがたに私は何をすべきだろうか？」クライシュ族は答えて言いました。「ご自由に、あなたは兄弟であり、兄弟の息子です。」これに対して預言者は「預言者ユースフが彼の兄弟に言った言葉を伝えよう。(ヤアコーブの息子ユースフは兄弟たちによって井戸に打ち捨てられた)“今日あなたがたを、(取り立てて)咎めることはありません。アッラーはあなたがたを御赦しになるでしょう。かれは慈悲深き御方の中でも最も優れた慈悲深き御方であられます。”(ユースフ章：92)「行きなさい、あなたがたは自由だ。」

(アル・バイハキー：18275-18276)



イスラームでは、使徒はどのような富も蓄えたことがないと伝えています。



- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は次のクルアーンの一節を常に心に留めておられました。「またわれが、かれらのある部類の者に与えたこの世の栄華に、あなたの目を見張ってはならない。われは、それによってかれらを試みた。あなたの主の賜物こそ至上でまた永続する。」

(ター・ハー章：131)

- ・ ある日、教友ウマル・イブン・アル=ハッターブは預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)を訪ねました。彼はゴザの上に寝ており、起き上がった時に、その跡が体についていました。ウマルは言いました。「部屋には何もなかったのだ、預言者に言ったのだ、“神にあなたの人々が裕福であるように祈ればいいではないですか。ペルシアもビザンチンも、神を信じていないのに豊かになったのですから。”すると彼は次のように答えた。“アル・ハッターブの息子よ、あなたは来世が現世より良いものだと思っていないのか?彼らが与えられた富は現世だけのもの。”」

(アル・ブハーリー：2336)

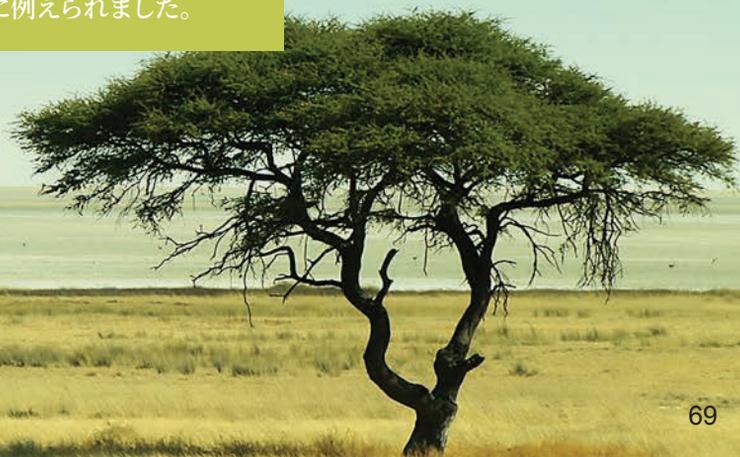
- ・ 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。「現世がいかほどのものだろうか。私は一時の涼を木陰に求めたラクダ乗りのようなもの。少し休んだら、その木を離れてまた旅を続ける。」

(アッティルミズィー：2377)

- ・ 時には最長3か月にも渡って、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の家で竈(かまど)に火が入ることはなく、水とナツメヤシだけでやり過ごしていました。(アル・ブハーリー：2428)そのナツメヤシすら質が悪く、お腹を満たすものではありませんでした。(ムスリム：2977)また、彼は死ぬまで3日連続で大麦のパンを食べることもありませんでした。(ムスリム：2976)



イスラームの使徒は現世における自身の生を、木陰で一時の休憩を取り、またすぐに旅立つ旅人に例えられました。



不変の忠義

- 道徳的性質の中でも、不変の忠義は最も高尚で気高いものです。そこに相手との約束事が存在しなければ、なおさらです。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はこれを常とし、親切にはより以上の思いやりで返されていました。ましてや相手と契約があれば、言うまでもありません。
- 東ローマ帝国皇帝ヘラクレイオスはクライシュ族に、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の性質について尋ねました。「彼は裏切ったことがあるか?」彼らの答えは「いいえ。」でした。「神の使徒とは裏切らないものだ。」
(アル・ブハーリー：7)
- 預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は最初の妻ハディースァハへ、最高の貞節と忠義を示されました。彼女の特別な地位を認め、彼の人生で果たした偉大な役割とムスリムの信仰に対する貢献に感謝しました。そして、彼女の女性の親族や友人たちを常を守ろうとされました。



イスラームにとってマッカに次いで2番目に重要な町マディーナにある預言者マスジド。預言者ムハンマドはこの地に移住し、彼のマスジドを建て、その隣接した場所に埋葬されました。毎年多くのムスリムがここを訪れます。

- 預言者の妻の一人であるアーイシャは、伝道の初期に亡くなったため面識のないハディージャに対する彼の忠義について語ったことがあります。「私は預言者の妻たちに嫉妬したことはありませんが、面識のないハディージャは別です。彼はよく彼女の話を話し、羊の犠牲を捧げるときには常に、彼女の女性の友人たちにもその肉を分け与えていました。私は彼に“まるでこの世にハディージャしか女性がいなかったかのように振舞われるのですね。”と言うたびに、彼は“ハディージャはこういう人物だったよ。”と、多くの彼女の良き性質を挙げ始めました。」

(アル・ブハーリー：3607)

- イスラームの初期において迫害されたムスリムを保護したアビシニア(訳注：エチオピアの旧名)の王は、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の元に使節を派遣しました。彼らが到着すると、預言者は自ら立ち上がり、それを歓迎しました。教友たちが「我々が行きます。」と言いましたが、「彼らはムスリムを温かく迎えてくれた。私はそれに報いたいのだ。」とおっしゃいました。

(シュアブ・アル・イーマーン：8704)

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は生活のすべての面において、神の命令に従い彼以前の預言者たちの足跡を辿り、素晴らしい道徳の最高の範を示されました。





預言者ムハンマドの言葉

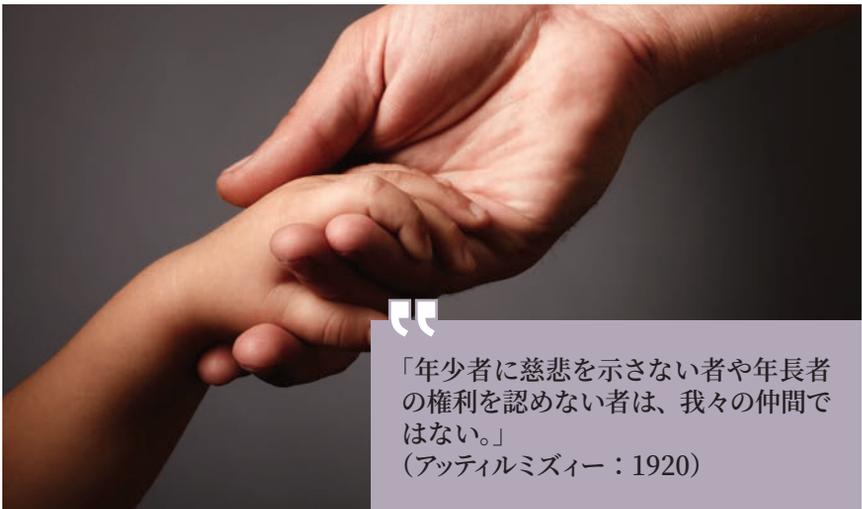


ムスリムは預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）の言葉を伝えることに努め、記憶と紙の両方に記録してきました。実際、高度に訓練された暗唱者と学者たちは比類ない献身を示し、最大の注意を払って記録を残してきました。そうすることで、彼らは真偽を見極める最高の検証法を世界に提供しました。検証の過程では、ほんのわずかな言い回しや単語にも注意し、後世に追加されたかどうかも見極めました。

預

預言者ムハンマドの言葉の例

- ・「行動には意図があり、すべての人にそれはあります。」
(アル・ブハーリー：1)
- ・「善行は良い道徳であり、悪行は魂の迷いで、あなたが他者に知られたくないものです。」
(ムスリム：2553)
- ・「どこにいても神に従いなさい。悪行を犯したなら善行でそれを償いなさい。人々によく接しなさい。」
(アッティルミズイー：1987)
- ・「現世で禁欲でいなさい、神があなたを愛されます。他者の所有物に無関心でいなさい、人々があなたを好みます。」
(イブン・マージャ：4102)
- ・「過去の預言者たちと私を例えるなら、大変に立派で美しい建物を建て、ある一角のレンガ一つを除いて完璧に仕上げた人物のようです。人々はこの建物を訪れ、”あのレンガさえ正しく配置されていればなあ。”と仰うことでしょう。私はそのレンガであり、最後の預言者です。」
(アル・ブハーリー：3342)
- ・「現世の困難に直面している信者を扶(たす)けた者を、神は最後の審判の日の困難から助けられるでしょう。借金を負う者を救済する者の現世と来世を、神は容易にされるでしょう。ムスリムの過ちを秘密にする者の過ちは、神が現世と来世で秘密にされるでしょう。同胞を助ける僕を、神は助けられます。知識を求める道のりにある者は、神が天国に続く道のりを容易にされます。」
(ムスリム：2699)



「年少者に慈悲を示さない者や年長者の権利を認めない者は、我々の仲間ではない。」
(アッティルミズイー：1920)



「信仰がない限り、天国には入れません。そして、互いを愛さないかぎり、信仰はありません。互いを愛するとはどういうことか？互いに平和の挨拶を交わすことです。」
(ムスリム：54)

- 「自分自身のように同胞を愛さない限り、真の信仰者ではありません。」
(アル・ブハーリー：13)
- 「真のムスリムとは、舌も手もムスリムを傷つけない者のことです。移住者とは、神が禁じられた事柄から離れ去った者の事です。」
(アル・ブハーリー：10)
- 「非ムスリムを不当に扱ってははいけません。彼に能力以上の働きを強いたり、同意なく奪ってははいけません。もしそうしたのなら、最後の審判の日に私は彼のために嘆願するでしょう。」
(アブー・ダーウード：3052)
- 「慈悲深い者には最も慈悲深い方から慈悲が示されます。地上のすべてに慈悲を示しなさい、そうすれば天上の御方はあなたに慈悲を示されるでしょう。」
(アブー・ダーウード：4941)
- 「人を騙す人間は、我々の仲間ではありません。」
(アッティルミズィー：1315)
- 「互いに親切にし、思いあい、同情しあう信者たちは、一つの体のようなものです。足の一部が痛めば、全身が熱を出し眠れなくなります。」
(ムスリム：2586)
- 「あなたがたは全員が保護者であり、あなたたちの地域の責任者です。支配者は保護者であり、彼が支配するものの責任者です。男性は保護者であり、彼の家族の責任者です。女性は保護者であり、夫の家と子供たちの責任者です。つまり、すべての人は保護者であり責任者なのです。」
(アル・ブハーリー：4892)

- 「完璧な信仰をもつ信者とは、最高の道徳を持つ者のことです。そしてあなたがたのうち最善な者とは、あなたがたの妻への待遇が最善の者のことです。」
(アッティルミズイー：1162)
- 「あなたがたのうち最善の者とは、あなたがたの妻への待遇が最善の者で、私の妻たちへの待遇は最善です。」
(アッティルミズイー：3895)
- 「神はいかなることに對しても思いやりと穏やかさを愛されます。」
(アル・ブハーリー：5678)
- 「自制と穏やかさに乏しい者は、すべての美德が乏しい。」
(ムスリム：2592)
- 「良いムスリムであることの一つは、無関係の事柄に手を出さないことです。」
(アッティルミズイー：2317)
- 「偽善者の印は3つあります。話せば嘘をつき、約束をすれば破り、信頼させては裏切ります。」
(アル・ブハーリー：33)
- 「道を歩いていた男は、喉がひどく渴いてきました。ほどなくして彼は井戸を見つけ、水を飲み、渴きを癒しました。その後、彼は渴きのあまり泥を食べる犬を見ました。彼は“この犬はさっきの自分のように喉が渴いてるんだな。”と独り言を口にしながら井戸に戻って靴を水で満たし、犬に与えました。神はこの善行のために彼を赦されました。」人々は尋ねました。「神の使徒よ、動物の面倒をみることで報奨が得られるのですか?」「はい。どのような生命の面倒をみることでも、あなたがたは報奨をえるでしょう。」
(アル・ブハーリー：2466)



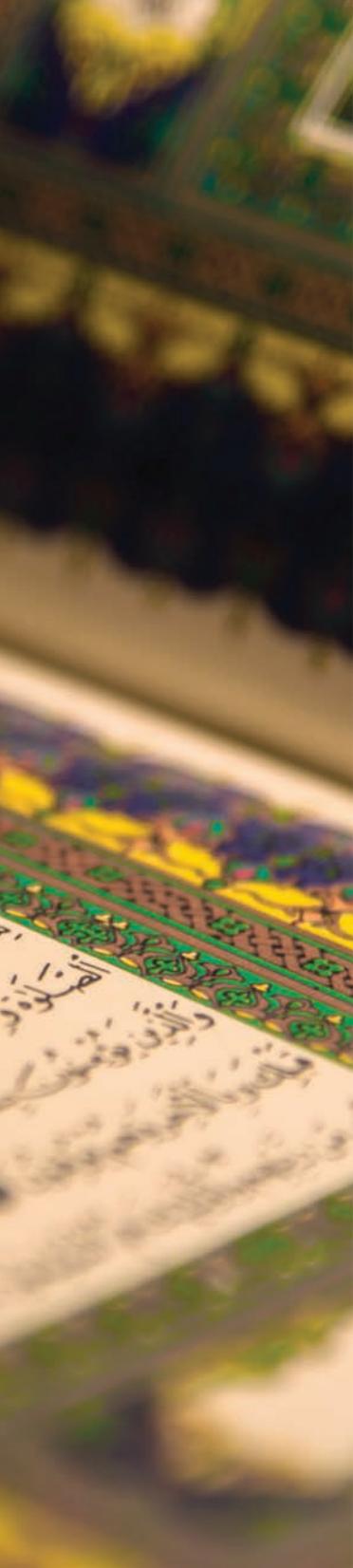
クルアーンに見る預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)

預言者ムハンマドの性格の素晴らしさと彼の周囲との交流に、クルアーンは光を当てています。クルアーンは彼の素晴らしい道徳、卓越した性質そしてその人間性を明らかにします。

- 彼は万有への慈悲であり(預言者章:107)、ムスリムだけに向けられたものではありません。
- 彼は崇高な徳性を備えています。(筆章:4)
- 彼は人々を真実へ導くことに熱心であり、正しい道に従わない人々に心から苦しんでいました。クルアーンでは繰り返し、彼の使命はただ人々をイスラームに導き神の教えに従うように伝えるだけだ、と述べています。導きは神の望まれるままに行われるのです。
(フード章:12、家畜章:107、洞窟章:110)
- 彼は他者の欠点を認め、過ちを許しました。
(悔悟章:43)
- もうやめるように、と神に言われるまで彼は敵対者への赦しを神に請い続けました。
(悔悟章:80)
- 彼は信者たちの苦しみに心を痛め、また、彼らに最も親切で思いやりがありました。
(悔悟章:128)
- 彼は訪問者の長居に困らされることもありますが、非常に謙虚であったためにそのことを悟らせることはありませんでした。
(部族連合章:53)
- 彼は思いやりがあり、どんなに困難な状況にあっても教友たちに変な優しさを示し、彼らの意見を聞きました。
(イムラーン家章:159)



クルアーン
- 永遠の奇跡 -



し
しばしば世界のベストセラーリストに挙げられ、15億人以上のムスリムが信じているクルアーンとはなんでしょう？

ムスリムが信じるイスラームの啓典クルアーンには、次の特徴があります。

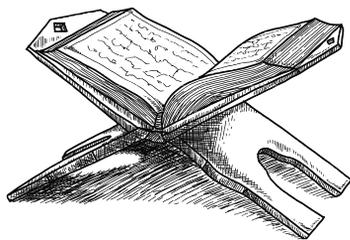
- 神の言葉であり、預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）の元に人々への導き、光として啓示されました。
- 最後の啓典の書です。
- どのような改竄からも守られています。
- クルアーンを読むあるいは朗読することは、崇拝行為であると考えられています。これを暗記すること、そこにある法を適用することも同様です。

大天使ジブリール（ガブリエル）（彼の上に平安あれ）を通じて、40歳を越えた預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）の元にクルアーンが啓示されました。最初に啓示されたのは「読め、“創造なされる御方、あなたの主の御名において。”（凝血章：1）この後、様々な状況で、時間を空けて必要な時に啓示されました。

クルアーンは114の章から成り立ち、様々なテーマを異なる文体表現で記録しています。そして最高の雄弁さと表現の美しさがあることは、誰もが認めるところです。クルアーンは真の導きを示し、人々に唯一なる神への信仰を呼びかけるものです。

クルアーンの重要なテーマ

1. 神の唯一性を証明、確立し、神以外を崇める者の思い違いと誤りを正すこと。
2. 預言者たちとその民族の物語を語ること。
3. 広大な宇宙と周囲の生命について人々に考えさせ、そこにある神の尽きることない恵みに気づかせること。
4. 法を解説し、神の定めた合法・非合法をつまびらかにすること。
5. 信仰ある者の性質と道徳がどのようであるかを述べ、悪い性質について警告すること。
6. 最後の審判の日について、そして善行への報いと悪行への処罰を語ること。
7. 預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）とその教友たちに起きた出来事を解説することで、信者たちを教育することこれらがクルアーンの特徴のまとめです。





クルアーンを暗記することの比類なき

神はその最後の啓典を「クルアーン（“朗読”“読むもの”の意）」と名づけられました。なぜなら、これは記憶されるべきものだからです。また、神はクルアーンの中で“聖典”とも呼んでいます。なぜなら、これは書かれるべきものだからです。事実、クルアーンは暗記と記録によって保存されてきました。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）が啓示を受け取った時、何人かの選ばれた者たちが彼から直接に暗記しました。同時に、彼の前で書き記しました。預言者から直接暗記した内容と一致しない限り、記録は承認されませんでした。

福音書に関して、キリスト教の神学者たちは内容に矛盾があることを認めています。これは、書き手によって典拠が様々なこと、記録された日付が異なること、伝聞による記録であること、が原因です。しかし、たとえそうであっても、彼らにとっては人類への導きなのです。

誠実に偏見なくクルアーンを研究する人は誰でも、そこに矛盾や相反がないことを認めます。クルアーンにある言葉とその意味は、明らかに神の言葉です。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）から直接に暗記され、彼の指導の下でクルアーンは記録されました。このことは啓示が

降りてから直ぐに始められました。そこにどのような追加も欠落もありません。このことは、宗派や意見の相違に関係なく、ムスリムに異論はないのです。

クルアーンは最上の努力、正確さ、的確さをもって、何世代にも亘り受け継がれてきました。書かれ、読誦され、暗記されてきたクルアーンには、ただの一字も追加や削除、あるいは改竄はありません。中国にある現在のクルアーンと博物館に所蔵されている中央アフリカの千年以上昔のクルアーンを比べた時、そこに相違が全くないことに驚くことでしょう。時を超えた違う言語の地でも、発音から読み方まで、まるで同じなのです。現代のインドネシアで学んだ子供と、千年前のマッカで教える学者と、どちらも詠み上げ方に違いはありません。クルアーンが言うように「かれらはクルアーンを、よく考えてみないのであろうか。もしそれがアッラー以外のものから出たとすれば、かれらはその中にきっと多くの矛盾を見出すであろう。」

（婦人章：82）

「本当にわれこそは、その訓戒を下し、必ずそれを守護するのである。」

（アル・ヒジュール章：9）

驚くべき語り掛け

クルアーンを注意深く集中して読む人は、それが彼に直接そして個人的に語りかけてくることに気づきます。それどころか、彼に向き合い、対話させるのです。さらに驚くべきは、読者が考えを浮かべる前に、まるでそれを知っていたかのように示してきます。

画家であれば観る者を追うかのように目を描くことは可能でしょう。しかし、本が読者の考えを追い、質問に答えることは可能でしょうか。しかも、読者の頭にその考えや質問が浮かぶ前に、答えが示されるのです。このことは文化や置かれた状況に関わらず、多くの読者が経験しています。

事実、クルアーンはこの驚くべき手法で人の性質を判断し、秘密と弱点を明らかにします。読者にとって初めは厳しい体験かもしれませぬ。しかしやがて、彼が長い間向き合うことを避けていた問題に、彼の魂を立ち向かわせるのです。

クルアーンを真剣に読むと、内に隠された考え、心の状態、態度に気づきます。これには、誤った方向に導かれた人と正しく導かれた人とがいます。この時、人生を振り返る気づきが生まれるのです。クルアーンにある多くの章句が、このことを具体的に思い起こさせます。そして気づかぬうちに、だんだんと真実を明かし、深く心へ影響を与えます。クルアーンは魂を写しだす鏡になります。その真の性質、欠点、可能性そして機会を明らかにします。こうしてクルアーンは魂に深く染み込み、アッラー以外に神はないと確信させるのです。

絶望に打ちひしがれている時には、次の章句を読みまします。「自分の魂に背いて過ちを犯したわがしもべたちに言え、“それでもアッラーの慈悲に対して絶望してはならない”アッラーは、本当に凡ての罪を赦される。かれは寛容にして慈悲深くあられる。」(集団章：53)

あるいは、迷い、内なる葛藤にさらされ安息と安寧を求める時には、次の章句にそれを見出します。「われのしもべたちが、われに就いてあなたに問う時、(言え)われは本当に(しもべたちの)近くにいる。かれがわれに祈る時はその嘆願の祈りに答える。それでわれ(の呼びかけ)に答えさせ、われを信仰させなさい、恐らくかれらは正しく導かれるであろう。」(雌牛章：186)

人生がうまくいかず、またそのことにもう耐えられない、あるいは元に戻したいと感じた時には、次の章句に治癒と絶え間ない支援を見出します。「アッラーは誰にも、その能力以上のものを追わせられない。(人びとは)自分の稼いだもので(自分を)益し、その稼いだもので(自分を)損う。“主よ、わたしたちがもし忘れたり、過ちを犯すことがあっても、咎めないでください。主よ、わたしたち以前の者に負わされたような重荷を、わたしたちに負わせないでください。わたしたちの罪障を消滅なされ、わたしたちを赦し、わたしたちに慈悲を御くだし下さい。あなたこそわたしたちの愛護者であられます。不信心の徒に対し、わたしたちを御助け下さい。」

(雌牛章：286)

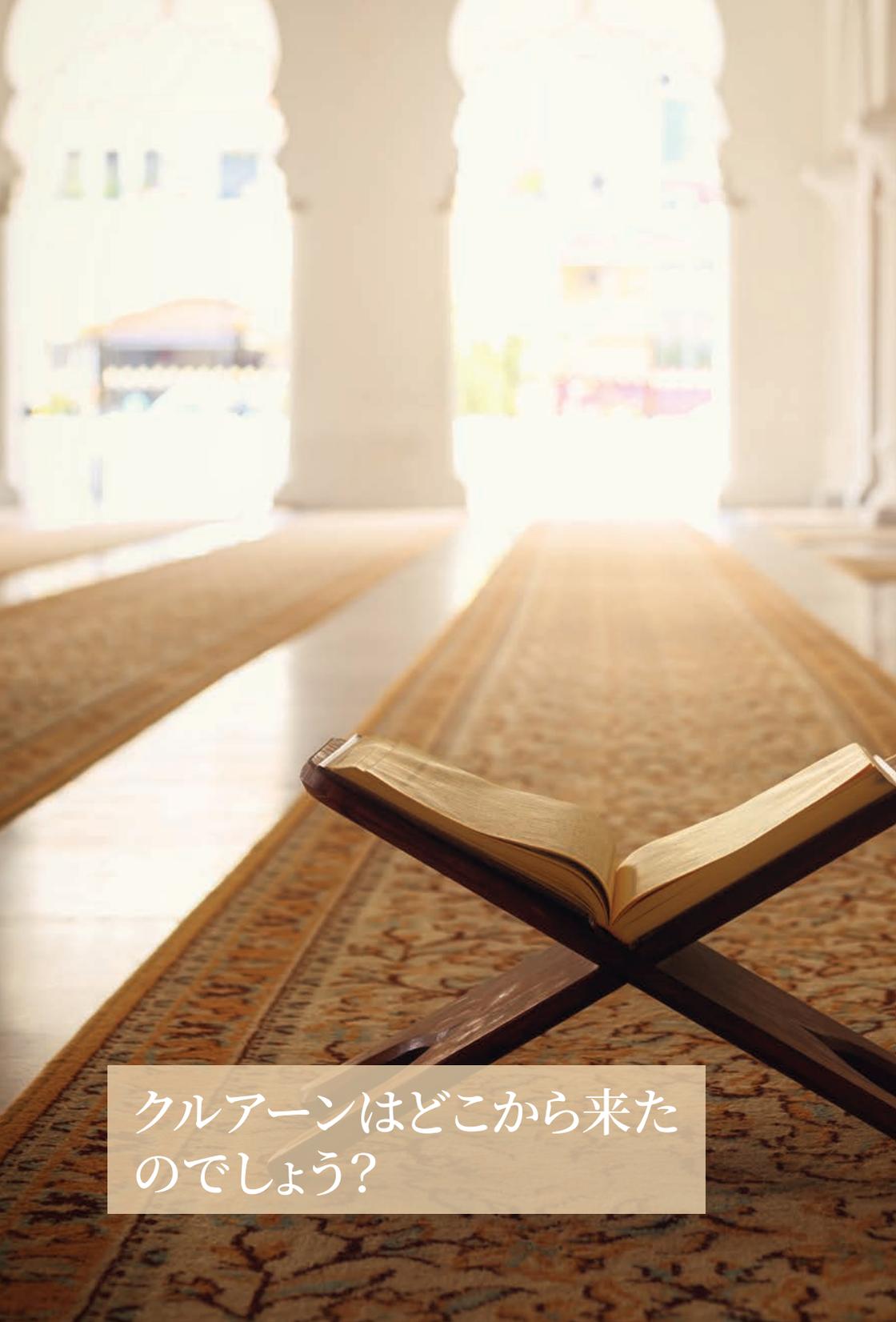
アメリカの作家、歴史家、哲学者であるウィリアム・ダラントは、他の偏見をもたない学者とともに、クルアーンの影響とその独特な地位を認めています。著書「文明の話」第4巻“信仰の時代”の中で、次のように記しています。

素晴らしい技術と配慮で書き写し装飾され、モスLEMが読み方を学ぶ本となり、彼らの教育の中核となったクルアーンは、1300年に亘って記憶に残ってきた。またこの間、何億人もの人々の想像力を呼び覚まし、性格を形成し、そしておそらく、知性も研ぎ澄ました。イスラームはどのような宗教と比べても最も簡素で、神秘主義と儀式は最小限でしかなく、偶像崇拜と聖職制度から自由だ。人に人生の困難と限界を文句なく受け容れさせ、そして同時に、彼らを歴史上最も驚異的な拡大へと駆り立てた。さらに、カソリックもユダヤも受け入れられるだろう言葉で信仰を定義した。

「正しく仕えるということは、あなたがたの顔を東または西に向けることではない。つまり正しく仕えるとは、アッラーと最後の(審判の)日、天使たち、諸啓典と預言者たちを信じ、かれを愛するためにその財産を、近親、孤児、貧者、旅路にある者や物乞いや奴隷の解放のために費やし、礼拝の務めを守り、定め喜捨を行い、約束した時はその約束を果たし、また困苦と逆境と非常時に際しては、よく耐え忍ぶ者。これらこそ真実な者であり、またこれらこそ主を畏れる者である。」

(雌牛章：177)

ウィリアム・ダラントによれば、「クルアーンは、1300年に渡って記憶に残ってきた。またこの間、何億人もの人々の想像力を呼び覚まし、性格を形成し、そしておそらく、知性も研ぎ澄ました。イスラームはどのような宗教と比べても最も簡素で神秘主義と儀式は最小限でしかなく....」

An open book, likely the Quran, is placed on a dark wooden stand. The stand is positioned on a patterned rug in a mosque. The background shows a long, brightly lit hallway with arched doorways and a large, ornate chandelier hanging from the ceiling. The lighting is warm and golden, creating a serene atmosphere.

クルアーンはどこから来た
のでしょうか？



この問いは、ムスリムにとっての聖典であるクルアーンと預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）について語る時、すぐに頭に浮かぶものです。この問いを尋ねる資格は私たちにはないのでしょうか？ムスリムの出す答えを受け入れないといけないのでしょうか？

クルアーンが6世紀のマッカに生まれた文盲のアラブ人ムハンマド・ブン・アブドゥッラーによって伝えられたことは、歴史家が概ね一致しているところです。これは明確で疑いようがありません。私たちはクルアーンを読むことで、これが預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)の作品ではなく、神が彼に啓示した高貴な言葉であり、ムハンマドの使命はなにも足したり引いたりすることなく、人びとに伝え説明することであったのがわかります。

イスラームの使徒であるムハンマド自らが、クルアーンを考案したのでしょうか？あるいは誰かから学び、それを自分の言葉に言い換えて人々に示したのでしょうか？

これはまっとうな質問であり、クルアーンあるいはムハンマドの人生を学んでいない限り、すぐに思い浮かぶものです。

もしムハンマドが本当に、人びとに自身の影響力を広めるためにクルアーンは神の言葉だと謀ったのだとしたら、どうして彼の言動は全て神の言葉だと主張しなかったのでしょうか？

歴史研究において、多くの作家や知識人たちが他人の成果を剽窃(ひょうせつ)しているというのは、よく知られています。心の正しい人が自分の成果を他人の成果とするでしょうか？

ここで一つの疑問が浮かびます：もしムハンマドが本当に、人びとに自身の影響力を広めるためにクルアーンは神の言葉だと偽ったのだとしたら、どうして彼の言動は全て神の言葉だと主張しなかったのでしょうか？

ムハンマドがクルアーンを考案し、神の言葉だと主張することで自身の影響力を広げ名誉を得るとするのは、全く意味をなしません。なぜなら、この書にはムハンマド(彼の上に平安あれ)を導きその過ちを正す、多くの章句が収められているからです。

クルアーンを読む人なら知っていることですが、この聖典は私的なあ

るいは公的な問題どちらをも、非難の対象としていません。そうでありながら、ムハンマド(彼の上に平安あれ)の家族に関する問題に関して、非難し助言しているのです。彼の下した決断の過ちだけでなく、イスラームに誘う際に誤ったことも指摘します。

ある時、預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は部族の有力者たちにイスラームを説くことに没頭していました。そこへ、精神の渴望を満たすことを求めて一人の盲人が訪ねてきて、問いかけました。「神があなたに教えられたことをいくつか、私に教えてください。」預言者は有力者たちと話すのに忙しく、彼に注意を払いませんでした。彼は繰り返し、問いかけました。預言者は生来、邪魔されるのを好まず、有力者たちと話し終わるまでこの盲人が待てないものだろうか、と思いました。そのため、彼は眉を顰(ひそ)め、無言で盲人に背を向けました。

これはクルアーンに歴史として記録され、事細かに記載されました。そして、ムハンマド(彼の上に平安あれ)がいかに盲人に眉を顰め、背を向けたかを示しています。さらに、彼を非難し指示を与え、大変明確で強い言葉でもって、二度とこのような行為を繰り返さないように述べているのです。この出来事自体の

名前がついている章“眉をひそめて章”で、これを読むことができます。
(眉をひそめて章：1-11)

この出来事は預言者に与えられた啓示に対する、彼の誠実さを反映しています。後に預言者はこの盲人に会うと、最上の称賛と尊敬を示し笑顔で歓迎しました。そして「主が私を非難する原因となった彼を歓迎します。」と言い、自分のガウンを広げて彼が座れるように敷いたのでした。

クルアーンは 預言者(彼の上に平安あれ)を指導する多くの出来事を記録しています。それだけでなく、私たちがであれば到底受け入れられないような形で、公然と彼を非難します。名声と名誉を求める人物が、自らの過ちをこのような形で記録に残すでしょうか？

ムハンマド(彼の上に平安あれ)が彼と家族の誠実さと立場や無実を証明するために啓示が下されることを望んだものの、それが叶わなかった数々の出来事を、歴史は私たちに証明しています。

これは、そのような出来事の一つです。預言者に長い間敵対し危害を加えた人びとが、ユダヤの学識者に預言者との争いに関する助言を求めました。

彼らは預言者に3つの質問をするように提案しました。それらに答えたならば彼は預言者だが、答えられなければ預言者ではない、と。教えられたとおりにマッカの人々は、預言者(彼の上に平安あれ)にその3つの質問をしました。彼は挑むように、明日答える、と言いました。

その後、15日間にわたりどのような啓示も下されませんでした。彼の敵対者たちは彼を見かけるたびに嘲笑しました。当然ながら、ムハンマド(彼の上に平安あれ)はこの結果に深く悲しみました。この15日間の空白の後、とうとう質問に対する答えが下されました。また同時に、ムハンマド(彼の上に平安あれ)に対する神の訓戒も下されたのです。“神が望みたまうならば”と言うことなく、決定をしてはならないのです。彼の言動は全て神の意志に依存しているからです。15日間におよぶ啓示の空白は、神が訓戒のために作られたものでした。(洞窟章：23-24)



繰り返される非難

ムハンマド(彼の上に平安あれ)の生涯は驚くべきもので、彼が正直な人物であったことの決定的な証拠の一つです。

ムハンマド(彼の上に平安あれ)が文盲であり、また周囲の人々も同様であったのは事実です。彼は周囲と同じ日々を送り、集まりに参加しても嫌われることなく、羊飼いやあるいは商人として家族のための糧を得ていました。そのような彼がどのようにして、40年も学者と交流もなかった人物が、突然に誰も聞いたことのない内容や、自分たちも知らない祖先の話をするようになるのでしょうか？

彼は昔の人々の物語を今に結び付け、神の創造の物語を説き、以前の預言者たちの生涯を細かに伝えました。さらに、生活のあらゆる面に対する、新しく詳細で包括的な法を語りました。

このことはムハンマド(彼の上に平安あれ)の敵対者たちに衝撃を与えました。そして、彼らはどのような非難をもってすれば、人びとに彼を警戒させられるかわかりませんでした。

クルアーンがムハンマド(彼の上に平安あれ)の自作だと主張するのは無理がありました。クルアーンを読み、思案する人なら誰でも、この非難が的外れだとわかりました。また、彼が誰かに学んだと主張するこ

クルアーンは 預言者(彼の上に平安あれ)を指導する多くの出来事を記録しています。それだけでなく、私たちであれば到底受け入れられないような形で、公然と彼を非難します。

ともできませんでした。なぜなら、彼の生活はみんなに知られていて、そのようなことはないとわかっていたからです。結局、彼らは矛盾した非難を突き付けることになりました。ある時にはクルアーンは彼の自作だと言い、またある時には夢で見たことを語っているだけだと非難したのです。彼らの主張を裏付けることができなくなると、魔術師、詩人、しまいには狂人だと言ひ募りました。

このような非難は、以前、他の神の預言者たちにも向けられました。ムーサー(彼の上に平安あれ)は魔術師と言われ、イーサー(彼の上に平安あれ)は狂人と言われました。

他の預言者たち(彼らの上に平安あれ)も、同じような仕打ちを受けていました。敵対者たちは非難できるものがないと、預言者たちを魔術師や狂人と呼んだのです。偽の証言者たちもまた、同じことでした。彼ら自身が恥ずかしい状況に陥り、自分たちの証言を裏付けるものが弱いと気づいた時、面目を保つためにあらゆる非難の元を、それが実在しないにも関わらず、探し始めます。

天才の閃きと考えないのはどうしてでしょう

神が人間に途方もなく、想像を絶するほどの能力と創造性を授けたのは、自明です。しかし、論理的思考に限界があるというのもまた、自明ではないのでしょうか。知性は創造主である全能の神の存在と、神の正義に不可欠な全ての人がその行いの善悪によって裁かれる来世の存在を認めます。では知性で現世や来世の細部まで示すことは可能でしょうか。特に、来世に関しては直接の証拠がないのです。

クルアーンの内容を概観すると、そこには信仰の限界についての説

明、世界とそこに生きる生命についての詳細、それらがどのようにして始まりそして終わるのか、が述べられていることに気づきます。天国とそこでの至福、地獄とそこでの責苦、そこに至る門の数と任を負う天使たちについて描かれています。さらに、万物と人間について、詳細に立証しています。どのような論理に基づいて、こうも詳細に記述されているのでしょうか。

これらの情報は、知性や天才的閃きで導き出されるものではありません。虚偽、推測、あるいは啓示によってのみ知りえる真実のいずれかなのです。

そのうえ、近代科学がクルアーンの内容のいくつかを証明し、そこにある情報のどれにも異論はできませんでした。さらに、過去に下された啓典にみられる不可視の世界に関する情報とも、一致しているのです。

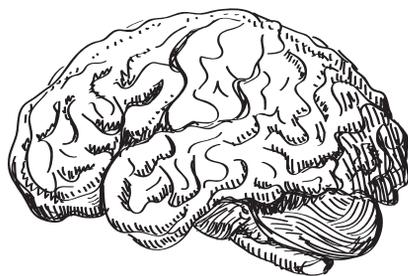
ムハンマド(彼の上に平安あれ)が聖書を書き換えただけでは？

少し考えてみましょう。多少なりとも以前の預言者たちのもたらした啓典から、クルアーンにある情報を得ることはできたでしょうか？

ムハンマド(彼の上に平安あれ)と彼の教友たちのほとんどは文盲であり、クルアーンに書かれている内容を詳しくは知りませんでした。また、彼は以前にもたらされた啓典に

通じた人々と近しくもありませんでした。ただ一度だけ、子供の頃に親戚とともに出かけた旅でほんの短期間、会ったことがあるだけです。当時、ユダヤやキリスト教の啓典を学んだ人々は、自分たちの立場を守るためにその知識を秘匿していました。そのため、それは簡単に手に入れられるようなものではありませんでした。

これらすべてを踏まえると、偏見のない熱心な研究者の前に究極の真実が現れます。当時存在した、以前の啓典のすべてにクルアーンが同意したわけではありません。それどころか、神学者たちがそこに組み込んだ過ちを訂正しました。加えて、いくつかの物語に失われた情報を追加し、彼らが隠ぺいしたものを明らかにしました。さらに、彼らがもたらした、預言者たちの信仰に対する教義上あるいは儀礼上の腐敗を暴露しました。クルアーンにはこれらを証明する事例が多くあります。これでも、ムハンマド(彼の上に平安あれ)が彼らから情報を得たものがクルアーンだと言えるでしょう。



他の預言者たち(彼らの上に平安あれ)も、預言者ムハンマドが直面したのと同じような仕打ちを受けていました。敵対者たちが非難できるものがないと、魔術師や狂人と呼んだのです。

重要な歴史的事実

イスラームの教えを客観的に学ぶ公正な人物は、次の疑問が思い浮かぶことでしょう。イスラームの使徒、ムハンマド(彼の上に平安あれ)はアラブ人ではなかったのか？

歴史を見ると当時のアラブ人は雄弁さ、明快な話法と修辞法を除いて、これといった芸術をもっていませんでした。この限られた技で詩文を起し、会合の場でその詩一つが部族の名誉を左右しました。

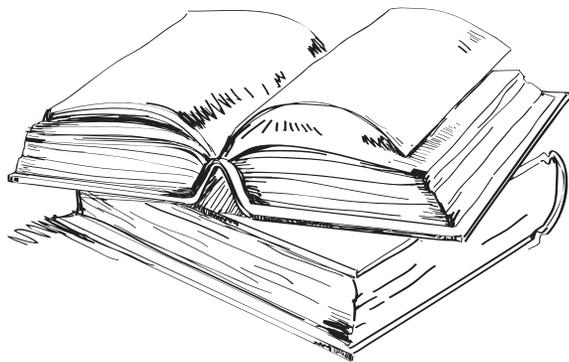
歴史書によれば、アラブ人が詩や散文の欠点を修正すること、足りない部分を埋めること、さらには自身の表現でそれに応えることはほとんどありませんでした。彼らが優劣を競った分野は修辞法であり、そこで強さと優秀さを披露したのです。

争いを仕掛けすべての石を使い果たし、迫害し、人々に敵対するように唆(そそのか)した預言者の敵対者たちは、どうしてクルアーンと同じものを作り出してみろ、という挑戦に敗れたのでしょうか。彼らはクルアーンに似たもの、あるいはほんの少しでもその一部となりうるものを用意することができず、預言者の挑戦に対峙するどころか、混乱に直面しました。

ムハンマド(彼の上に平安あれ)は詩文に優れた敵対者たちにこのような挑戦を仕掛けることに、恐れはなかったのでしょうか。彼らは個人でも集団でも行動を起こして彼を論破し、その携えているものが誤っていると証明するかもしれませんでした。

敵対者たちには彼の挑戦に答える力がないと知っていたと仮定しましょう。ではどうして、最後の日の世代まで続く、永遠の挑戦にしたのでしょうか。すべての人が一致団結してもクルアーンのような書物を作ることはできない、と断言しているのです。

このような行動は、自分の言動に自信と確信のある心の持ち主にしかとることができません。この挑戦に対し、クライシュ族だけでなく修辞法の大家として知られる雄弁家も、クルアーンに似たもの、それどころかその一部ですら作り出すことはできませんでした。今日まで、この挑戦は続いています。歴史上、これに挑んだ結果は恥ずべき失敗に終わり、嘲笑の的となり、文学的な嘲りさえ受けました。



フォーティハ章(開端章)

この章はクルアーンで最も偉大な章であり、ムスリムが礼拝の度に詠むものです。意味は次の通りです。

フォーティハ章の意味

“慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。”

神の御名から、敬意と畏敬とともに始めます。その慈悲は全てを包む御方。

“万有の主、アッラーにこそ凡ての称賛あれ、”

私は敬愛と畏敬をもって神を、その属性、行為、目に見え、また隠された恩寵のすべてを称賛します。神は創造主であり、主宰者であり、与え処分する者であり、例外を設けず、すべての被造物に恩寵を与える者。

“慈悲あまねく慈愛深き御方”

神はあらゆる種類と形の慈悲の持ち主です。この宇宙のすべてに与えられる慈悲と、神を信じ教えに従う者への特別な慈悲があります。

“最後の審きの日の主宰者に。”

神は最後の審判の日の唯一の主宰者です。

“わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。”

私たちはただあなたのみ、私たちの主を崇拜し、なにものをもいかようにもあなたに並べて崇拜することはしません。私たちはすべてにおいてあなたにのみ助けを求めます。すべてを決定する力はあなただけにあり、どのようなものも原子ほどの重さも、その力を持ちえません。

“わたしたちを正しい道に導きたまえ、”

私たちを正しい道に導き、あなたに逢う日までその道に忠実であるように御助けください。

“あなたが御恵みを下された人々の道に、”

その道は、あなたが導いた、真実を知りそれに従った預言者たちや正しい人々の道です。

“あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人々の道ではなく。”

私たちをあなたが御怒りになる者たち、真実を知りながらそれに従わない彼らの道から遠ざけてください。真実を無視し、またそれを求めない、導かれていない人々の道からも私たちを遠ざけてください。

“アーミン”

おおアッラーよ、私の祈りに答えてください。



誰もが自分の結論をもっています

結局のところ、誰もがそれぞれの結論に至ります。クルアーンについての判断と態度は、いかに読み込み、理解しようと努力したかといった、個人の経験に基づきます。アラビア語を理解しない場合は、どの言語の解説書を読んだか、も影響するでしょう。

ムハンマドの預言者としての誠実さの最上の証拠は、内容を理解しようと読んだ後の私たちの中にある、とクルアーンは指摘しています。「われがあなたに啓典を下し、あなたにはかれらに読誦する。かれらにはそれで十分ではないか。本当にその中には、信仰する者への慈悲と訓戒がある。」（蜘蛛章：51）

クルアーンは読んで熟慮し理解するように、すべての人に呼びかけています。これを拒むのは「心に鍵をかけた」人びとだけである、とクルアーンに述べられています。（ムハンマド章：24）





イスラームにおける
崇拝行為の真実



神

神は私たちの崇拝行為を必要とされるのでしょうか？

神は私たちの崇拝行為も善行も必要とはされていません。イスラームにおける救済は、単なる儀礼や形式、寄付の多寡で達成できるものではありません。むしろ、個人による神への誠実さと信仰によって達成されるのです。そしてこの誠実さと信仰は、その人の人格や社会への貢献といった現実には反映されないといけません。

ク

クルアーンにはこう書かれています。「ジンと人間を創ったのはわれに任せさせるため。われはかれらにどんな糧も求めず、また扶養されることも求めない。本当にアッラーこそは、糧を授けられる御方、堅固なる偉力の主であられる。」(撒き散らすもの章：56-58)

礼拝の方向がマッカに向かうことになって以来、一部の人々は正しい礼拝の方向について疑問に思っていました。そこで、いくつかのクルアーンの章句が預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)に下されました。啓示によれば、教えの真実は信仰の誠実さ、善行の実施、人類への貢献の中に存在するもので、礼拝の方向にあるのではない、と強調されます。クルアーンはこう述べています。「正しく仕えるということは、あなたがたの顔を東または西に向けることではない。つまり正しく仕えるとは、アッラーと最後の(審判の)

日、天使たち、諸啓典と預言者たちを信じ、かれを愛するためにその財産を、近親、孤児、貧者、旅路にある者や物乞いや奴隷の解放のために費やし、礼拝の務めを守り、定めめの喜捨を行い、約束した時はその約束を果たし、また困苦と逆境と非常時に際しては、よく耐え忍ぶ者。これこそ真実な者であり、またこれらこそ主を畏れる者である。」(雌牛章：177)

さらに、崇拜行為と篤信に奮闘する者はその実、自分のために行っているということ、神は誰にも依拠せず自立している御方なので、イスラームを拒絶する人々は真の敗者であることがクルアーンには強調されています。クルアーンには次のように書かれています。「信仰のために奮闘努力する者は、自分自身のために奮闘努力しているのである。アッラーは、すべてのものに、何一つ求めない。」(蜘蛛章：6)



一部の人々が正しい礼拝の方向について疑問に思った時、いくつかのクルアーンの章句が預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)に下され、教えの真実は信仰の誠実さ、善行の実施、人類への貢献の中に存在するもので、礼拝の方向にあるのではない、と強調されました。

イスラームの柱

イスラームには次のような、規定された重要な崇拝行為があります。

1



心から誠実に神を信じ崇拝し、神の使徒ムハンマド(彼の上に平安あれ)を受け入れ従うこと。信仰告白(シャハーダ)はアラビア語で次の文言を口にします。

「アシュハドゥ アンラー イラーハ イッラッラー ワ アシュハドゥ アンナ ムハンマダン ラスールッラー」意味は、アッラー(神)の他に神はないと証言します。また、ムハンマドはアッラーの使徒であると証言します。

(32ページ参照)

2



定められた礼拝を行うこと。

(100ページ参照)

3



定められた喜捨(ザカート)を支払うこと。

(104ページ参照)

4



太陰暦であるイスラーム暦9月のラマダーン月に断食すること。

(106ページ参照)

5



財政的、身体的に可能であればマッカにある聖なる神の家を訪れること(ハッジ、あるいは巡礼)

(108ページ参照)

道義的責任と苦痛はなぜあるのでしょうか？

繰り返し形を変えて、次の問いが聞かれます。「神は私たちが食べられるように口、歯、腹をお与えになったのに、なぜ断食を命じられるのでしょうか？神が美しさや欲望を創造されたのに、なぜ視線を下げ（訳注：美しさから目をそらす）貞操を守るように命じられるのでしょうか？」「神は私たちに力を与えたのに、なぜ他者を攻撃したり虐げたりすることを禁じられたのでしょうか？」

イスラームの観点からみると、このことは明白です。イスラームによれば、神は私たちに力と能力をお与えになりましたが、これには自制できるものとそうではないものがあります。例えるなら、神は私たちが乗りこなすための馬をお与えになったのであり、馬が私たちが制御するのではないのです。事実、私たちの肉体と強さは私たちに役立つように創られています。そうであるからこそ、私たちはそれを適切な場面で適切な時に乗りこなし、使いこなすことができます。

つまり、人間の価値と優位性は、いかに自己の欲望を支配し、適切に能力を行使できるかにあります。こうして、神は人に違いをもたせ、試練を与えられます。これこそが、神が人間に特別な地位を与えた理由なのです。

クルアーンに述べられています。「本当にわれはかれを試みるため混合した一滴の精液から人間を創った。それでわれは聴覚と視覚をかれに授けた。われは、人間に（正しい）道を示した。感謝する者（信じる者）になるか、信じない者になるか、と。」

（人間章：2-3）

したがって、私たちが直面する苦痛、災難、悩みは実のところ、精神的そして道徳的成長のために下される試練なのです。これは私たちの信仰を強め、人生の目的や生きる態度を呼び起こします。クルアーンには次のように述べられています。「われは、恐れや飢え、と共に財産や生命、（あなたがたの労苦の）果実の損失で、必ずあなたがたを試みる。だが耐え忍ぶ者には吉報を伝えなさい。災難に遭うと、“本当にわたしたちは、アッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります。”という者、」

（雌牛章：155-156）



人間の価値と優位性は、いかに自己の欲望を支配し、適切に能力を行使できるかにあります。

つまり、人生を通じて私たちは、信仰と道徳を向上あるいは退行させる機会を与えられています。全能の神は正しい道を進み過ちを正す機会を、私たちに絶えず与えてくださいます。そして、私たちに選択の自由を与え、地上を開拓し、文明を築き、人類に貢献するよう、指示を与えます。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）はこのようにおっしゃいました。「もしあなたがたが罪を犯さないとすれば、神はあなたがたを罪を犯すかもしれない人々と置き換えられたでしょう。彼らは神に赦しを請い、神は彼らを赦されます。」

（ムスリム：2749）



礼拝

直接に、あるいはメディアを通して奇妙な場面を見たことがあるかもしれません。ムスリムが一人でもしくは集団で、特定の方向に向かい立ったり膝をついたりひれ伏したり、まるで周りの世界から切り離されたように見える場面です。

ムスリムにとって礼拝とは？

礼拝はイスラームにおいて最も重要な地位を占めています。なぜなら、礼拝は神に近づき、祈り服従するための最も大切な手段だからです。神は預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）に、全てのムスリムは礼拝で平伏し神に近づけ、と命令されました。（凝血章：19）このため、礼拝は信仰告白に次ぐ第2の柱とされています。

預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）はおっしゃいました。「イスラームは5本の柱で築かれています。アッラー以外に神はなくムハンマドは神の使徒であると証言すること、定められた礼拝をすること、規定の寄付（ザカート）を支払うこと、神の家への巡礼を行うこと、そしてラマダーン月に断食することです。」

（アル・ブハーリー：8）

イスラームはムスリムが礼拝によって報奨を得る、と教えています。心を清め、集中を逸らすものを遠ざけ、神の前で完全なる謙虚さを示し、神に近づく、こういった礼拝での努力に報いがあります。また、このような状態は、神の前での安寧と静けさを味わうことを可能とします。事実、礼拝は預言者ムハンマドの最も好まれるものでした。

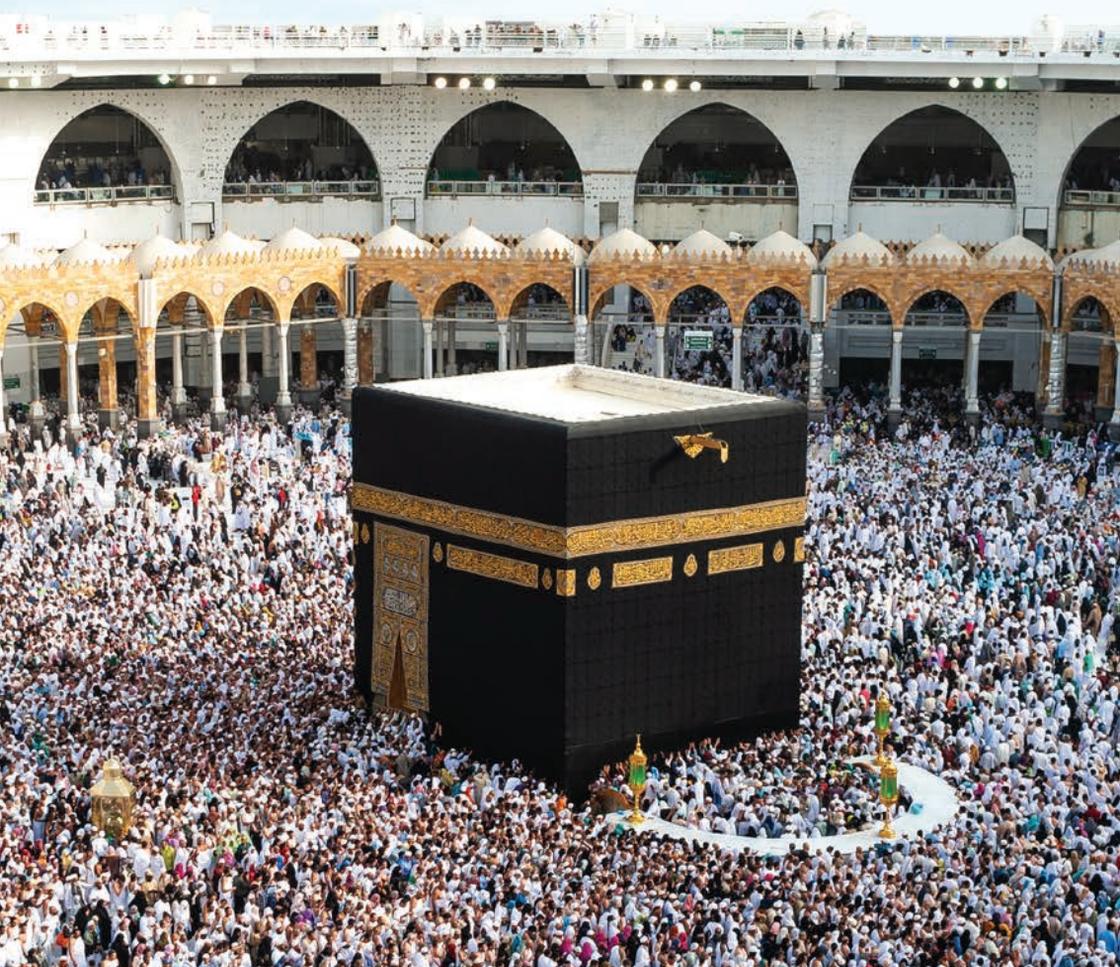
礼拝は単なる身体動作ではなく、精神や心も含む全身をもって行うよう、クルアーンはムスリムに指示しています。このとおりに行われるならば、礼拝は確かに最上の善行となり、罪や悪行から遠ざけてくれるでしょう。神を思い、神に向かうことは人ができる最も偉大なことなのです。クルアーンには次のように書かれています。「あなたに啓示された啓典を読誦し、礼拝の務めを守れ。本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける。なお最も大事なことは、アッラーを唱念（ズィクル）することである。アッラーはあなたがたの行うことを知っておられる。」

（蜘蛛章：45）

体を清めてから行う身体動作と言葉の繰り返しだけが礼拝だと思っている人は、その真実を見逃しています。神を称賛するこれらの動作と章句は、神を崇拝し偉大さを認識するためのものです。例えば、敬意と謙虚さを示すために立ちながら、手を挙げて「アッラーフアクバル（神は偉大なり）。」と唱えます。次に神への完全な帰依を示し、神の偉大さを認識して頭を下げ、「スプハーナ ラッビヤール＝アズィーム（栄光はわが主のもの、その偉大なる御方）。」と唱えます。それから、神に近づき祈りへの答えを求め、床に額つき平伏し、「スプハーナ ラッビヤール＝アアラー（栄光はわが主のもの、その至高なる御方）。」と唱えます。礼拝のすべての動きは、単なる身体動作やつぶやきではありません。すべては幸福の源であ



神を崇拝し偉大さを認識するための動作と章句で礼拝は成り立っています。



マッカにあるハラーム・マスジドはイスラームでも最も聖なるマスジドです。その内部に四方体のカアバ殿があります。カアバ殿は“預言者たちの父”イブラーヒーム（彼の上に平安あれ）が建築し、ムスリムはカアバ殿の方向に向かって礼拝を行うように命じられています。しかし、カアバ殿それ自体に益も害もないことを、ムスリムは知っています。

る創造主である神と信者を結び付ける、意味のある瞬間なのです。

神はムスリムに1日5回、定められた時間に礼拝するように命令されました。礼拝はどこで行っても構いません。しかし、共同体を強めて同胞との絆を深め、お互いに様々な事柄で助け合うために、マスジドで行うことを神は奨励されました。

さらに、神は定められた以外の礼拝も、できるだけ多く行うように奨励されました。

ムスリムはカアバ殿の方向に向かって礼拝を行います。カアバ殿は四方体の建築物で、アラビア半島西部のマッカにあるハラーム・マスジドの中にあります。カアバ殿は“預言者たちの父”イブラーヒーム（彼の上に平安あれ）が建築し、すべての預言者たちが巡礼しました。一般に信じられているのは異なり、カアバ殿は石造りであり、それ自身は益も害もありません。ただ、神はムスリムたちの結束を示す焦点として、礼拝の時にカアバ殿に向かうようにお命じになったのです。

礼拝への呼びかけ、アザーン

アザーンはムスリムを礼拝へと呼びかけるものです。これはムスリムに定められた礼拝の時間になったことを知らせ、マスジドに来るように呼びかけます。

アザーンは神を思い出し崇拝するもので、また同時に、ムスリムに対し礼拝のためにマスジドへ来るように呼びかけます。言葉は次の通りです。

- 1 アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。
アッラーは偉大なり。
- 2 アッラー以外に神はないことを証言します。アッラー以外に神はないことを証言します。
- 3 ムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します。ムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します。
- 4 礼拝のために来たれ。礼拝のために来たれ。
- 5 成功のために来たれ。成功のために来たれ。
- 6 アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。
- 7 アッラー以外に神はなし。



定められた喜捨(ザカート)

極端な経済格差による二極化は解決されなければならない、とは誰もが確信しています。貧富の差およびコミュニティの衰退と崩壊は、不道徳と犯罪が増加した生活に人々を追い込みます。経済システム、思想、法制によって、この問題を解決すべく数多くの試みがなされてきました。イスラームではどうしているのでしょうか？

イスラームでは、豊かなムスリムに対して、個人で必要とする以上の年間所得から2.5%を貧困層と困窮者に支払うことを義務付けています。これは第3の柱です。

定めの喜捨は富裕層から貧困層への施しではなく、貧困層の持つ権利です。このため、貧困層が富裕層にねだったり恥をかいたりすることなく、喜捨が行われます。

この最低額は全ての富めるムスリムにとつての義務です。また、上限についてはそれぞれ競う機会が与えられ、多くの善行が行われます。その結果、現世でさらなる富、健康、成功と幸福を手に入れるのです。そして来世において、彼らは十分な報酬と永遠の喜びを発見します。

クルアーンでは神の道に富を使う者を次のように例えています。1粒が7穂に育ち、1穂が100粒を実らせる、つまり700倍になる穀物のように、神は報奨を増加させます。誠意と善意をもって自らの富を善行に費やす者に神は大変気前がよく、また、すべてをご存知です。「アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど1粒が7穂を付け、1穂に百粒をつけるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。」(雌牛章：261)



定めの喜捨、ザカートは富裕層から貧困層への施しではなく貧困層の持つ権利であり、このため、貧困層が富裕層にねだったり恥をかいたりすることなく、喜捨が行われます。

また、貧者と困窮者に寄付を行うことは自身の心を身勝手さや強欲から浄化してくれる、とクルアーンには述べられています。「かれらの財産から施しを受け取らせるのは、あなたが、かれらをそれで清めて罪滅ぼしをさせ…」

(悔悟章：103)

さらに、富を提供することを惜しんだり、貧困層を助けることを渋ったりする者は真の敗者であると述べられています。そうすることで彼らは、現世の幸福と来世の喜びを自ら奪っているのです。

クルアーンには次のように述べられています。「見よ、あなたがたは、アッラーの道のために(所有するものの一部の)施しを求められるのである。それなのにあなたがの中には、貪欲な者がいる。だが貪欲な者は、只自分の魂を損うだけである。アッラーは自足されているが、あなたがたは貧しい。もしもあなたがたが背き去るならば、かれはあなたが

た以外の民を代りに立てられよう。それらはあなたがたと同様ではないであろう。」

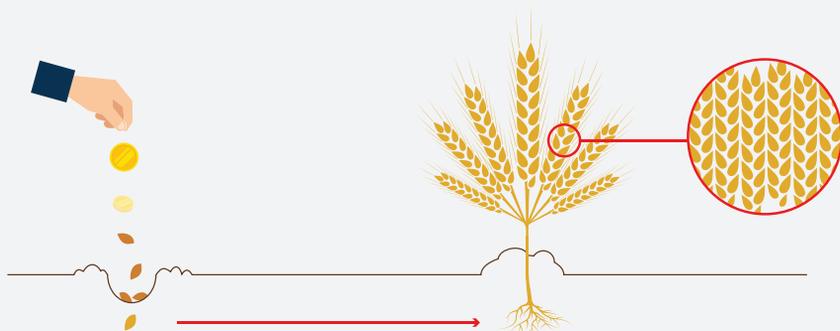
(ムハンマド章：38)

この偉大なイスラームの義務の実施は、社会保障の概念を実現させ、社会における相対的な平等に役立ちます。受け取る資格のある人にザカートを支払うことで、社会のほんの一部に富が貯めこまれることがなくなり、このため、歴史によればイスラームの初期において、ムスリムは受け取る資格のある貧者を探しても見つけられなかったということです。

ザカートを支払うことは愛情、調和、コミュニティの絆を育みます。人は一般的に良いことをしてくれる人を好む傾向があるため、ムスリム社会では建物のレンガのように互いが支えあい、ますます結びつきが強くなっていきます。このような社会では、強盗や強奪といった犯罪は少ないものです。



クルアーンでは神のご満悦を求めて富を使う者を1粒が7穂に育ち、1穂が100粒を実らせる、つまり700倍になる穀物に例えています。



断食

節制し、健康のために食欲を自制あるいは特定の食品を避け、体重を落としたり医師の指導に従う人を私たちは称賛します。より大きな目的と重要な目標のために、欲望を制する彼らの能力を認めているのです。

そして、ムスリムが断食しているとき、彼らはより大きな成果を成し遂げています。断食を行うことで、自身の欲望を制御し、最高の審判である神の定めを守ることとなります。

断食している人が断食によって自身の生活を改め、より良い人間にならないのであれば、断食はその人に益をもたらさないであろう、とイスラームの預言者はおっしゃいました。

断食(アラビア語でスィヤームもしくはサウム)はイスラームの4番目の柱です。断食する人は、太陰暦であるイスラーム暦第9月ラマダーン月の間、夜明け前から日没まで飲食と配偶者との性行為を絶ちます。

クルアーンによれば、その時々によって異なる方法ではあるものの、私たち以前の人びとも断食が定められていたことを伝えていきます。そして、断食の目的は同じです。公正さを達成し、神を意識し、真の崇拜と完全なる帰依を表明します。「信仰する者よ、あなたがた以前の者に定められたようにあなたがたに斎戒が定められた。おそらくあなたがたは主を畏れるであろう。」

(雌牛章：183)

身体の欲望を一日数時間の間抑えることで、ムスリムは自分に対する主人となり、どのような状況でも自身を制御し禁止された欲を避けることができます。このため、断食している人がそれによって自身の生活を改め、より良い人間にならないのであれば、断食はその人に益をもたらさないであろう、と預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。彼は次のようにおっしゃっています。「虚偽の言葉や偽りの行動を(断食の間)止めない者は、彼が必要とする食べ物と飲み物を神が遠ざけられることを知らなければならぬ。」

(アル・ブハーリー：1804)

断食(アラビア語でスィヤームもしくはサウム)はイスラームの4番目の柱です。断食する人は、太陰暦であるイスラーム暦第9月ラマダーン月の間、夜明け前から日没まで飲食と配偶者との性行為を絶ちます。

断食の間にムスリムが経験する飢えと渇きの痛みには、重要な意味があります。日常に困窮し、長い間、極度の飢えと渇きに晒されている貧者や困窮者の苦痛が彼らに与える深刻な影響について、ムスリムに思い至らせるのです。この思いはムスリムにとって、貧者や困窮者に対する援助を行う大きな動機となります。



ムスリムに断食を命じることで、イスラームは信者たちに、貧困層と困窮者が経験している飢えと渇きの痛みに気づかせることを目的としています。

巡礼(ハッジ)

ほとんどの宗教には信仰に伴う旅があり、そこで創造主に熱心に祈願したり、信仰心を表明したりします。しかしながら、これらの旅の中でも年1回行われるムスリムのマッカへの巡礼は、その規模において際立っています。毎年、300万人以上のムスリムがマッカに集い、巡礼を行います。

では、イスラームにおける巡礼とはなんでしょうか。

年1回のムスリムによるマッカへの巡礼、ハッジはイスラームにおける第5の柱です。これは経済的そして身体的に実行可能なすべてのムスリムにとって義務であり、少なくとも人生に一度は実行しなければなりません。

巡礼とは、社会的地位、国籍、人種、外見、貧富、これらすべての差異が消えうせる驚くべき旅です。巡礼行事の間、男性は、二枚の白い布だけで身を覆い、女性は、普段礼拝を



する時の服装(顔の正面と手以外は隠れている)で過ごします。そして、同じ章句を繰り返し、心から詠唱します。この章句は人と主との関係を示しています。章句の意味は次のとおりです。「私はここにおります。おお、アッラーよ。私はここにおります。なんなりとご用命下さい。なんなりとご命じ下さい。あなた様に比肩すべき存在はありません。私はここにおります。なんなりとご命じ下さい。讚美すべきもの、そしてまた、慈愛深きものは全てあなた様のもの、そしてまた、権威もあなた様のものです。あなた様に比べるべき存在はありません」

この信仰の旅の間にムスリムが行う儀礼や彼らが唱える請願はさまざまですが、これらはすべて神を想うことを意味しています。神を意識し、彼らに神が必要なことを示し、神の御赦しと報奨を求めるのが目的なのです。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)は次のようにおっしゃっています。「カアバ殿の周りを廻りサファーとマルワの丘の間を往復することは、神を想うためだけに定められました。」

(イブン・アビー・シャイバ：15334)

巡礼(ハッジ)を行う目的でマッカを訪れる人は、神への服従を示し、また、さまざまに異なる他の巡礼者との平等を感じるために、自分の服を脱ぎ2枚の白布のみを身に着けます。





イスラームにおける家族

現

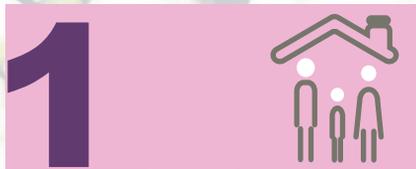
現代では絆が失われたことで、家族はただ、複数
が一つの家の鍵を持つ個人の集合体となり果てて
います。

残念なことに、今日、多くの男性は妻や子を養う責任から逃れる傾向にあります。責任から逃れて現世の欲を満たし自分だけが楽しむことを、どうすれば防げるのでしょうか。

このような傾向は今日においてより顕著ですが、歴史の黎明から多くの人々に見られたものです。これは実のところ、身勝手な心に決定づけられた個人の欲望を満たすための、素朴な傾向に過ぎません。個人と社会にもたらす悪影響を顧みていないのです。

イスラームが家族、家族制度そして家族内の権利と義務に最大限の注意を払っているのは、このためです。イスラームにおける家族とは、自覚、教育、発展の中心です。道徳に基づいた家族がその役割を果たすことでのみ、誠実な社会が達成されます。

このことは多くの規定に反映され、次のようなものがあげられます。



家族を形成するには結婚することが原則です。

結婚とはイスラームでもっとも称賛される行為の一つであり、神の使徒が行った行為の一つでもあります。教友たちが独身主義で礼拝と断食に専念したいとした時に、預言者は彼らにこう教えています。「私は断食をして、食べる。私は夜の任意の礼拝に立ち、寝る。そして妻たちがいる。もし私のしたようにしないのなら、私の仲間ではない。」

(アル・ブハーリー：4776)

イスラームは信者に結婚を容易にすることを命じ、また、貞操を守り結婚を求める者に神の助力を約束しています。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃっています。「神が必ず助けられる3種類の間がある。そのうちの一人は貞操を守るために結婚を望む人だ。」

(アッティルミズイー：1655)

神が人々に授けられた数えきれないほどの恵みの中で、クルアーンが最初に言及しているのは夫と妻の間に神が与えられた愛と優しさです。「またかれがあなたがた自身から、あなたがたのために配偶を創られたのは、かれの印の一つである。あなたがたはかの女らによって安らぎを得よう(取り計らわれ)、あなたがたの間に愛と情けの念を植えつけられる...」

(ビザンチン章：21)

イスラームは若い男性に結婚することを命じています。結婚することが自身の欲望を正しく解消する道であり、また、妻の中に平穏を見出すことができるのです。



”

神が人々に授けられた数えきれないほどの恵みに思い至らせる中で、クルアーンが最初に言及しているのは夫と妻の間に神が与えられた愛と優しさです。

2



男女に関係なく、誰であれ家族の一員には敬意が払われます。

子供を養育することに関して、両親には大きな責任が課せられています。預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。「あなたがたは全員が保護者であり、あなたたちの地域の責任者だ。支配者は保護者であり、彼が支配するものの責任者だ。夫は保護者であり、彼の家族の責任者だ。女性は保護者であり、夫の家の責任者だ。使用人は保護者であり、主人の所有物の責任者だ。」

(アル・ブハーリー：853)



3



両親を敬い、敬意と感謝を示し、彼らの面倒を見て、最後まで従順であるよう勧めています。

子供はいくつになろうとも、両親に従い親切に接する義務があります。クルアーンでは両親に対して従順であることは称賛される崇拝行為とされ、彼らに乱暴な態度をとる、あるいは粗野な言葉遣いをする信者たちに警告が發せられています。クルアーンには次のように書かれています。「あなたの主は命じられる。かれの外何者をも崇拝してはならない。また両親に孝行しなさい。もし両親かまたそのどちらかが、あなたと一緒にいて老齢に達しても、かれらに“ちえっ”とか荒い言葉を使わず、親切な言葉で話しなさい。」

(夜の旅章：23)



「

イスラームではどのような形でも、たとえそれが一言の暴言であったとしても、両親に対して乱暴である信者に警告します。

4



両親に子供の権利を守り、どのような状況にあっても同等に正しく扱うように命じています。

預言者ムハンマド(彼の上に平安あれ)はおっしゃいました。「自身が責を負うべき者を正しく養育しない男性は、罪を犯している。」(アブー・ダーウッド：1692)特に、女兒については次のように述べています。「女兒を養育し正しく遇するものは、そのことが彼を地獄の炎から守るだろう。」

(アル・ブハーリー：5649)

5



肉親の絆を保つことが義務づけられています。

肉親とは、父方および母方の叔父叔母とその子供たちが含まれます。イスラームでは肉親の絆を強く保つことは最も称賛される行為の一つとみなされ、これを断つ者には大きな罪を犯していると警告します。「肉親の絆を断つ者は天国に入れない。」

(ムスリム：2556)



イスラームにおける女性



テレビや看板、あるいは雑誌の表紙を少し見るだけで、物質文明が女性に対して犯した罪の大きさが露わになります。女性は男性の欲望を刺激し、その妄想に火をつける、性的対象あるいは所有物として扱われています。

功

恐らくこれは、女性が貶められ売買可能な財産として扱われた原始社会が少し形を変えただけなのです。

圧迫や差別に長く苦しめられてきた女性たちは、長い戦いの結果として悲惨な状態から脱してはならず、少し形を変えた状況にあるだけです。

1400年前にイスラームが登場したとき、これは女性が長い間苦しんだ不当な扱いに対する、真の革命をもたらしました。そして、女性の権利と地位を守り、尊厳のある人生を送る機会を提供し、可能な限り最善の方法で使命を遂行する可能性を与えるための、法と詳細な規定をもたらしました。

このため、クルアーンで最も長い章の一つは“婦人(女性)”章と名付けられ、女性に関する規定を示しています。クルアーンの中では、多くの信心深く敬虔な女性の物語が語られています。さらに、ある章はイーサー(彼の上に平安あれ)の母マルヤムの名前を冠しています。

イスラームは人々が女性に対して抱いていた誤った考えを変えました。男性に女性を商品としてではなく、神が創造し意図したように人として扱うように要求しています。また、女性を一夜の相手ではなく、人生の伴侶として扱うように促します。そして、女性を性的対象物ではなく、愛、慈悲、平穏と安寧の源とするように求めています。



“イスラームが女性を抑圧し彼女たちの権利を侵害していると非難している一部の作家たちは、この宗教が現代とその社会に適合しないと主張している。しかし、イギリスのような先進国で何十万人もの人びとが改宗し、そのうちの75%が女性である。これは、彼女たちが様々な家族問題に対するイスラームの規定を調べた結果として、起こっている。”(リチャード・ペピアット著、“女性とイスラーム：増える改宗者”2011年11月6日付インディペンデント紙)



女性を尊重する規定の例

- 夫を選ぶ権利を与え、子供たちを養育する大きな責任を与えています。預言者（彼の上に平安あれ）はおっしゃいました。「女性は保護者であり、夫の家の責任者だ。」（アル・ブハーリー：853）
- 旧姓を維持する権利を与えています。世界で広く一般的であるように、結婚後に女性が男性の姓を名乗ることは、イスラームにはありません。女性には旧姓を維持する名誉があり、彼女の独立した系図を維持することができます。
- 金融取引を含む多くの事柄で、男性と女性は完全に平等です。預言者（彼の上に平安あれ）はおっしゃいました。「女性は男性の半身だ。」
（アブー・ダーウード：236）
- 彼の扶養を受ける資格がある女性、つまり妻、母、娘たちに対して支出するのは夫の義務です。支出にあたって、彼女たちに恩を着せてはいけません。

- 女性たちに相続権を与え、男性と同等の配分を割り当てています。ただし、特定の条件と男女における財政的義務の違いから、時には配分に差が出ます。女性の相続分が男性より少ないのは事実です。しかし、例外がないわけではありません。男性と同等、あるいはそれ以上を女性が相続すること、もしくは男性が全く相続しないこともあります。女性が男性より少なく相続する場合のみに注目するのは、不公平でしょう。その場合においても、女性が少なく相続するのは、男性が家族すべてを宗教的義務として扶養しなければならないのに対し、女性はこのことに1銭たりとも支出する必要がないからです。このように、イスラームは包括的でよくバランスの取れたシステムであり、どちらか一方を優先するものではありません。
- たとえ親族ではなくても、困窮している女性がいたら彼女を助ける重要性を強調しています。これは神の目から見て最も称賛される行為の一つとして、信者に対しこの崇高な行為を行うように促しています。預言者（彼の上に平安あれ）はおっしゃいました。「未亡人や貧者の面倒を見る者は、神のために奮闘する戦士、あるいは休みなく夜の礼拝を行う者、常に断食を行う者のようだ。」
(アル・ブハーリー：5661)

女性はより大事にされなければならない、とイスラームは強調しています



母：男が預言者（彼の上に平安あれ）に尋ねました。「神の使徒よ、私が最も親切にしなければならないのは誰でしょうか?」「あなたの母です。」と預言者は答えました。続けて「その次には?」と尋ねたところ、預言者は再び「あなたの母です。」と答えました。さらに男は尋ねました「その次は?」預言者は「あなたの母です。」と答えました。再び男は尋ねました。「その次は?」預言者は「それからあなたの父です。」と答えました。

(アル・ブハーリー：5626)



娘：預言者（彼の上に平安あれ）はおっしゃいました。「3人の娘を持ち、彼女たちに寛大で、自分の財産で養育し、衣服を与える者は誰でも、彼女たちが彼を地獄の炎から守るだろう。」

(イブン・マージャ：3669)



妻：預言者（彼の上に平安あれ）はおっしゃいました。「あなたがたのうち最善の者とは、あなたがたの妻への待遇が最善の者で、私の妻たちへの待遇は最善だ。」

(アッティルミズィー：3895)



イスラームにおける男性と女性の関係は、両性の争いに基づくものではありません。それどころか、男性と女性の関係は補完的であり、互いに欠落を埋め、ムスリムの社会を構築します。

イスラームには両性の間に争いはありません

男女の争いといったものはイスラームにはありません。両性の間で世俗を求めて、激しく対立する必要はありません。相手を軽んじ、傷つけ、非難し、欠点を探そうと攻撃を仕掛ける必要もないのです。

高潔な預言者(彼の上に平安あれ)がおっしゃったように女性は男性の半身なので、男性は自分の半身と争うことは不可能です。言い換えれば、男性と女性の関係は補完的であり、互いに欠落を埋め、ムスリムの社会を構築します。

クルアーンでは互いを相手にとっての“衣”と表現し、身体的、感情的、精神的な完全なる調和のありようを明らかにします。「かの女らはあなたがたの衣であり、あなたがたはまたかの女らの衣である。」(雌牛章：187)

男性が最初に女性に見出す弱さは、実のところ家族が必要とし彼に欠けている強さなのです。また、女性が男性に見出す欠点は、女性である彼女にとっては気に入らないかもしれませんが、社会と人生には欠かせないものです。

男性と女性をただ一つの遺伝子で区別するように神が作られたと考えるのは、馬鹿げています。両性には身体的、精神的に大きな違いがあり、その違いがY染色体のせいだと言われているだけなのです。

男性が女性に与えられた権利を、女性が男性に与えられた権利を欲しがった時、次の章句が下されました。「アッラーがあなたがたのある者に、他よりも多く与えたものを、羨んではならない。男たちは、その稼ぎに応じて分け前があり、女たちにも、その稼ぎに応じて分け前がある。アッラーの御恵みを願え。誠にアッラーは凡てのことをよく知っておられる。」(婦人章：32)

イスラームは男性と女性の双方を尊び、それぞれに独特の性質と役割を割り当てました。これにより、人は神の御恵みとご満悦を得るべく、努力することでしょう。両性のどちらかを優先するものではありません。それどころか、両性の違いは個人の福祉と社会のそれを促進することを目指しているのです。



男性



女性



これらの人びとのほとんど、特に、より高いレベルの意識に達した人びとは、男女の関係を規定する法が必要だと信じていました。法があることで人を動物と差別化し、人間の生活が残虐なものとなるのを防ぎます。



男性と女性の関係

歴史を通じて人間社会は男女の関係を規定する処罰、法、慣習、伝統といった数多くの方法を考案し、受け入れてきました。歴史と人類学の文献は、これら無数の実践を教えてください。それは例えば、裸や蔓延する性的混乱に問題がないとする人々であり、暴力を振るわれるのを恐れて妻たちに鉄の足かせを填める人々であり、さらには、女性を排除するために男性に特定の覆いをかける人々です。また、身体特定の部位だけを隠すこともあります。

これらの人びとのほとんど、特に、より高いレベルの意識に達した人びとは、男女の関係を規定する法が必要だと信じていました。法があることで人を動物と差別化し、人間の生活が残酷なものとなるのを防ぎます。

イスラームにおける男性と女性の関係

イスラームにおける男女の関係は、人間が作る歴史のおよび地理的要因の制約を受ける法によって規定されているわけではありません。イスラームで男女の関係を規定する法は、どのような場所そしていつの時代にも相応しい、神自身によってクルアーンに明示され、預言者ムハンマド(彼の上には平安あれ)によって人類に教えられたものです。

男女の関係の本質と範囲は、その男性の女性に対する立ち位置によって異なります。

男性は女性との関係性によって立ち位置が異なります。

1. 夫の場合

神は互いを互いの“衣”と表現され、身体的、感情的、精神的な調和の完全なる調和のありようを示されました。「かの女らはあなたがたの衣であり、あなたがたはまたかの女らの衣である。」

(雌牛章：187)

2. マハラムになれる場合

女性のマハラムとは男性親族のうち、近親であるがゆえに婚姻関係を結べない相手を指します。これには13種類あり、父、祖父、息子、兄弟、父方及び母方の伯父(叔父)、孫が含まれます。そして、これらの男性の前で女性は髪を隠したりする必要はありません。良識に従った通常の服装で接することができます。

3. マハラムではない場合

マハラムではないとはつまり、女性が婚姻関係を結べる相手の事です。そのような男性の前で女性は、自身の身なりを整えなければなりません。言い換えれば、前述のカテゴリーに当てはまらない男性全てです。

この場合の女性に関して、イスラームは多くの規定と基準を定めました。これはムスリムの男性と女性との関係が名誉あるものとして守られ、また、悪行に結び付くすべてが防がれるようにするためです。人間の創造主は、私たちにとって何が最適かを完全にご存知です。クルアーンには次のように書かれています。「かれが創造されたものを、知らないであろうか。かれは、深奥を理解し通曉なされる。」(大権章：14)

マハラムではない男性の前で女性はなぜヒジャブを着用するように命じられているのでしょうか？

- 生活と社会の様々な科学的、学術的分野において、可能な限り最上の方法で、慎み深くありながらも使命を果たせるようにするため。
- 社会における誘惑を減らし、同時に女性の尊厳を守れるようにするため。
- 男性の視線を抑制し、さらに外見や性的魅力によって価値が決まる性的対象ではなく、教育を受けた同等の文明人として、男性が女性を扱うようにするため。

婚姻可能な男性と女性の間で定められているルール

1. 視線を低くすること

神は男性と女性の双方に、視線を低くし性的興奮につながるなものからも目を逸らすように命じられています。好色な視線を避けることは慎み深さにつながり、名誉を守る助けとなります。一方で、好色な視線は罪への道です。クルアーンには次のように書かれています。「男の信者たちに言ってやるがいい。“（自分の係累以外の婦人に対しては）かれらの視線を低くし、貞潔を守れ。”それはかれらのために一段と清廉である。アッラーはかれらの行うことを熟知なされる。信者の女たちに言ってやるがいい。彼女らの視線を低くし、貞淑を守れ。…」

（御光章：30-31）

2. 慎み深さと礼儀正しさを守ること

仕事や学校など様々な場面で、親類関係がなく婚姻関係を結ぶことが可能な異性と接する場合、互いに慎み深さと礼儀正しさを持ち、性的興奮につながるいかなる言動も避ける

ように、とイスラームでは教えています。

3. ヒジャーブを着用すること（慎み深い服装）

神は男性ではなく女性に、ヒジャーブを着用するように命じられました。これは女性とは美と魅力を楽しむもので、また、それによって男性が罪深い行為へと簡単に誘惑されるからです。そして、歴史を通じて古代から現代まで、女性が男性の欲望のために搾取されているのも、これが理由です。男性が女性に同じ理由で搾取されることはありません。このことは、現代の様々なメディアを見ても明らかです。

女性のヒジャーブとは、手と顔以外を覆うことです。クルアーンには次のように書かれています。「外に表われるものの外は、かの女らの美（や飾り）を目立たせてはならない。…」

（御光章：31）

ムスリム女性の慎み深い服装、あるいはヒジャーブを批判する人々の多くは、歴史上の偉大な女性たちのほとんどが、イーサーの母マルヤム含め、ムスリムのヴェールに似たものを纏って描かれていることを理解していません。





イスラームにおける食事の規制



イスラームを学ぶ人の多くが初めに聞くのは、「どうしてイスラームではアルコールと豚の摂取が禁じられているのですか」です。

この質問に答えるには、大切なことを説明しなければなりません。

クルアーンによれば、ムスリムは地上にあるすべてのものから恩恵を得ることができます。また、神は地上のすべては人間が恩恵を得るために創造した、とも断言しています。(雌牛章：29)

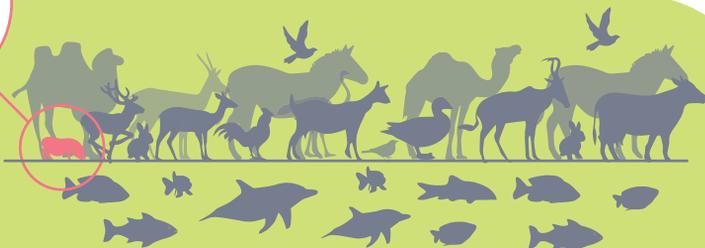
これには、当然ながら、食べ物と飲み物も含まれています。つまり、人間はすべてを飲食することが許されています。ただし、クルアーンの中で、不純物が含まれるとして禁じられた例外があります。不純物とは、それによって健康が害されたり、精神を曇らせるものです。豚とアルコールがなぜ、イスラームで禁じられているかを知りたくなったことでしょう。

豚

クルアーンが啓示された当時、アラブでは豚が知られていなかったのにも関わらず、クルアーンでは豚肉が明確に禁じられています。一部の人はこの禁止に驚き、さらに批判しました。ムスリムに対してだけではなく、ユダヤ教徒の聖典である旧約聖書でも豚肉は明確に禁じられているにも関わらず、です。しかし驚くことに、多くの神学者は、キリスト教においてもまた豚肉が禁じられていることは疑いようがなく、このことは多くの改竄があるものの、新約聖書が明らかな証拠であるとしています。これには次を参照してください。(マルコによる福音書5：11-13、マタイによる福音書67、ペテロの手紙二2/22、ルカによる福音書15/11)

ほぼすべてを許可されたのちに、ある特定のものを食べることを禁じ、神が私たちをお試しになることに問題があるのでしょうか。神は私たちの信仰と従順さを、このような形でお試しになります。アダム(彼の上に平安あれ)に楽園のすべてを食べることを許したのち、ある一本の樹の果実を禁じられたのと同じです。

ほぼすべてを許可されたのちに、ある特定のものを食べることを禁じ、神が私たちをお試しになることに問題があるのでしょうか。神は私たちの信仰と従順さを、このような形でお試しになります。アダム(彼の上に平安あれ)に楽園のすべてを食べることを許したのち、ある一本の樹の果実を禁じられたのと同じです。



酔わせるもの

政府にとって最も重要な政策の一つが、生活を破壊する疫病や病気と戦うことです。人びとの健康と生活を守るため、厳しい法律と規制が課されています。この政策に不備があると、個人そして社会に対して深刻な影響を与えてしまいます。

2010年3月15日にネイチャー紙に掲載されたオックスフォード大学の発表や、2011年2月11日にWHOから出版されたアルコールと健康に関する世界報告など、信頼できる研究結果が示すアルコールによる有害な影響は衝撃的です。この研究によれば、アルコールによる死はHIV、結核、暴力による死者の総数より多く、死亡率は同じ年の戦争や虐殺、テロ行為によるものの3倍となっています。次に示すのは、WHOの報告が明らかにした事柄です。



世界では毎年、**15-29歳の若年層**で**32万人がアルコールの犠牲**となり、これはこの年齢層の死因の**9%**を占めています。



米国の調査によれば、**毎年70万人の大学生が泥酔した同級生による暴行被害**に遭っています。



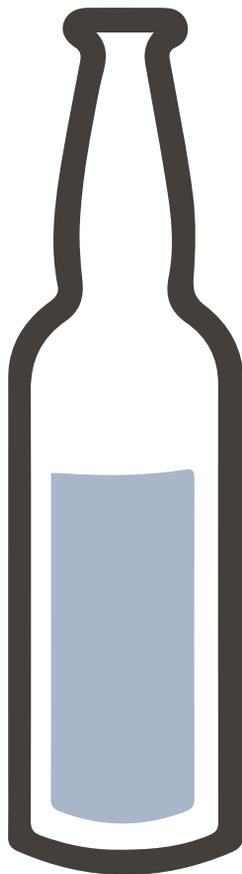
2001年に発表された報告によれば、エストニアの若年層が引き起こした**犯罪のうち、80%がアルコール中毒に起因**しています。



世界における**殺人の四分の一に、アルコールが関係**しています。



WHOの声明と報告書は世界各国に対して、日常的に発生しているアルコールに起因する悲劇を防ぐために、**厳格な手段をとるよう**に訴えています。



年間に次のことがイギリスで発生します。

- 100万件近くの暴力犯罪がアルコールに関連しています。また、被害者は暴力犯罪の半数をアルコールに関係しているとみなしています。
- 病院の救急救命にやってくるうちの約700万件がアルコールに関連しているとみられています。これには毎年6.5億ポンドが税金から支出されています。
- アルコールに関連する犯罪や騒動にかかる経費80～130億ポンドが、税金から支出されています。



イスラームにおけるアルコール飲料の取り扱いはどうなっているのでしょうか？



WHOの報告書を待つまでもなく、イスラームはアルコールが個人と社会にもたらす有害な影響を知っていました。人間を御創りになった御方、神が人の生活と社会に何が最良かをご存知だからです。

イスラームがもたらされた当時のアラブは素面であるのが難しく、どのような種類であれ、アルコールが最も偉大で価値ある喜びと娯楽を提供していました。実際、アラブ人はワインを飲むことを賞賛し、自慢し、これを手に入れるためであれば何でもしたのです。

クルアーンはこの問題を大変論理的かつ客観的に扱っています。アルコールが一時の喜びと苦悩や絶望からの解放を与えるという、わずかの益を認めます。その一方、アルコールが個人と社会にもたらす心理的、行動的、健康的な危険に注意を向けさせます。クルアーンには次のように書かれています。「かれらは酒と、賭矢に就いてあなたに問うであろう。言ってみよう。『それらは大きな罪であるが、人間のために(多少の)益もある。…』」

(雌牛章：219)

クルアーンではさらに、別の章句でアルコールの禁止について強調しています。そこでアルコールは、信者たちの間に憎しみと憎悪の種をまき、自分たちの義務と責任から遠ざからせるためにシャイターン(悪魔)が作り出した恥ずべきものだとされています。アルコールを禁じる章句にある神のご命令「それでもあなたがたは慎まないのか」(食卓章：90-91)に対し、ムスリムたちはすべてのアルコール飲料をマディーナの道に注ぎ捨てました。そして「私たちはまさにそれらを絶ちました。」と答えたのです。



罪と悔悟



善悪

善悪の哲学は多くの宗教において、主だった知的課題を提起してきました。宗教によって過失と責任、そして悔悟と後悔の扱い方が異なります。

神

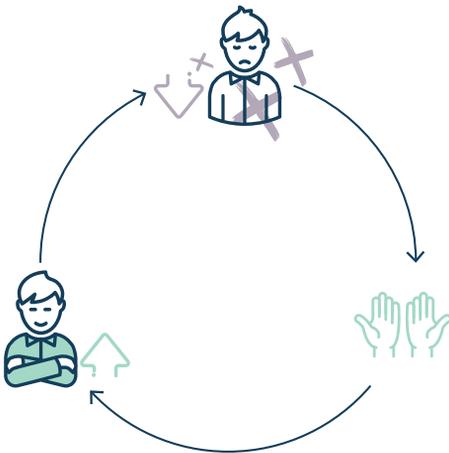
神が創造した人間の本质には、善と悪の双方の傾向があることをイスラームは明確に認めています。人間の本质を性善説としては扱いません。すべての人間は間違いと罪を犯し、そして同時に、自分の決断と選択に責任を負うことを明言しています。したがって、罪と悔悟に関するイスラームの見解は次のようになります。

クルアーンは単純明快に、そしてはっきりと罪と悔悟は個人のものである、と述べています。生まれながらもつ罪や原罪といったものはなく、また罪に赦しを与える人間も存在しません。それどころか、人は生まれた時に罪はなく、もちろん、アダムとハワワからの“原罪”も負っていません。さらに、アダム（彼の上に平安あれ）の罪は彼個人のもので、すでに神に立ち返り赦しを求めています。アダムの子孫たちの罪もまた個人のもので、悔悟への扉はすべての人に開かれています。イスラームにおける悔悟の公正で明快な理解は、すべての人に努力して絶望することなく神に立ち返るように働きかけます。このため、イスラームでは誰もが自身の罪に責任を持ち、また、誰も他人の罪に責任はありません。これは、すべての神の預言者たちが人々に伝えた、罪と悔悟の概念です。クルアーンには次のよ

うに書かれています。「それとも、ムーサーの書にあることが、告げられたことはないのか。また（約束を）完全に果たしたイブラーヒームのことも。重荷を負う者は、他人の重荷を負うことは出来ない。人間は、その努力したものの以外、何も得ることはできない。その努力（の成果）は、やがて認められるであろう。やがて報奨は、十分に報いられる。」

（星章：36-41）

最も意義深い崇拜行為の一つであり、また、神へ近づこうとする様々な手段の一つが悔悟です。これは、他をすべて排除して特定の人物に限られる者ではありません。イスラームでは改心するのに特定の場所で行う必要も、誰かに罪を告白する必要も、あるいは誰かに許可を求める必要もありません。それどころか、改心とは神とその僕の間だけにある崇拜行為なのです。クルアーンにみられる神の美名には、「アッ=タウワブ（神に立ち返る者を赦される御方）」「アッ=ラヒーム（最も慈悲深い御方）」「ガーフィル=ザンブ



イスラームにおいて悔悟する人とは、直ちに罪となる行為を止め、そのことを深く後悔し、再び同じ過ちを犯さないことを決意する人です。もしその罪が他人の権利を侵害していたのであれば、これを回復しなければなりません。

(罪を御赦しになる御方)」「カービルツ＝タウブ(悔悟を受け入れられる御方)」があります。クルアーンによれば、天国に受け入れられる敬虔な者の特性の一つは、罪を犯したらすぐに後悔し神に赦しを請うことです。クルアーンには次のように書かれています。「また醜悪な行いをしたり、過失を犯した時、アッラーを念じてその罪過の御赦しを請い、“アッラーの外に、誰が罪を赦すことが出来ましょう。”(と祈る者)、またその犯したことを、故意に繰り返さない者。」(イムラーン家章：135)

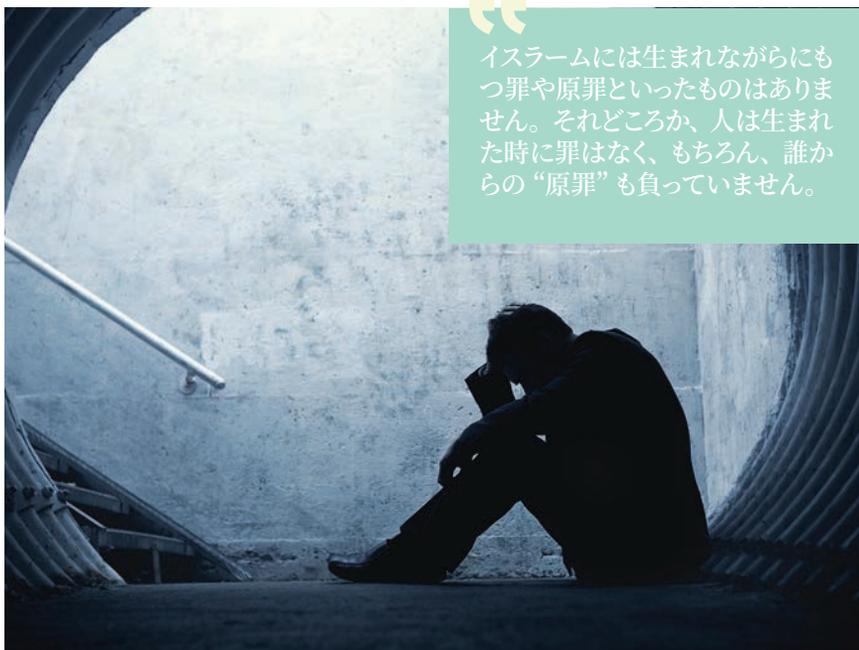
イスラームにおいて悔悟する人とは、直ちに罪となる行為を止め、そのことを深く後悔し、再び同じ過ちを犯さないことを決意する人です。もしその罪が他人の権利を侵害していたのであれば、これを回復しなければなりません。もし再び罪を犯し

てしまったとしても、最初の悔悟が取り消されることも、先の罪の重荷が追加されることもありません。つまり、新たに犯した罪に対しての悔悟のみが求められるのです。

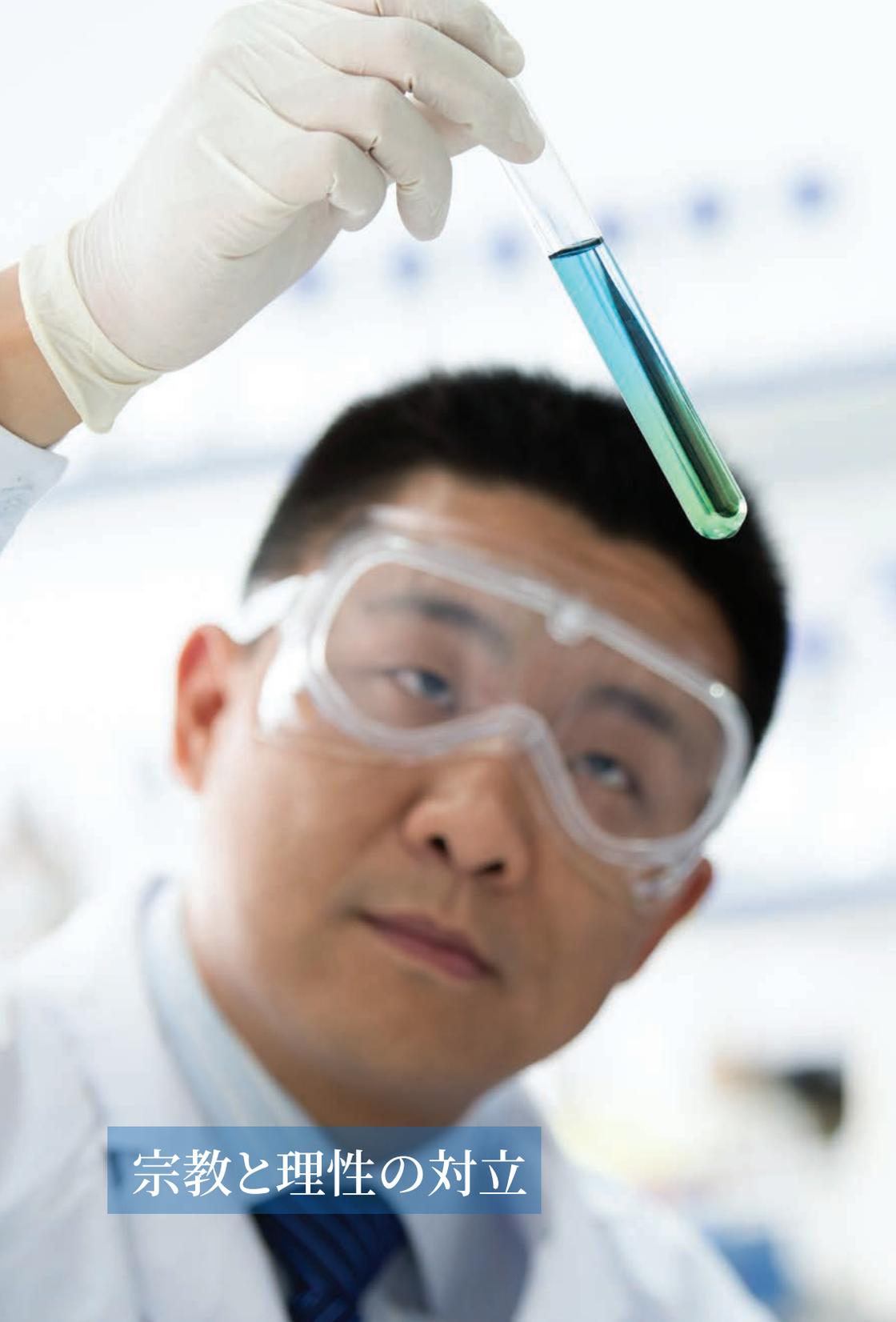
イスラームにおいて人は、自身を高めて完全を目指し、過ちを避け、正しい道から逸れる弱さともなる人間の本質を理解することで、均衡のとれた生活を送ります。敬虔さや不信心さに関わらず、人は希望を失ってはなりません。どのような状況にあっても、人は神に立ち返り、神の赦しを求めなければいけないのです。

クルアーンには正しい者とそうでない者の違いとして、正しい者は罪を犯した時に神を思い立ち返りますが、そうでない者は罪に固執し聞き入れない、と書かれています。

(高壁章：201-202)



イスラームには生まれながらにもつ罪や原罪といったものはありません。それどころか、人は生まれた時に罪はなく、もちろん、誰からの“原罪”も負っていません。



宗教と理性の対立

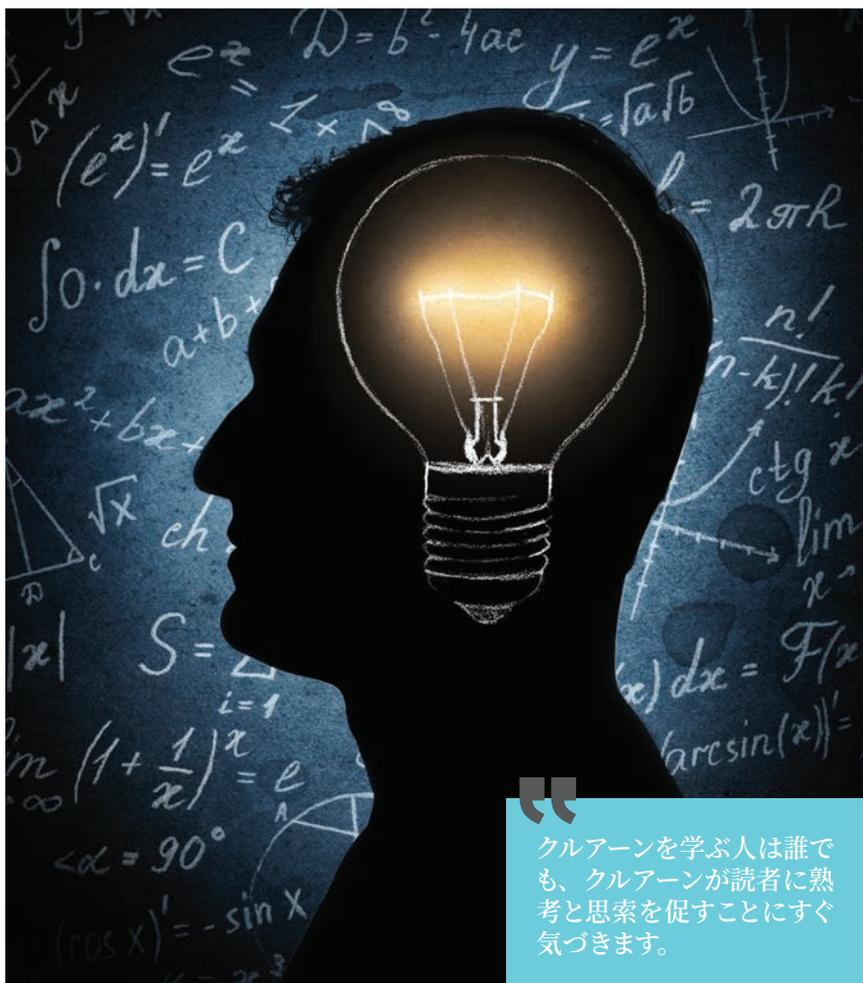


一部の人々は宗教は理性と科学に対立する、と誤って信じているようです。彼らによれば宗教は幻想、神話、迷信の源であり、一方で科学と哲学は科学的実験と手法を経て体系だった知識に至る道です。しかし、熟慮してみれば、これが全くの間違いであることは明白です。

多くの宗教が理性を全く拒絶、あるいは、科学と相反する神話や迷信に基づいて否定しているのは事実です。

しかし、それぞれの宗教の起源、主題、手法、証拠の違いを考慮せず、すべての信仰が類似した同じものと決めつけるのは間違いです。

イスラーム第一の源泉であるクルアーンを詳しくみると、イスラームは知性に他の宗教とは異なる地位を与えたことが疑いようもなく明白です。クルアーンが読者に深く内省と思索を呼びかけ奨励していることに、クルアーンを学ぶ人は気づきます。このことは「あなたは知性を使わないのか?」という質問が13回も出てくることで証明されています。



クルアーンを学ぶ人は誰でも、クルアーンが読者に熟考と思索を促すことにすぐ気づきます。

知性を使うようにというクルアーンの指示は、次のような多くの側面で証明されています。

1

偏見のない人、そして残虐さ、傲慢さ、恐れ、無知から自由である人に、クルアーンは呼びかけます。論理的な思考と合理的な証拠で、神を信じる必要性を証明します。その一例として、ある章句では次のように書かれています。「かれらは無から創られたのではないか。それともかれら自身が創造者なのか。それともかれらが、天と地を創造したのか。いや、かれらにはしっかりした信仰がないのである。」(山章：35-36)



2

敵対者の証拠を考察し、根拠のない意見や反論を拒絶します。クルアーンには次のように書かれています。「もしあなたがたが真実なら、証拠を出して見なさい。」(雌牛章：111)



3

知性を使わない人びとを非難し、また、彼らに感覚がない、と評します。なぜなら、正しい決定と選択へと導く、見聞きできる徴(しるし)から恩恵を受けとっていないからです。クルアーンには次のように書かれています。「かれらは心に悟りが開けるよう、またその耳が聞くように、地上を旅しなかった。本当に盲人となったのは、かれらの視覚ではなく、寧ろ胸の中の心なのである。」(巡礼章：46)



4

人の思考に影響を与える事柄に警告します。知性と感覚を尊重して駆使することを奨励するだけでなく、人間の本质が善悪どちらにも傾くという事実から陥る心の落とし穴も警告しています。これは誤った結論につながります。また、欲望、恐れ、欺瞞の結果として真実から逸脱してしまいます。





”

神の創造が、神が人に定められた宗教と矛盾することはありえないと、ムスリムは信じています。それならばなぜ、知性と論理的思考を働かせ、疑問を持つことを恐れるのでしょうか？

クルアーンが言及する、明確な思考を妨げるもの

- 伝統への盲従：否定的な思考に導くような伝統的信念と慣習は、虚偽を拒絶し真実を受け入れるのを難しくする一因となりえます。特定の考え、信念、慣習のもとで育ったという口実で、人々が知性を働かせることを阻むかもしれません。真実を求めながらも伝統への盲従がそれを阻む人々について、クルアーンに言及されています。「かれらに、“アッラーが啓示されたところに従え。”と言え、かれらは、”いや、わたしたちは祖先の道に従う。”と言う。何と、かれらの祖先は蒙昧で、(正しく)導かれなかったではないか。」

(雌牛章：170)

- 強情と傲慢：ある人は真実を確信しているかもしれませんが、それを受け入れることを拒否します。自分の利益を守るため、嫉妬のため、あるいは真実がもたらされた源を蔑(さげす)んでいるためです。クルアーンには次のように書かれています。「かれらは心の中ではそれを認めながら、不義と高慢さからこれを否認した。…」

(蟻章：14)



どのような状況にあっても知性を働かせるように、クルアーンはよびかけます。疑問を持つこと、注意を払うこと、論理的思考をすること、自身の内にある驚異的な不思議、宇宙や創造について先入観や盲目的な信念を抜きに熟考すること、に対して知性を働かせなければなりません。

- 気まぐれや欲望に従う：ある人は自身の気まぐれや欲望に従うがゆえに、真実を知りながらもそれを受け入れる勇気がありません。クルアーンでは、多くの知識を与えられた男の例を示しています。彼はその知識に基づいて行動し生活を送るのではなく、それどころか、目先の利益や欲望に従うために喜んで知識を放棄しました。大いに欲望にふけり、もう正しい決断をすることが出来なくなりました。

どのような状況にあっても知性を働かせるように、クルアーンはよびかけます。疑問を持つこと、注意を払うこと、論理的思考をすること、自身の内にある驚異的な不思議、万物や創造について先入観や盲目的な信念を抜きに熟考すること、に対して知性を働かせなければなりません。

探究や熟考を恐れる人だけが、内に矛盾するものを隠しています。まさに真の宗教とは、人を創造し、論理的思考を与えた神からのものです。神の被造物である人が、神が人に定められた宗教と矛盾することはありえません。したがって、知性と論理的思考を働かせ、疑問を持つことを恐れる必要はないのです。クルアーンは次のように認めています。「ああ、かれこそは創造し統御される御方ではないか。万有の主アッラーに祝福あれ。」

(高壁章：54)



イスラームは平和の宗教



人はイスラームにおいて平和が特別な位置づけにあると知ると、メディアで繰り返されるステレオタイプのイメージがあるため、驚きます。事実、ムスリムは日に何度もアッサラーム（平和）という言葉を繰り返し、その意味を心に刻んでいます。

アッサラム（平和の源）とは、神の御名の一つです。楽園は「平和の家」と呼ばれています。ムスリムは互いに平和の挨拶（アッサラムアライクム、“あなたの上に平安あれ”）を交わします。そして、礼拝はこの言葉を2回唱えて締めくくられます。イスラームとは、ムスリムの信仰の名前であり、平和を意味します。



イスラームはその信者たちに平和を奨励し、どんな弱い動物の権利も尊重するように命じています。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、猫に食事を与えないどころか、地面の虫を捕まえて食べる自由も与えず死ぬまで拘束したため、地獄に行くことが決定した女性のことを語られました。（ムスリム：2242）

また一方、渇いていた犬に水を与えたために天国が約束された娼婦の話もされました。（アル・ブハーリー：3280）

このようにイスラームは素晴らしい例を示しています。その規範によって信者に、人権を尊重すること、そして宗教や信条の違いに関わらず他者と共存することを求めます。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は非ムスリムを不正に扱う者、あるいは彼に能力を越えた仕事を強要した者に対して、最後の審判の日に預言者自身が彼の敵対者となり、この非ムスリムのために請願するだろう、とおっしゃいました。（アブー・ダーウード：3052）

ここで注目すべきなのは、イスラームの平和は真に公正なものだということです。この平和はそれぞれに権利を与え、压制する者の抑圧を防ぎ、強奪する者が他者の財産を奪うことを防ぎます。泥棒に不当に手に入れた物を与え、被害者をわずかばかりの金額でなだめようとする、偽りの平和を奨励することはありません。



預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は非ムスリムを不正に扱う者、あるいは彼に能力を越えた仕事を強要した者に対して、最後の審判の日に預言者自身が彼の敵対者となり、この非ムスリムのために嘆願するだろう、と警告しました。

多くの方が自分の見解を伝えるにあたり、メディアの工作と曖昧な専門用語に頼っています。その結果、同じ内容に対し多様な視点とバージョンができあがります。真実を追求し、一次情報を調査分析することで宣伝工作を暴き、物事を客観的かつ公平に評価するための労力を費やす人は、ほとんどいません。

あなたの前にあるのは、じっくりと考えるべき興味深い事実です。



真実を追求し、一次情報を調査分析することで宣伝工作を暴き、物事を客観的かつ公平に評価するための労力を費やす人は、ほとんどいません。

イスラームは現代において最も急速に拡大している宗教です

ワシントンD.C.に拠点を置くアメリカのNPOであるピューリサーチ・センターによれば、資金の不足、ムスリムの欠点、そしてムスリムの信仰のイメージを歪曲しようとするメディアの中傷にも関わらず、イスラームは世界中に驚くべき速さで広がっています。ムスリムの信仰を貶めようとする傾向は、イスラームに関する誤った情報と、イスラームを代表しているとはまるで言えないほんの少数の、凶悪なムスリムの行動に注目が集まったために、急速に増大しています。では、イスラームの拡大は強制的に起きたものか、それとも個人の選択に深く影響を与えた結果なのでしょうか。

他者の権利を守り、その文化と個人の選択を尊重するというムスリムの態度が、人びとがムスリムに興味を持つ大きな要因になっていることを、見識のある人は知っています。また同時に、このようなムスリムの態度は厚意に基づくのではなく、クルアーンに明確に書かれている原則を遂行しているということも知っています。クルアーンには次のように書かれています。「宗教には強制があってはならない。正に正しい道は迷誤から明らかに(分別)されている。・・・」(雌牛章：256)

イスラームを受け入れるのに 強制はあったのでしょうか？

人はしばしば自分の意見や影響力を強要し、自分の利益のために行動します。歴史には、この人のもつ性質による、多くの宗教や教義の事例がたくさんあります。

例えば、歴史は、植民地主義者の新世界(新大陸)への到来ののち、彼らによって引き起こされ先住民族が苦しんだ残虐行為の目撃者です。16世紀の歴史家、社会改革者、そして司祭であったバルトロメ・デ・ラス・カサスは、この残虐行為を目撃した人物です。彼は「実際、スペイン人たちは女性と子供のみを助命していた。そして、自分の仲間に対しては決して思いつかないような、最も厳しく不正で残忍な奴隷制度で成人男性を支配し、彼らの殲滅につながっていた。彼らの扱いは、事実、動物以下であった。」

出典：インディアスの破壊についての簡潔な報告9ページ、ペンギンブックス出版1992年版

新しい土地を統治するとき、ムスリムはどうしたのでしょうか

ムスリムはアンダルシア(スペイン)を8世紀の間、統治しました。

ムスリムはアンダルシア(スペイン)を西暦711年から1492年までの781年間統治しました。この間、アンダルシアは世界の文明の中心であり、一人のキリスト教徒もイスラームへの改宗を強制されませんでした。ムスリムはキリスト教徒たちの権利を守り、彼らの商売は繁盛し、ムスリムの国で重要な地位を占めました。さらに、ムスリムが支配する前に課されていたユダヤ人への不正も取り除かれました。この影響は歴史に多く刻まれています。



共にカトリックの君主であったアラゴン王フェルナンド2世とカスティーリャ女王イザベラ1世の婚姻により、連合王国、つまりはスペイン王国が成立し、彼らは全スペイン(イベリア半島)をキリスト教の支配下に取り戻しました。この結果、彼らはすべてのイスラーム的なものを阻み、スペイン異端審問を設置しました。これは、たとえ秘密裡にだとしてもイスラームを实践していると証明されたムスリムを捕え、あるいは処刑する裁判でした。

ムスリムたちは追放され、故郷を離れざるをえませんでした。驚くべきことに、アンダルシアからのムスリムの排除と同時に、ユダヤ人も追放されました。彼らはイスラームの土地に向かい、その地で安全と尊厳ある生活を手に入れました。

ムスリムはエジプトを1400年の間支配しましたが、その間、コプト教徒の地位は守られました。

ムスリムはイスラームの初期、預言者ムハンマドの教友であったアムル・ブン・アル=アースによる征服以来、エジプトを統治しました。アムル・ブン・アル=アースはコプト教徒の信仰と聖地を守っただけではなく、先の支配者である東ローマ帝国による迫害とはく奪から彼らを救いました。東ローマ帝国はコプト教徒が同じキリスト教でも異なる宗派であるために、差別していました。ムスリムが統治するエジプトにおいて、コプト教徒は宗教の自由を取り戻しました。今日、エジプトには500万人以上のコプト教徒がいます。

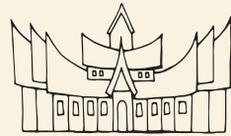


住民の80%が非ムスリムであるインドを、ムスリムは約1000年に渡って統治しました。



ムスリムは約1000年の間、インド亜大陸を統治しました。この間、彼らの法の下で非ムスリムたちの権利を守り、宗教実践の自由を与え、被っていた圧制を取り除きました。歴史家たちは、イスラームは武力で拡大したものではないこと、イスラームへの改宗に強要はなかったことを断言しています。

争いや軍事的な抜きでイスラームが到達し、現在ムスリム人口が世界で最も多い国になりました。



インドネシアは世界で最もムスリム人口の多い国であり、その2.5億人を超える人口の87%がムスリムです。ヒジュラ暦(イスラーム暦)の6世紀に、ムスリム商人のよい性質を通じて、イスラームはインドネシアに入ってきました。ただ一人のムスリム兵士も、インドネシアを侵略していません。この国が流血の惨事に直面するのは、ポルトガルの植民地主義者たちの到来以降であり、その後オランダとイギリスが続きました。



イスラームは一部のムスリム
による悪行に対峙します



このひどい矛盾はいったいどうしたことでしょう。イスラームとムスリムの間にある、この際立つ違いはなんでしょう？これらの疑問はイスラームの教えを学んだ人から聞かれるものです。イスラームではムスリムに高い道徳性を求め、人類に益するために文明を構築することを勧め、世界に平和を広げるように教えています。一方、このような教えから外れたムスリムの悪い行いばかりが目に入ります。このムスリムと呼ばれる彼らは、真の教えに従う者たちなのではないでしょうか。

この問題は複雑でいくつかの点で冷静な議論を必要とします。

- ムスリムだと自認する人や生まれながらにムスリムである人のすべてが、イスラームの教えのすべてに従い実践するムスリムとは限りません。実際、世界の沢山のムスリムはイスラームの教えの多くを無視しています。それどころかさらに悪いことに、一部のムスリムはイスラームという名前しか知らないのです。
- どのような状況においても、人の過ちがその人の宗教に起因するとされるべきではありません。このような考えは全くの間違いです。例えば、「ヒトラーの独裁は彼の宗教のせいです。」あるいは、「ヒトラーはキリスト教徒なので、キリスト教は暴力を呼び掛けるものです。」「数千万人を殺害したヨシフ・スターリンは無神論者だったから、無神論は無神論者に人を殺すことを求めます。」といった主張は正しいでしょうか。これらはいずれも客観性に欠け、不正確で適切ではありません。
- 多くの素晴らしい模範となる人々の偉大さと才能、さらに彼らによるイスラームの教えの実践、東はインドから西はスペインまでの異なる土地で歴史に刻まれた彼らの平和、科学、発展の精神について、誰もが認めます。この素晴らしい模範のもたらした沢山の影響は今日の私たちにも明白であり、現代文明の先を照らし、導きます。また、発展の継続に努める国レベルの素晴らしい模範があり、さらに世界の多くの国に、科学の諸分野における規範となる個人が見られます。

“
どのような状況においても、人の過ちがその人の宗教や宗派に起因するとされるべきではありません。”

- 分別のある人は、悪い医者 of 例を知っているからといって、現代医学を拒否し、医療による治療を止めたりはしません。同様に、良識のある人は、教職という名誉ある職業を貶める学校や教師が存在するからといって、教育に反対したり、子供に教育を受けさせないようなことはしません。つまり、イスラームはその卓越した原理によって判断されるべきであり、一部のムスリムの悪行によってではありません。
- イスラームに関係する人や敵対する人々から、イスラームに対して行われている激しい中傷攻撃にもかかわらず、世界中の多くの人が純粋なオリジナルを理解し、それを受け入れているというのは驚くべきことです。

〃

良識のある人は、教職という名誉ある職業を貶める学校や教師が存在するからといって、教育に反対したり、子供に教育を受けさせないようなことはしません。



新しい視点

決断を躊躇(ためらい)、自分のためになるチャンス
をふいにしたことが何回ありますか。チャンスを逃し
てしまった、とまだ自分を責めますか？

人の最大の恩恵は、恐れや躊躇いなく自身のために
決断を下す、そのための自由と能力にあります。

試練や障害に直面した時に確固たる決意を示すこと
は、高く評価される勇気です。個人の益を得るために
決意を示す勇気と、真実が明らかになった時に誤りを
認める決断を下す勇気は、大きく異なります。なぜなら、
後者は虚栄心や私欲に打ち勝つものだからです。
そして、これが直ちに自身の内面や性格によい影響を
及ぼすことに気づくのです。

あなたが自分にイスラームの特徴をその源から知る
機会を与えたように、あなたが読んだ内容について考
えてみてください。

この宗教の美しさに気づき、さらにイスラームとそ
の長所について知りたいのであれば、読み、学び、対
話し、問いかける余地は沢山あります。この冊子を読
み終わった今、新しい視点ですべてを見る事が出来
るでしょう。

(協会注：この本の日本語版は英語版を基に作成され
ています。クルアーンの文言は「日垂対訳注解聖クルア
ーン」(宗)日本ムスリム協会発行に準拠しています。)









本冊子を読んで下さったことに感謝します。真摯な問いかけを引き起こし、あるいは、賛否両論を含めて考える刺激となればと願っています。あなたからの意見、質問、反論などをお寄せいただければ幸いです。これらはすべて、真剣に検討させていただきます。

イスラームについてのさらなる情報はこちらへ



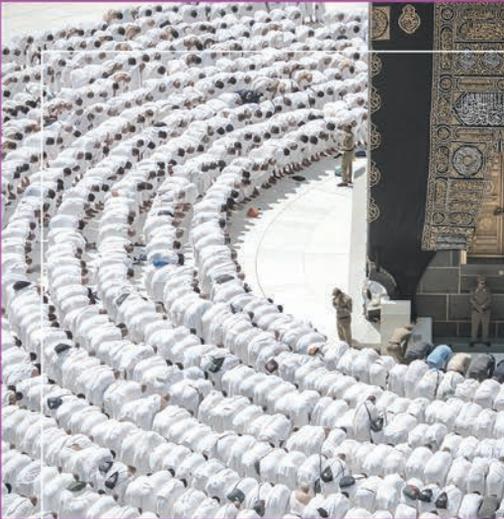
LAUNCHING
CURIOUSITY
JUST SCAN IT!!



THISISLAM.net

ご意見・ご感想をお寄せください

info@modern-guide.com



- メディアを賑わす宗教について、本当のところを少し知りたい。
- 今、世界で最も勢いがあるといわれる宗教について、ちょっと考えてみたい。
- 隣人の文化や死生観・宗教を知るのは、ワクワクする。
- 信頼できる情報を得て、自分の頭でイスラームについて判断するのもいいかも。

ひとつでも当てはまるものがあつたら、この冊子はあなたのために書かれています。

